

Ⅲ 「学修行動に関する調査」 結果報告

結果まとめ

くらしき作陽大学と作陽音楽短期大学（本学）の学生は、日常行動においては比較的穏やかで目立った問題も見当たらない。一方、学修行動においては、授業への出席率などは高いが、事後・事前学習には必ずしも熱心ではない。また、積極的に何かをしようという主体性も強くはない。しかし、過年度比較においては、学修への意欲が徐々に高まりつつあることが窺われる。

平成 29 年度の調査では、部局間に調査対象の人数（調査に応じた学生数）の多寡の違いがあった。しかし、平成 30 年度の調査では、その偏りはかなり改められた。ただし、授業外の学習時間、ボランティア活動などの学修行動に関しては部局間に長短や有無の偏りがある。それが部局の特色なのであろう。

なお、この報告が基づく「学修行動調査」で用いた質問紙は、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の一環として本学、関西国際大学、淑徳大学および北陸学院大学で実施された調査で用いられた 4 大学に共通する質問紙である。そのため、質問項目は、本学の現状に適していなかったり、IR としての妥当性が十分でなかったりした。この反省を踏まえ、質問項目は、次回調査を見据えて改訂する予定である。

1. 調査時期

2018 年 9 月 3 日（月）

2. 調査対象

学部学科\学年	1	2	3	4	計
音楽学部	41	19	27	32	119
食文化学部現代食文化学科	54	45	37	49	185
食文化学部栄養学科	73	78	82	72	305
子ども教育学部	138	119	113	126	496
短期大学音楽専攻	21	17			38
短期大学幼児教育専攻	21	27			48
計	348	305	259	279	1191

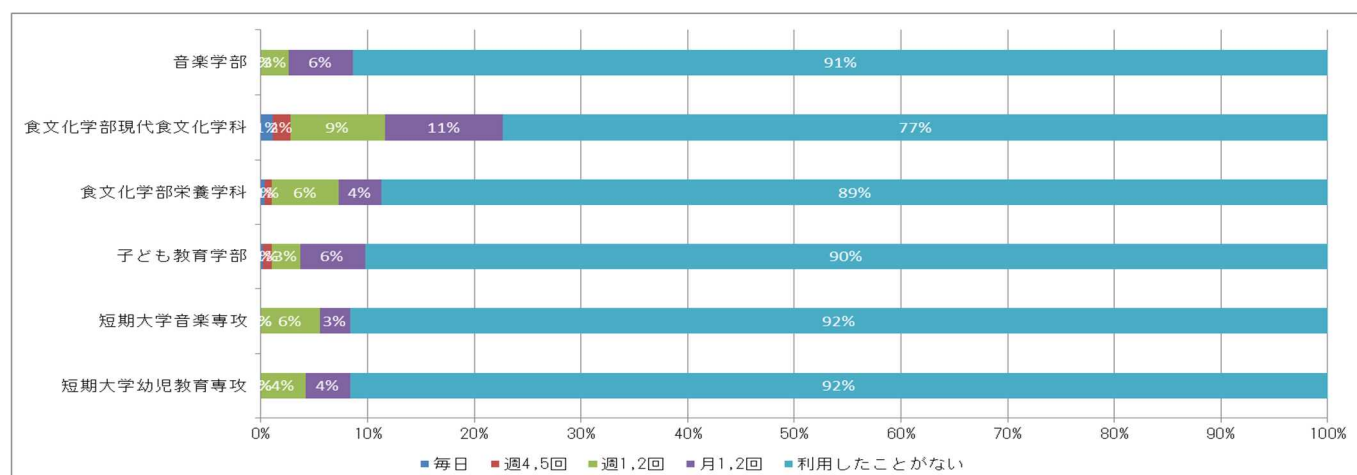
学部学科\学年	自宅生	下宿生
音楽学部	50	69
食文化学部現代食文化学科	136	48
食文化学部栄養学科	205	100
子ども教育学部	363	133
短期大学音楽専攻	14	24
短期大学幼児教育専攻	36	11
計	804	385

平成 29 年度は回答者数に著しい偏りが見られた。平成 30 年度は、音楽学部 2 年の回答が少ないが、それ以外、母集団の規模に大きな偏りは見られない。

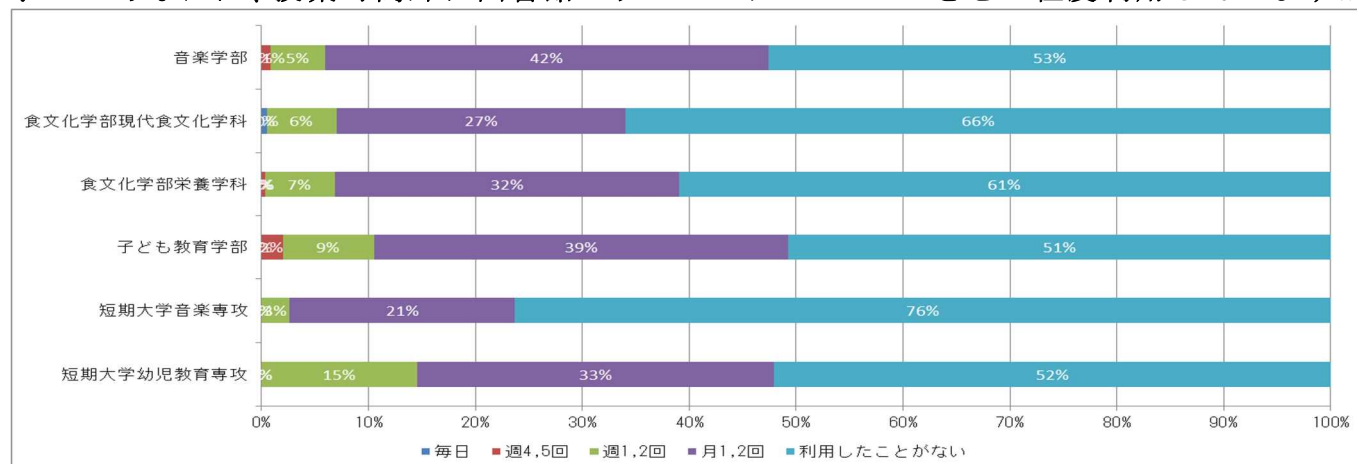
3. 調査結果

次ページ以下に述べる。

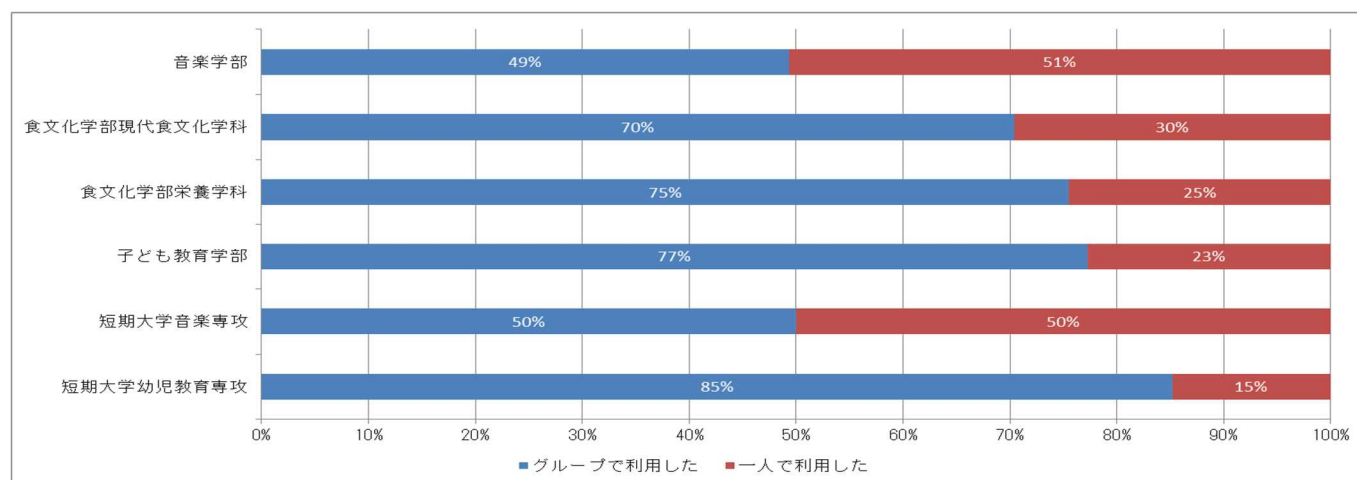
Q1-1. あなたは、授業時間外に 5 号館 302 室（アクティブ・スタディ・ベース、ASB）をどの程度利用していますか。



Q1-2. あなたは、授業時間外に図書館のラーニング・コモンズをどの程度利用していますか。



Q1-3. ラーニング・コモンズを利用した人にお聞きします。どのように利用しましたか。あてはまるものすべてをチェックしてください。



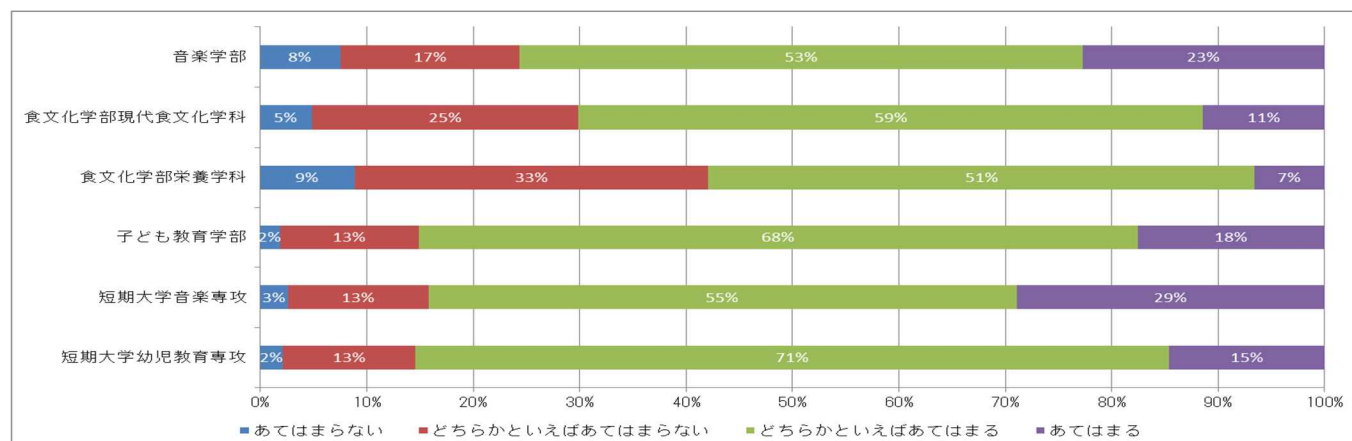
ASB の利用状況は、平成 29 年度とほぼ変わらず低調である。利用している学生が最も多いのが現代食文化学科であるが、それでも利用したことがあるのは 20%を超えた程度で、他学部については 90%以上の学生が利用していない。利用したとする回答も、授業を行う教室として指

定されて利用したケースが相当数含まれているのではないかとと思われる。コンセプトや利用方法等について一層の周知が必要である。

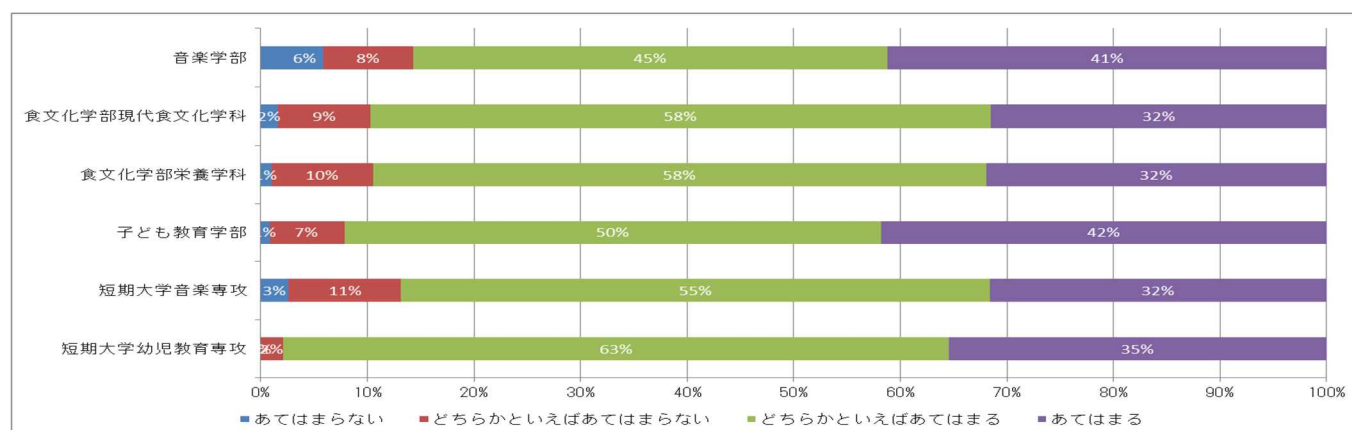
ラーニング・コモンズについても、平成 29 年度に比べると利用頻度が減少している。特に音楽学部と子ども教育学部の学生の利用は大幅に減少した。また、音楽学部と短大音楽専攻では、平成 29 年度同様に 1 人で利用したという回答が過半数であり、ラーニング・コモンズ本来の使用目的からすると違和感が拭えない。

Q2. あなたの大学生活は、全体的にうまくいっていますか。

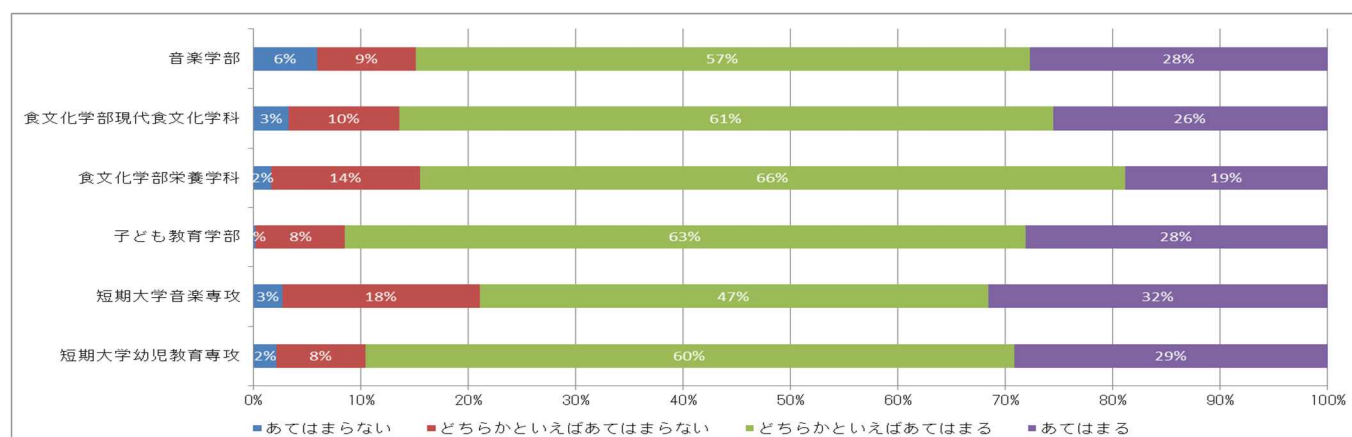
1) 学習面で、うまくいっている



2) 対人関係で、うまくいっている



3) 生活全般で、うまくいっている



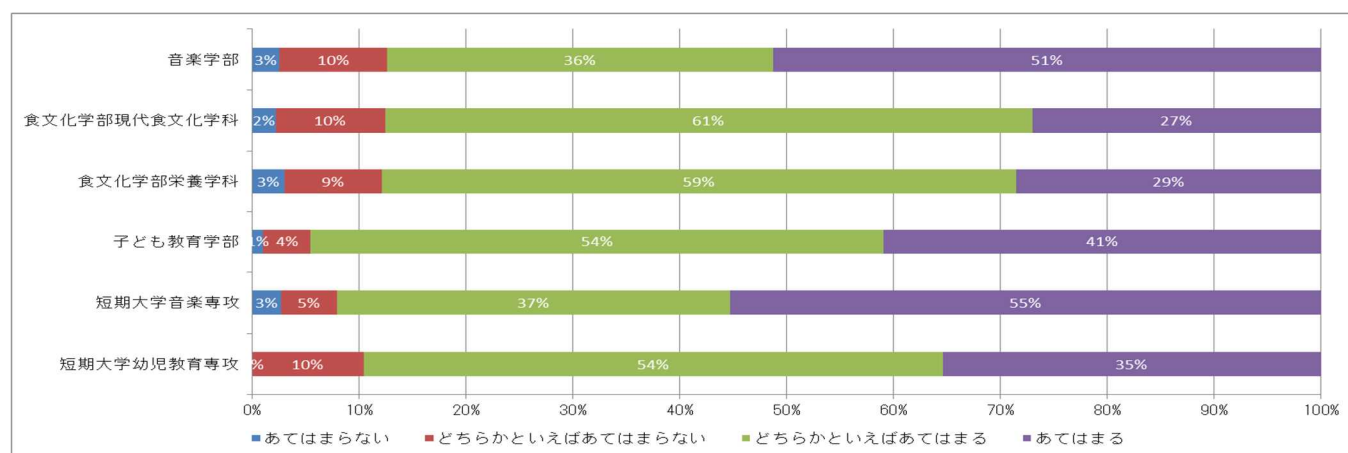
学修面の傾向は平成 29 年度とほぼ同じで、食文化学部学生、特に栄養学科学生の評価が低い。短大音楽学科ではポジティブな回答が 14%増加した。

対人関係は、全体として「うまくいっている」という回答が増加しており、特に音楽学部で 14%、子ども教育学部で 16%増加した。一方、短大ではネガティブな回答が増加した。

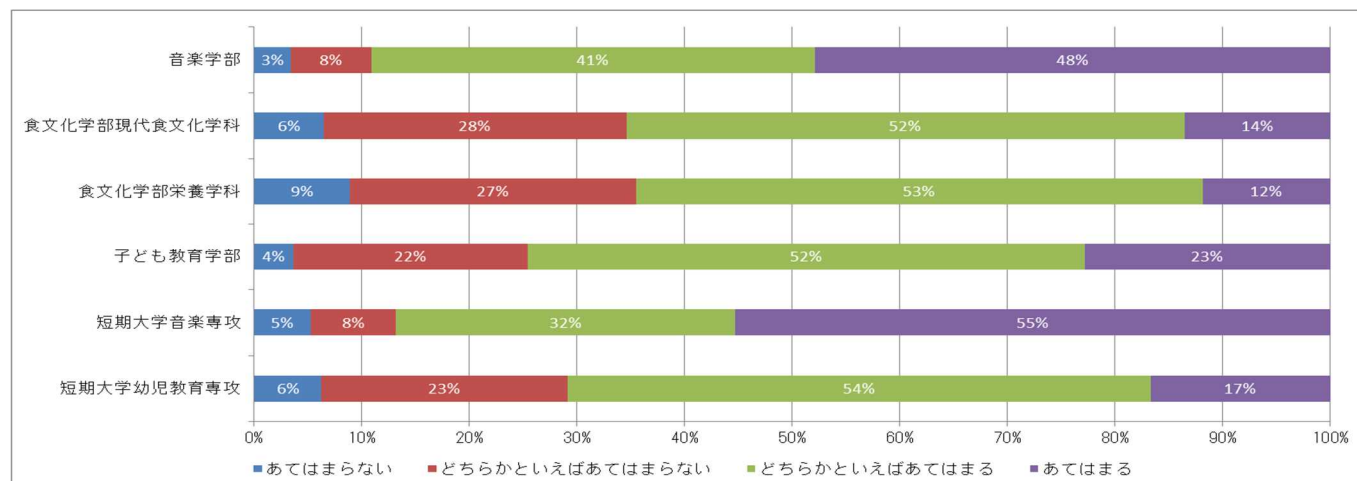
生活面でも全体としてポジティブな回答が増加している。平成 29 年度は、短大 2 専攻でネガティブな回答が目立っていたが、幼児教育専攻ではかなり改善された。音楽専攻では、約 20%がネガティブな回答をしており、全体でもっとも高い。一方で、「あてはまる」（＝うまくいっている）という回答も 32%ある。平成 29 年度の結果と比較すると 17%上昇しており、この割合は 6 部局中、最も高い。

Q3. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。

1) 学科・専攻の学びは、自分の興味・関心に合っている



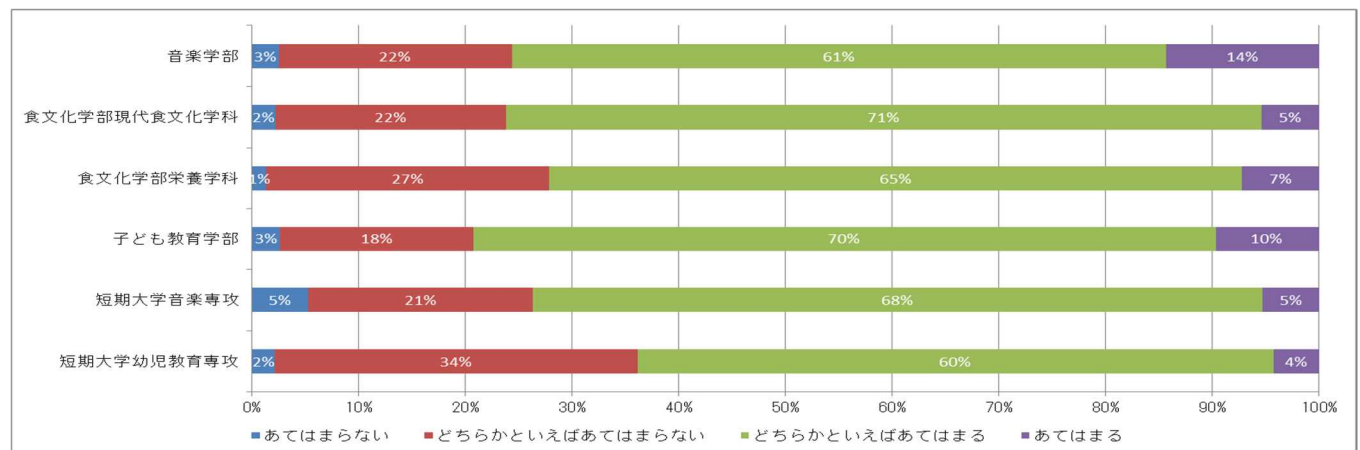
2) 講義を受けたい学科・専攻の先生がいる



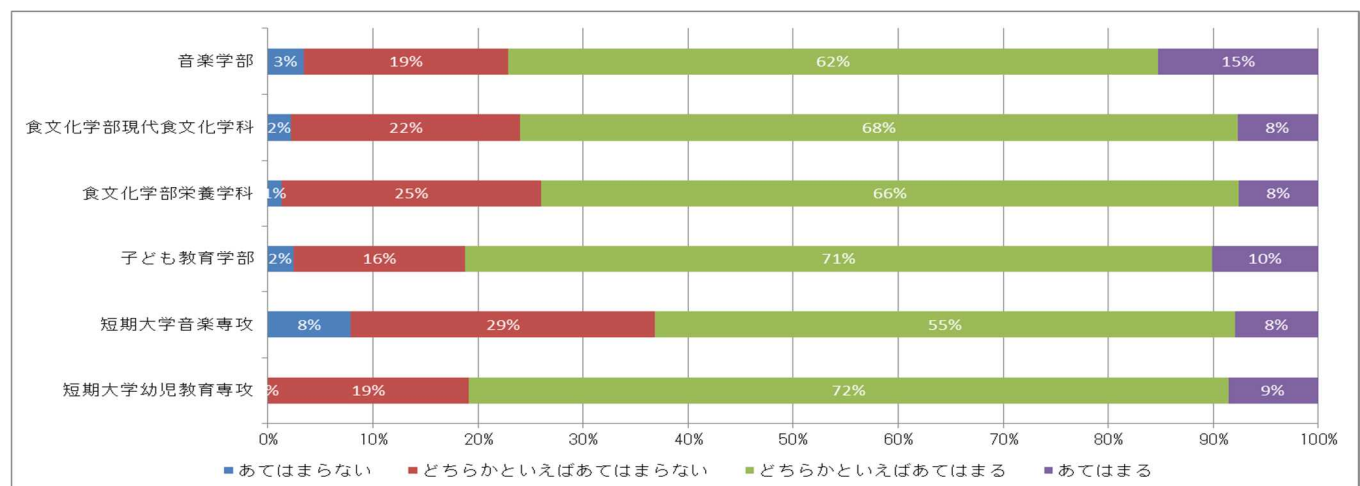
平成 29 年度と同様の傾向であり、音楽学部と短大音楽専攻においてポジティブな回答が目立つ。「1) 学科・専攻の学びは、自分の興味・関心に合っている」でも「2) 講義を受けたい学科・専攻の先生がいる」でも、子ども教育学部学生のポジティブな回答が大幅に増加している。

Q4. あなたの普段の意識や体調についてお聞きします。次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。

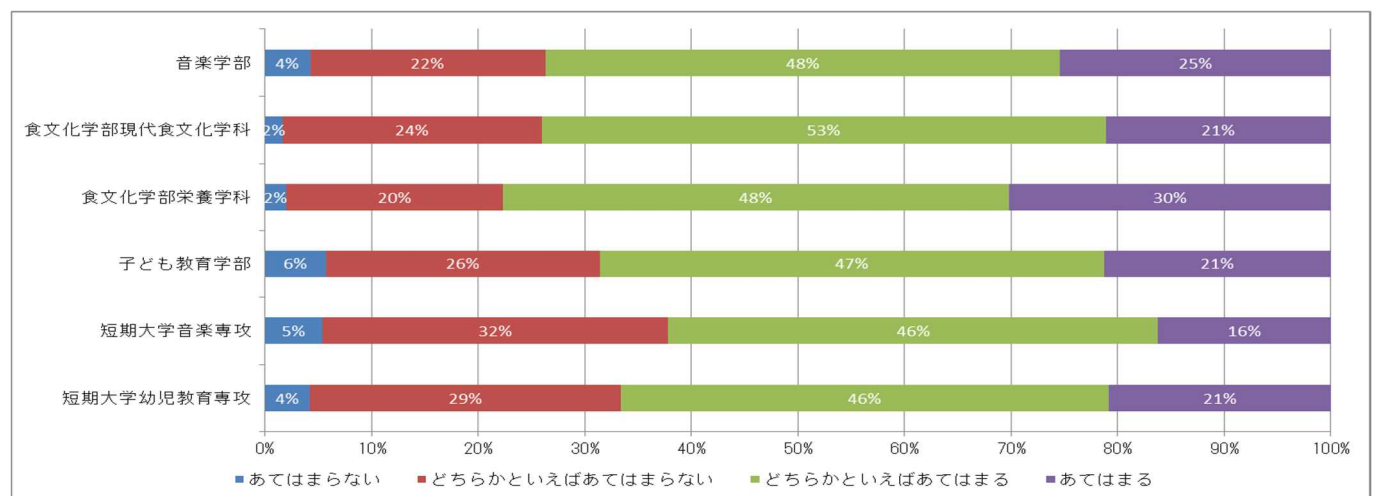
1) 自分は必要とされている存在である



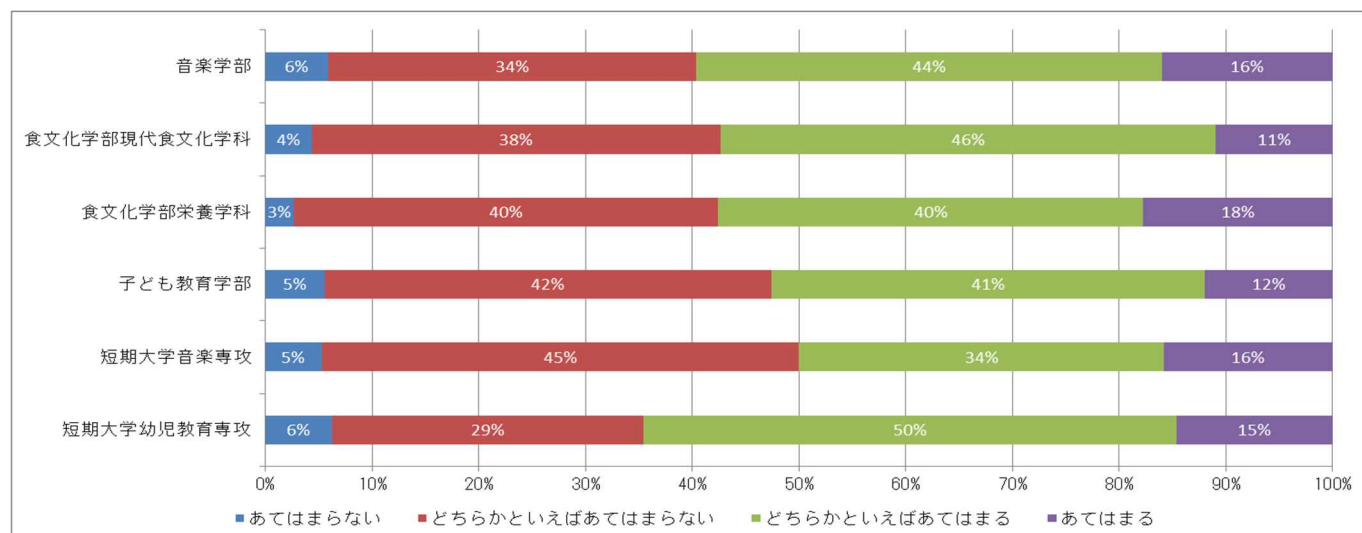
2) 自分は人の役に立つことができる



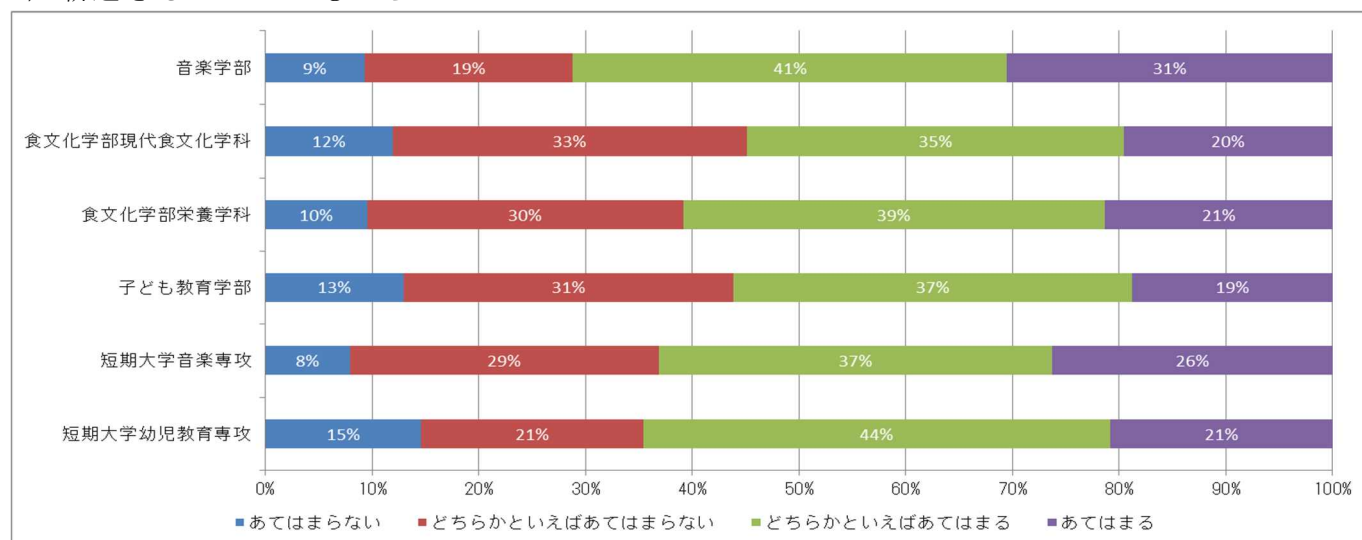
3) 物事の取りかかりが遅い



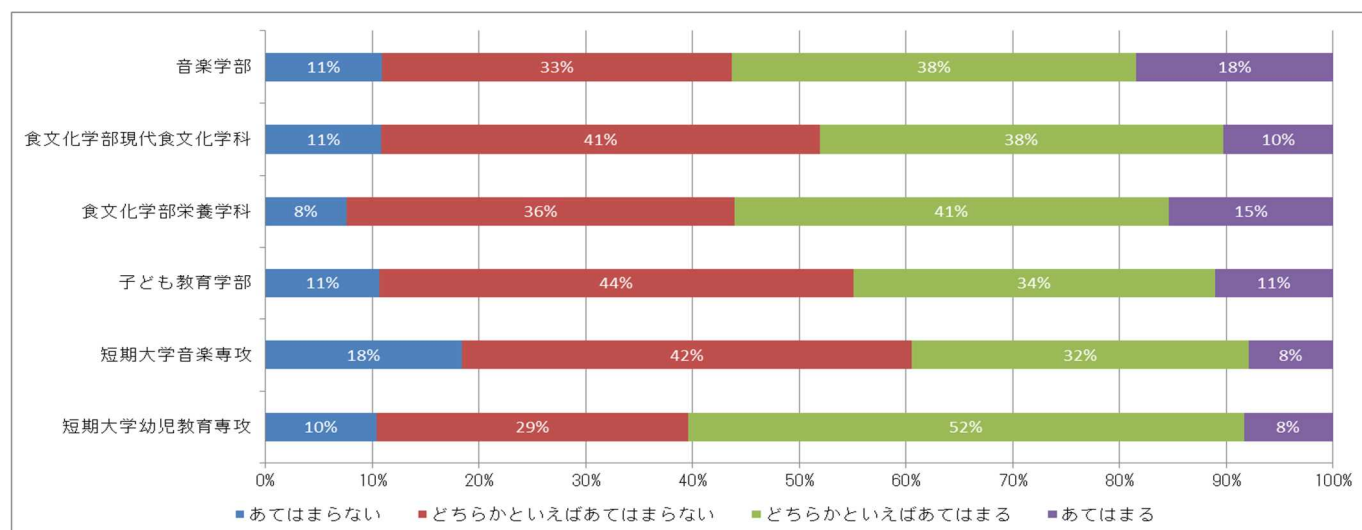
4) 物事をてきばきとこなせない



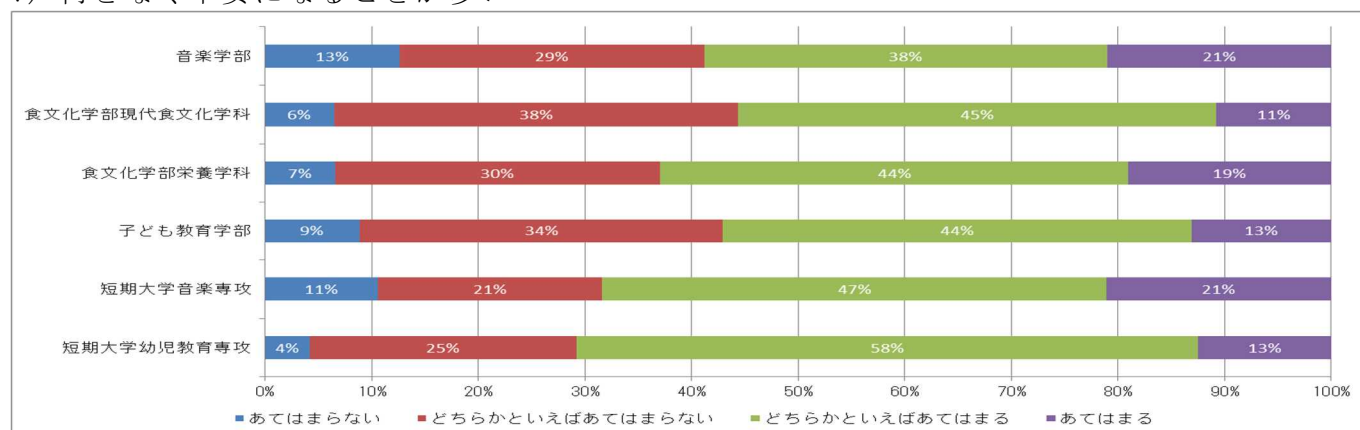
5) 朝起きるのがとてもつらい



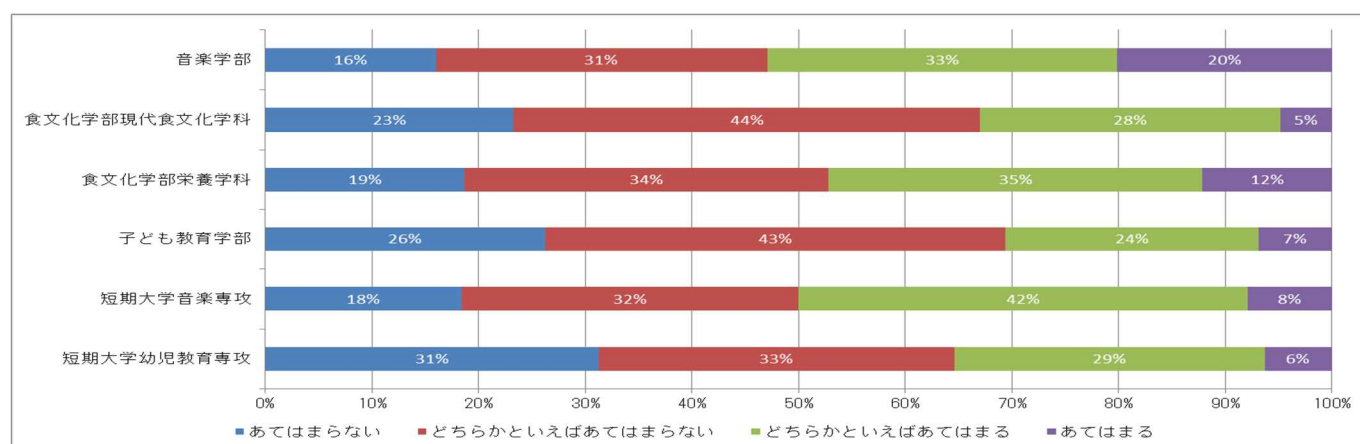
6) 日中、眠くてしかたがないことが多い



7) 何となく不安になることが多い



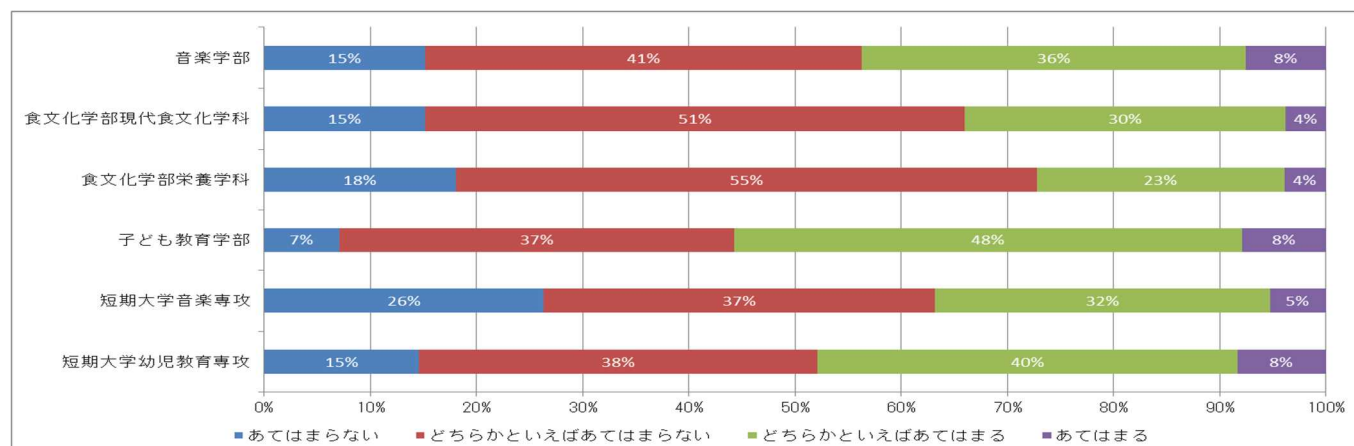
8) いつも何かに追い立てられているような気がする



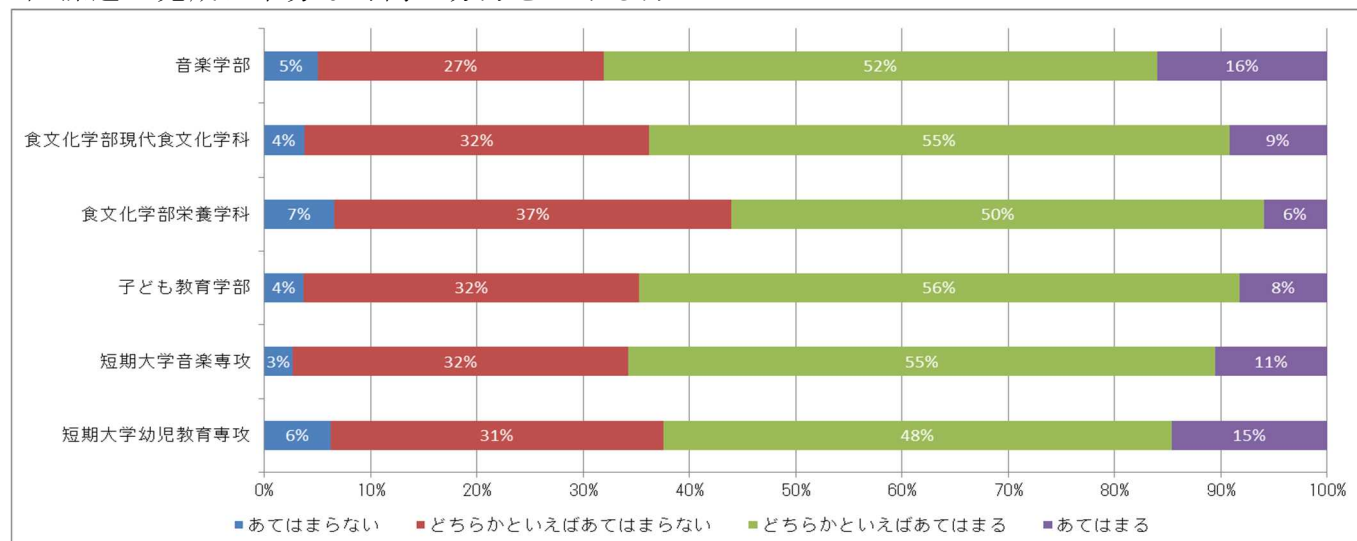
全体の傾向は、平成 29 年度の結果とほぼ同様である。「必要とされている存在」かどうかを問う 1) に関しては、平成 29 年度にネガティブな回答が多かった短大音楽専攻で肯定率が上昇した。一方、短大幼児教育専攻では、逆にネガティブな回答が増加した。平成 29 年度に「2) 人の役に立つことができる」という項目で肯定率が低かった短大音楽専攻では、平成 30 年度も肯定率は依然として低い。「3) 物事の取りかかりが遅い」という項目以降の項目についても、平成 29 年度の結果とほぼ同様だが、現代食文化学科と子ども教育学部ではポジティブな回答がやや多い。

Q5. あなたの普段の意識や行動についてお聞きします。次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。

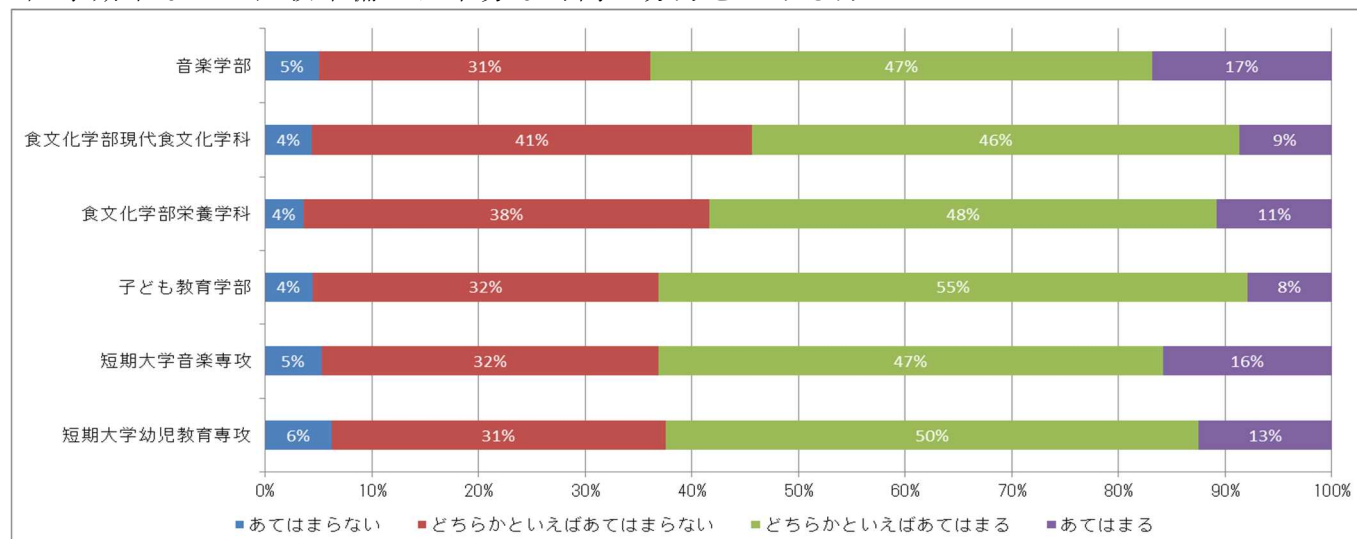
1) 学内外の行事やボランティアなど、様々な活動に積極的に参加する方だ



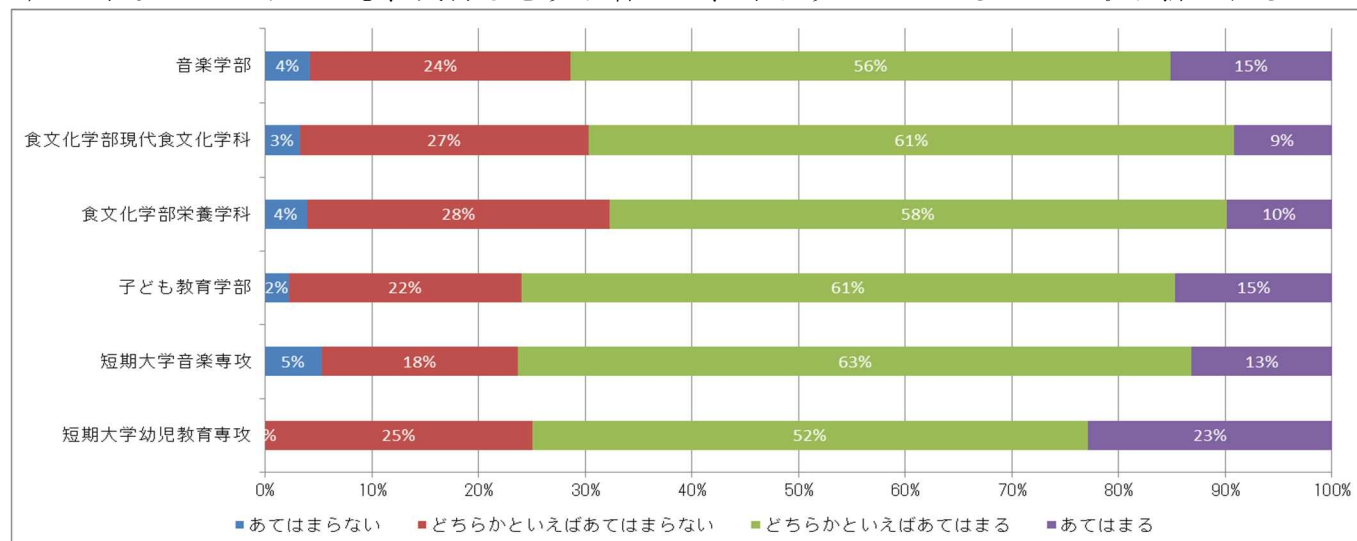
2) 課題の完成に十分な時間と労力をかける方だ



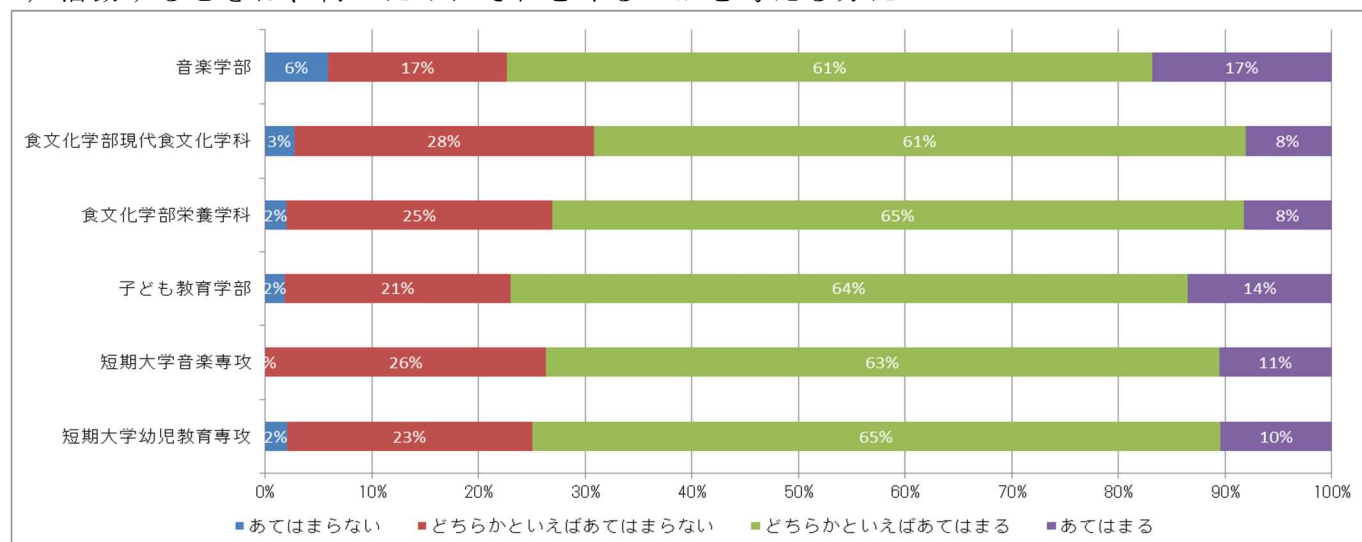
3) 学期末などの試験準備には十分な時間と労力をかける方だ



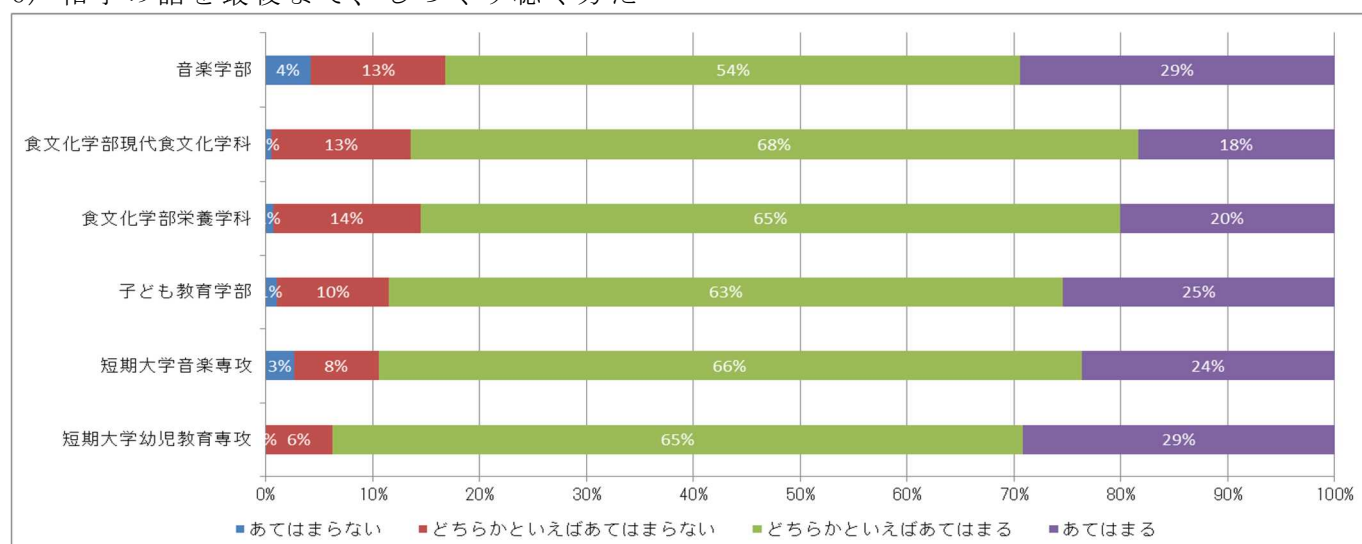
4) いやなことがあっても、気持ちを切り替えて、やろうとしていることに取り掛かれる



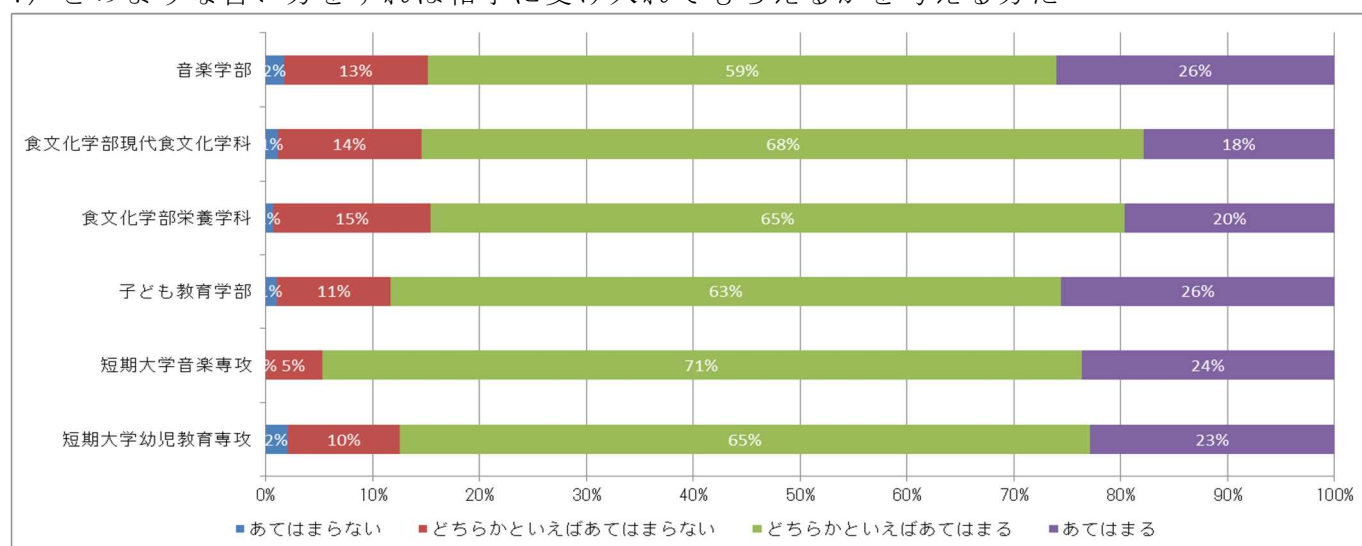
5) 活動するときは、何のためにそれをやるのかを考える方だ



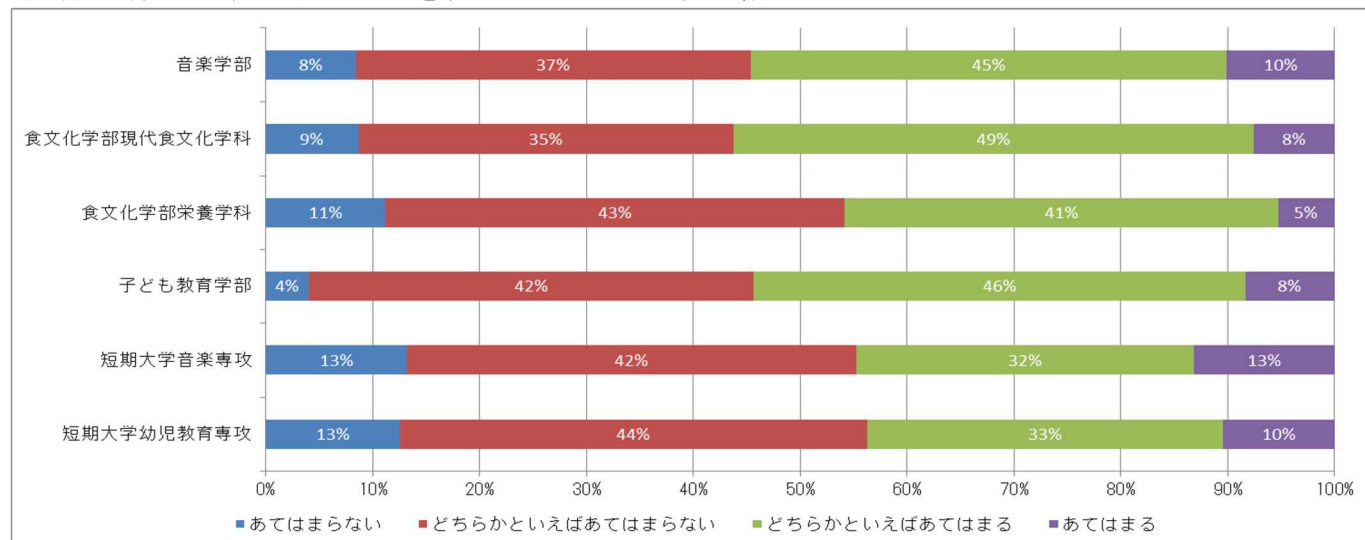
6) 相手の話を最後まで、じっくり聴く方だ



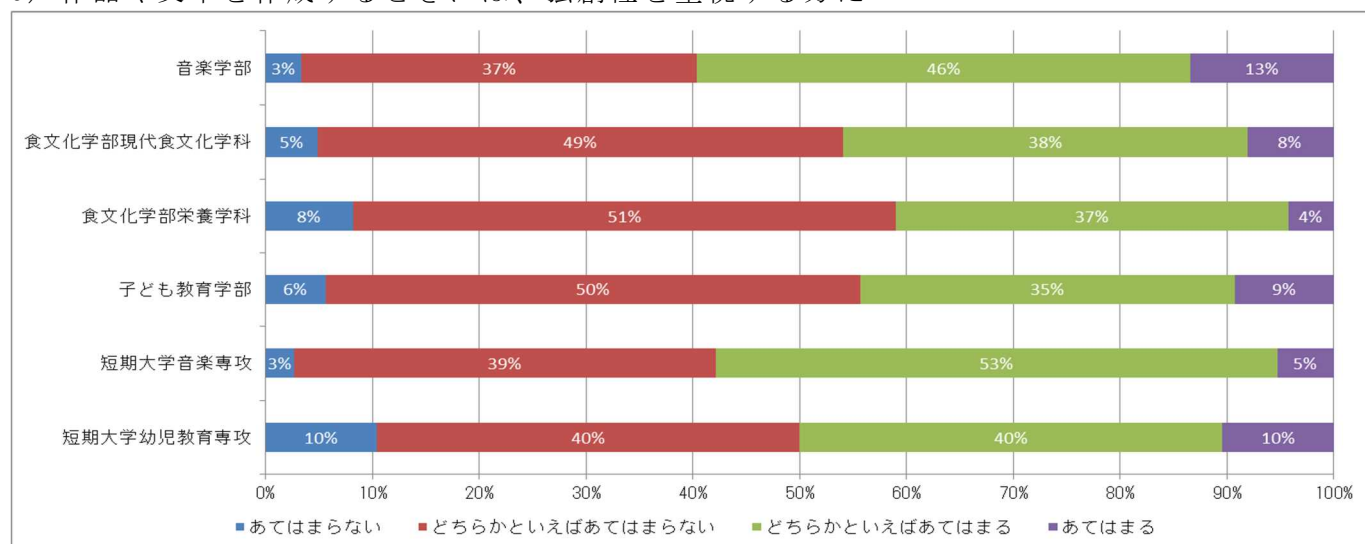
7) どのような言い方をすれば相手に受け入れてもらえるかを考える方だ



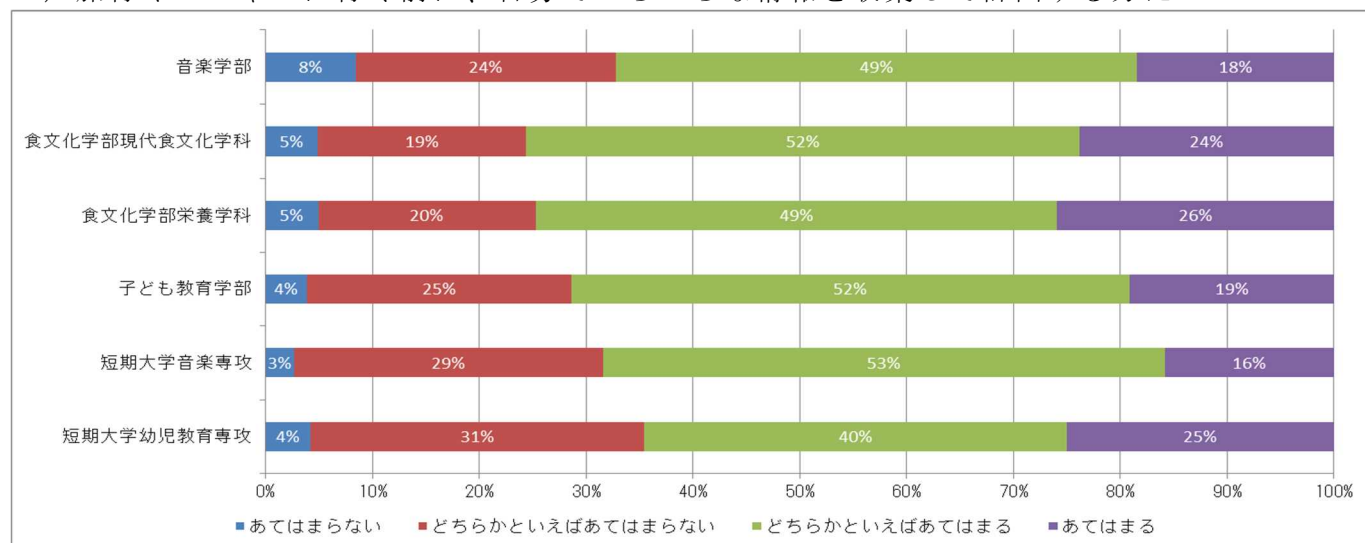
8) 話し合いの場でみんなの意見をまとめるように働きかける方だ



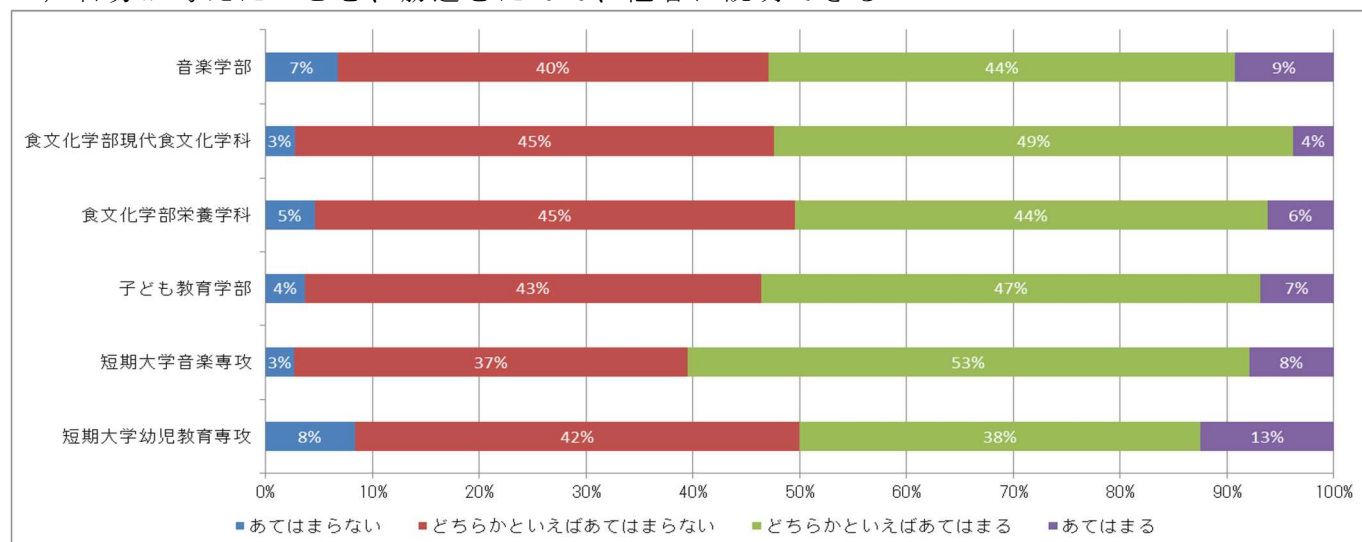
9) 作品や文章を作成するときには、独創性を重視する方だ



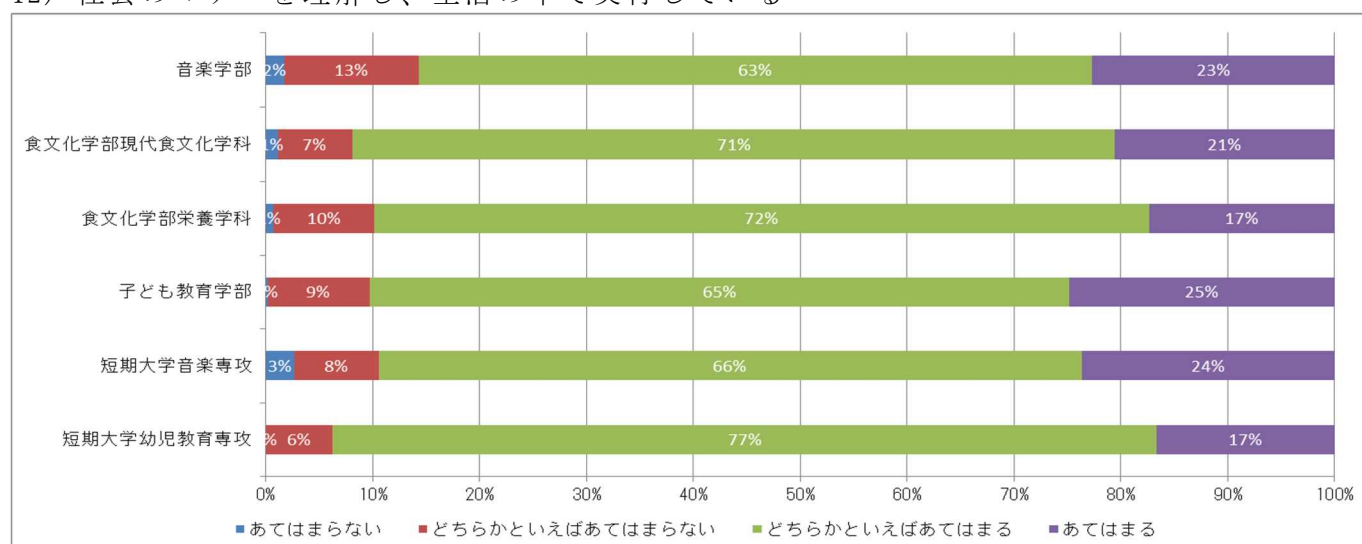
10) 旅行やレジャーに行く前に、自分でいろいろな情報を収集して計画する方だ



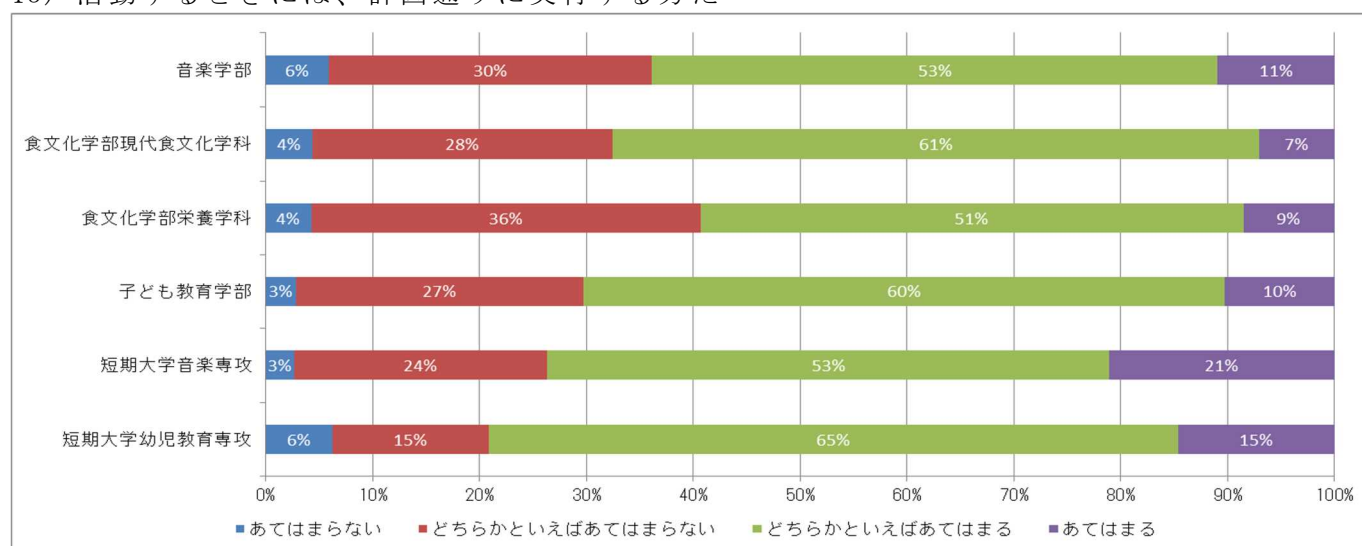
11) 自分が考えたことを、筋道をたてて、他者に説明できる



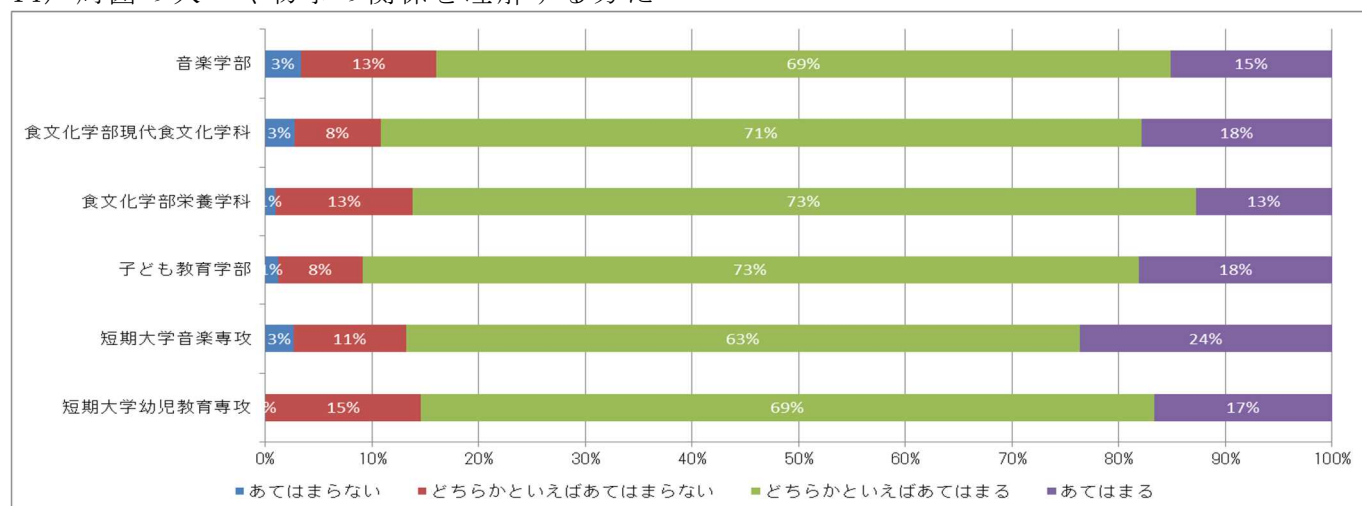
12) 社会のマナーを理解し、生活の中で実行している



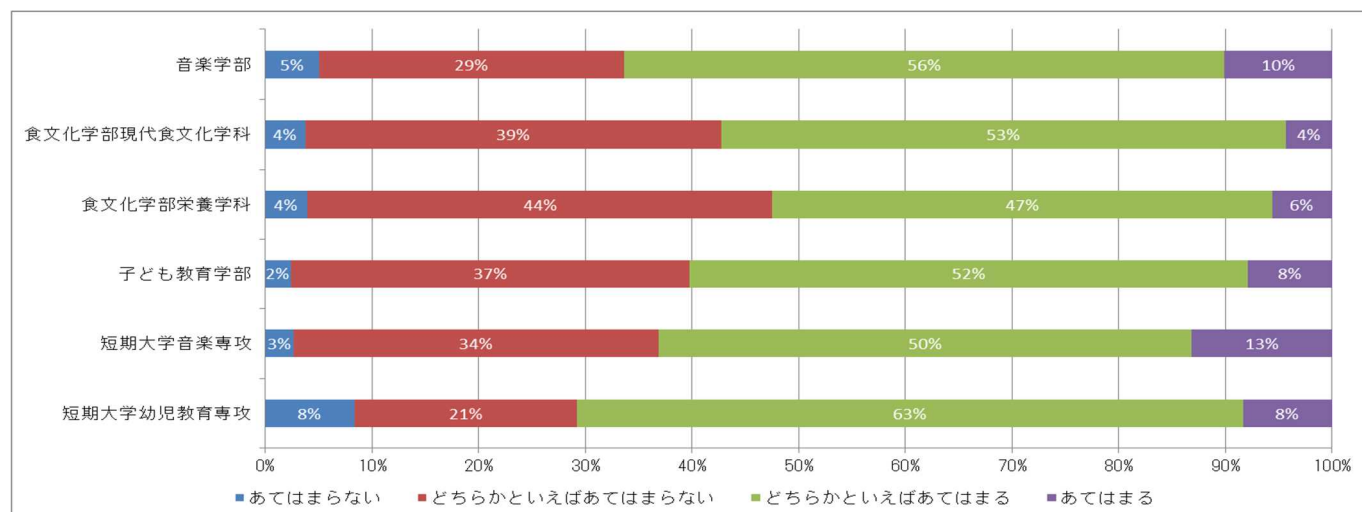
13) 活動するときには、計画通りに実行する方だ



14) 周囲の人々や物事の間を関係する方だ



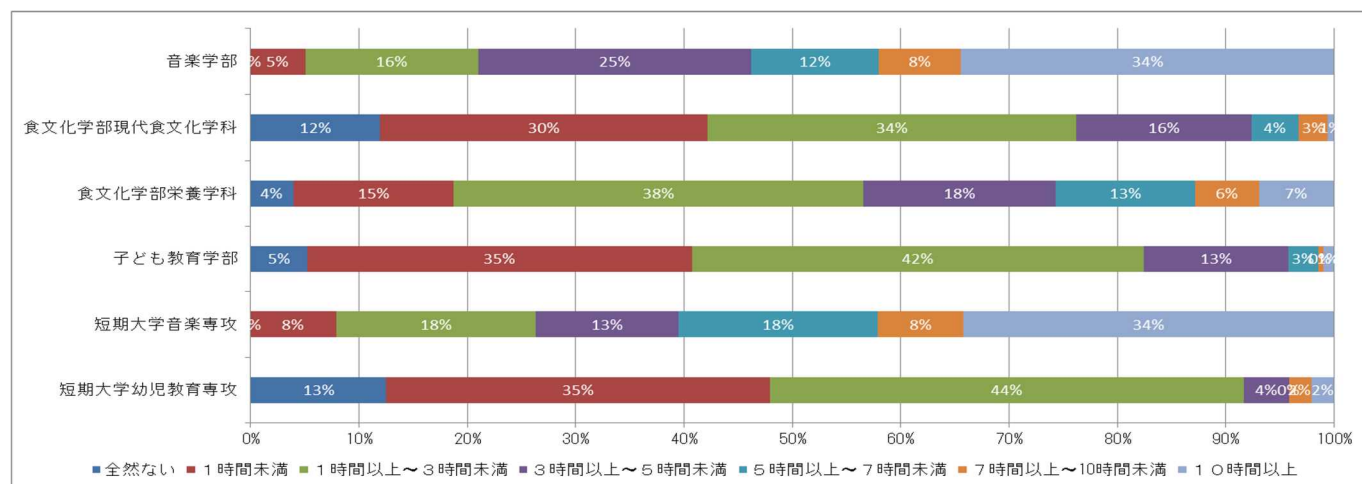
15) 活動をするときは現状を分析し、課題を明らかにするのが好きだ



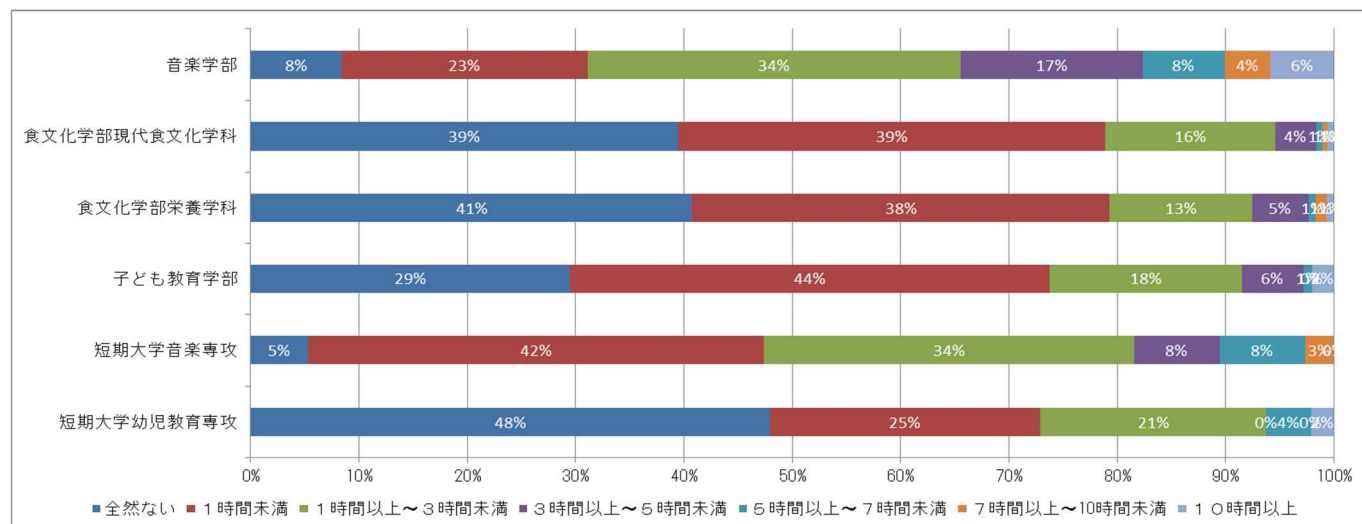
全体を俯瞰すると、短大幼児教育専攻ではポジティブな回答がやや多いが、部局間に顕著な差異はない。平成 29 年度の結果と比較しても、ほぼ同じ傾向である。

Q6. あなたは現在、次の活動に 1週間あたりどのくらいの時間を費やしていますか。

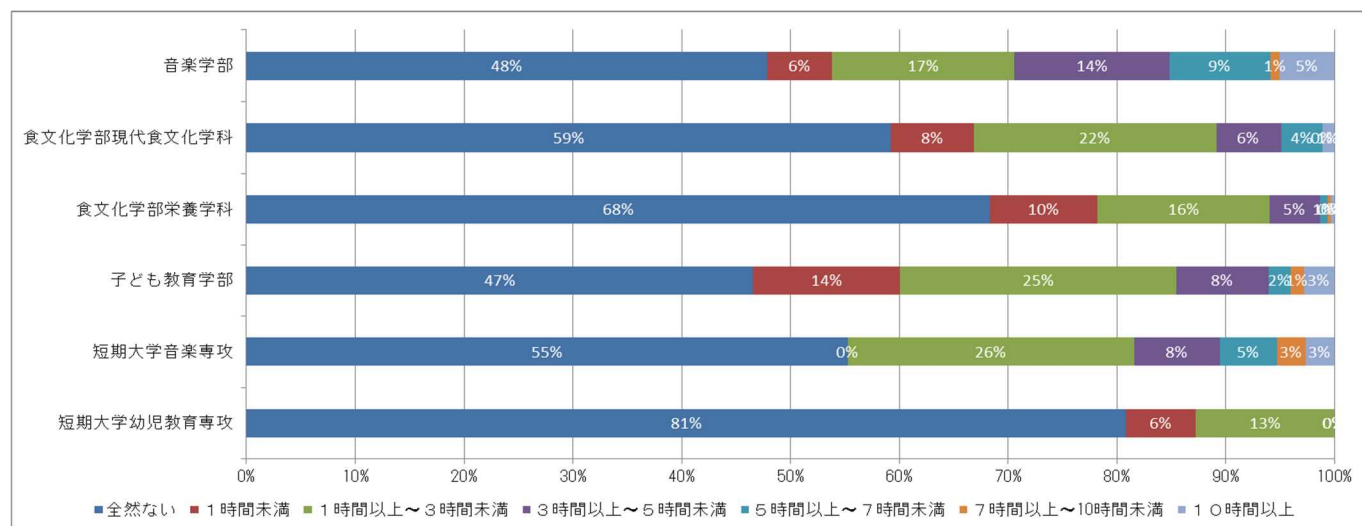
1) 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



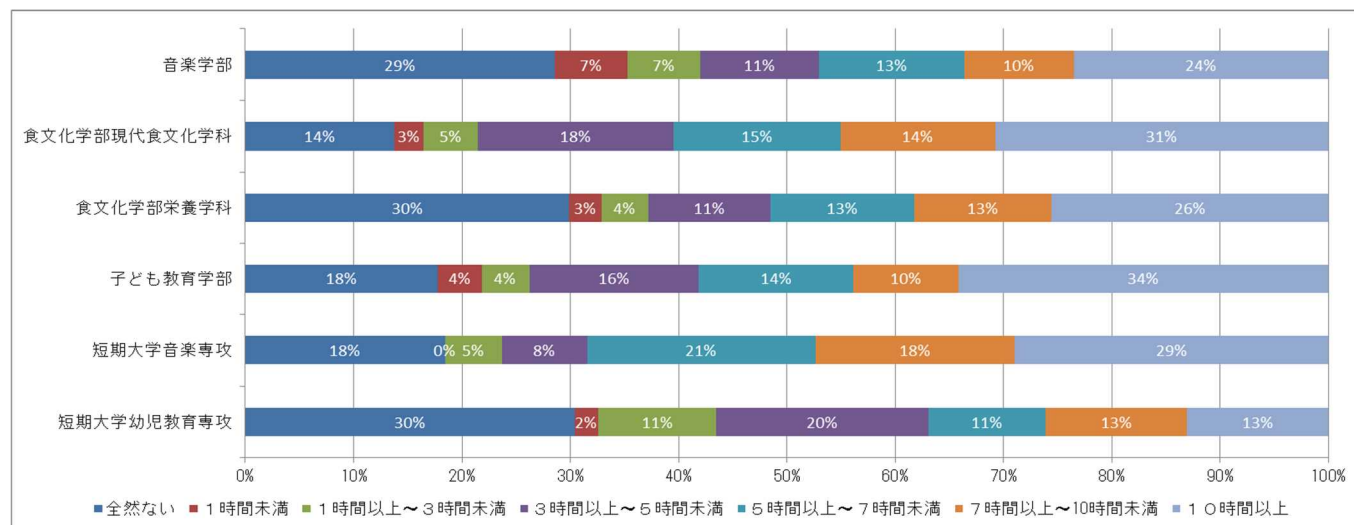
2) 授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）に関連しない勉強をする



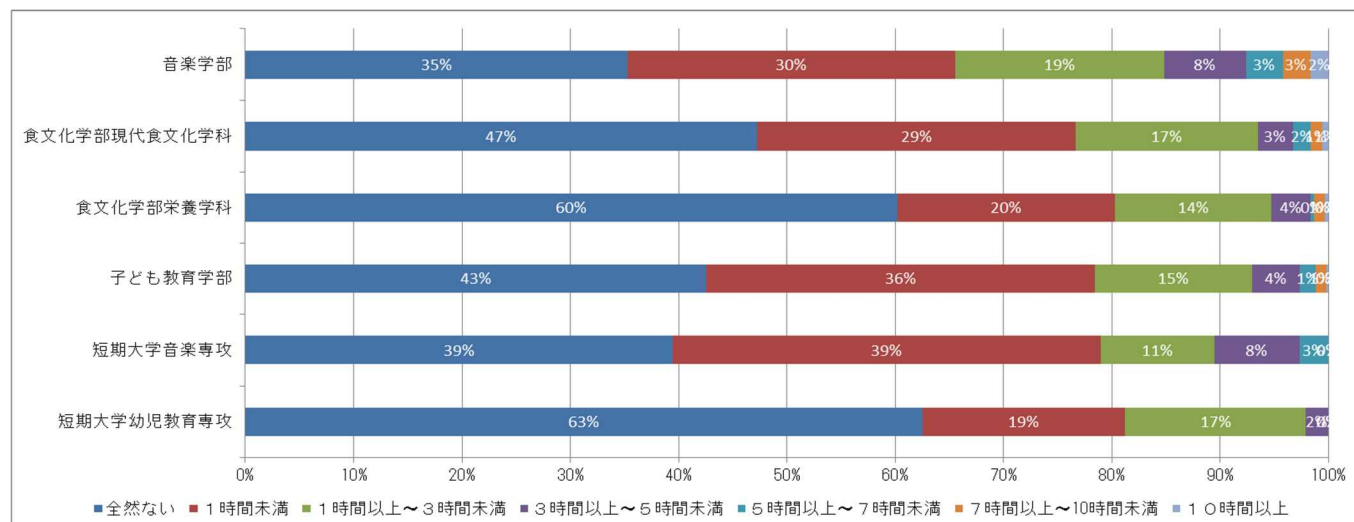
3) 部活動や同好会、サークルに参加する



4) 大学外でアルバイトや仕事をする



5) 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

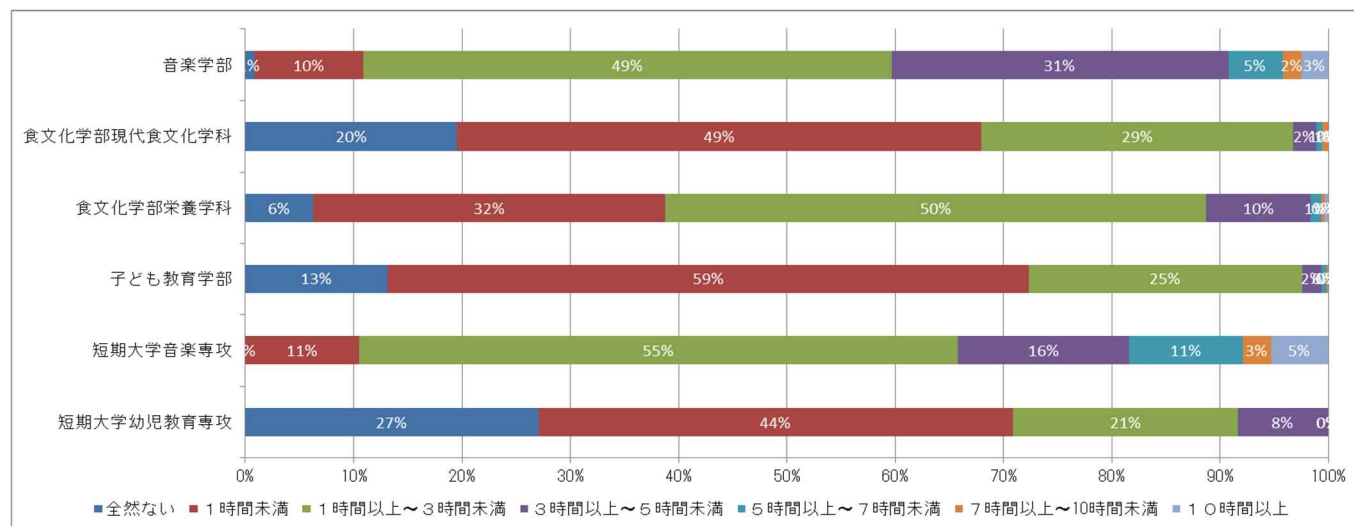


平成 29 年度と同様、音楽学部と短大音楽専攻で学習時間の長さが目立つ。これは楽器の練習時間が長いのだと考えられる。食文化学部と短大幼児教育専攻では学習時間が少なく、授業の準備や復習にすら時間をかけない学生が 10%以上いる。

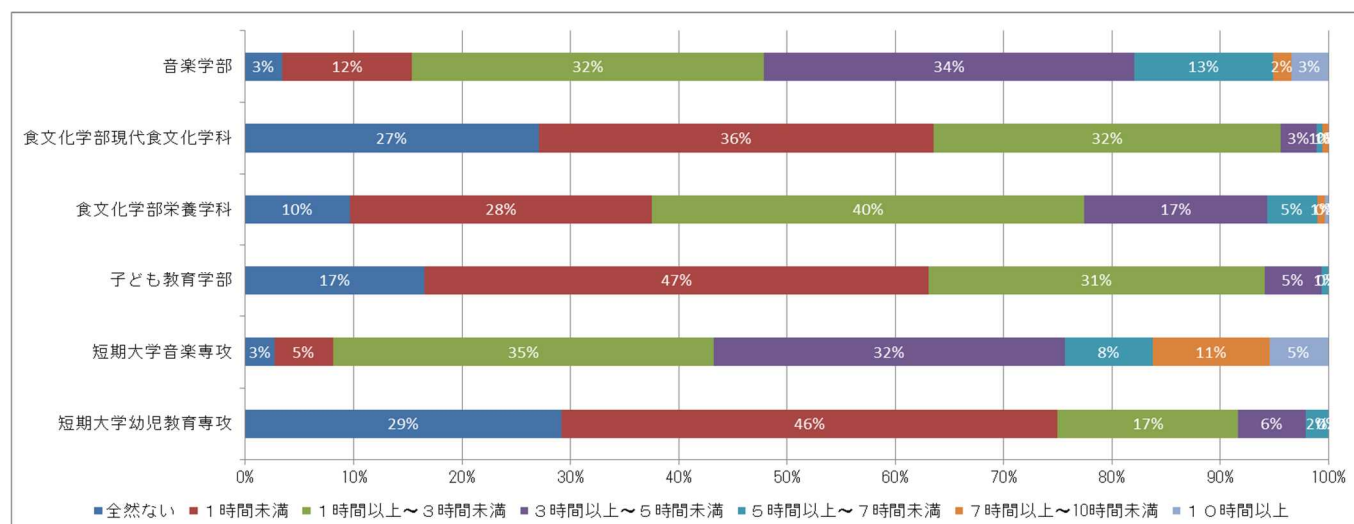
特に、短大幼児教育専攻には、授業に関連しない学習は全くしない学生が 50%近くいる。また、学生の 81%は部活動にも参加していない。この割合は、平成 29 年度のそれと比べると 30%以上高く、目立って高い。一方、アルバイトをしている学生の割合は 30%であり、6 部局中で一番低い。読書時間 0 の学生も 63%おり、読書時間は 6 部局中、最少である。短大幼児教育専攻生は普段どのような生活をしているのか、追加調査をすべきではないか。

Q7. あなたは現在、次の活動に 1日あたりどのくらいの時間を費やしていますか。 平日の場合と休日の場合、それぞれについてお答えください。

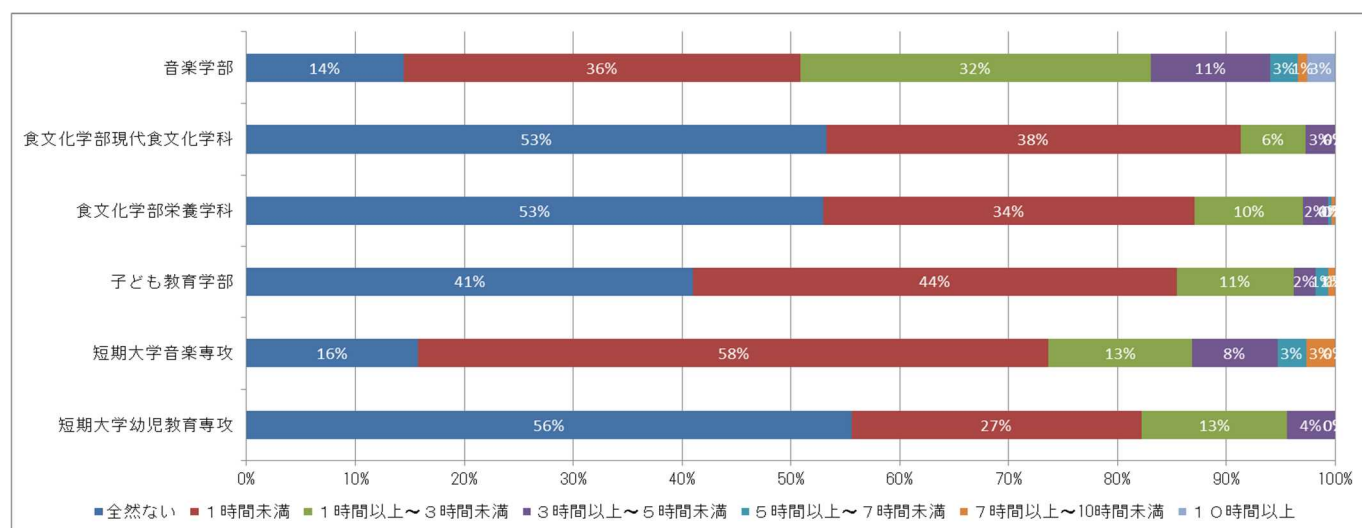
1) 平日_授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



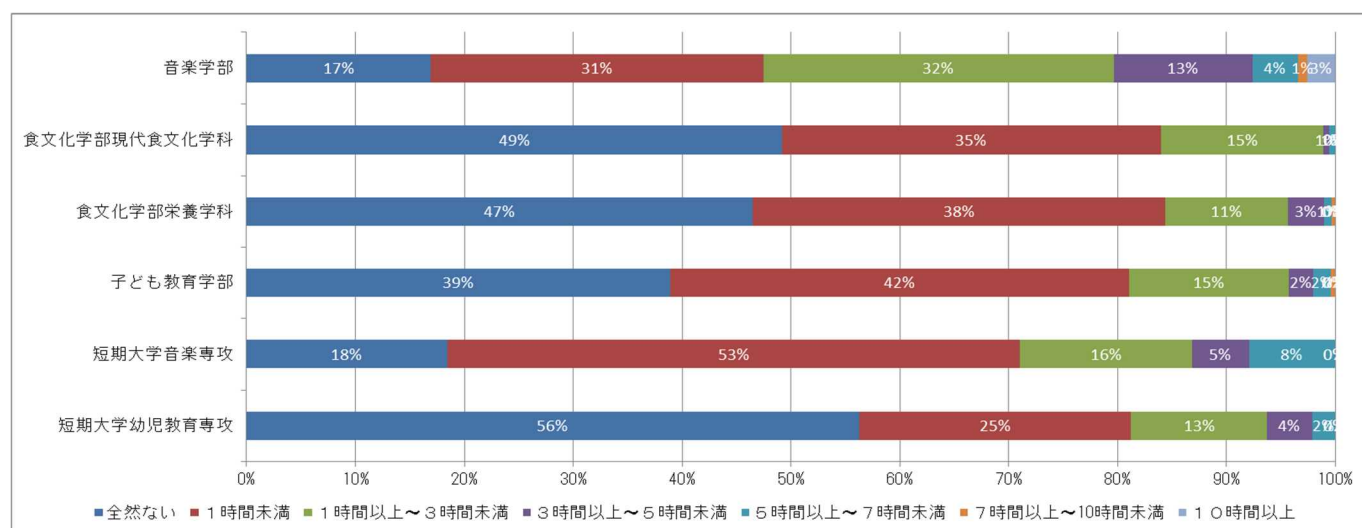
1) 休日_授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）課題や準備学習、復習をする



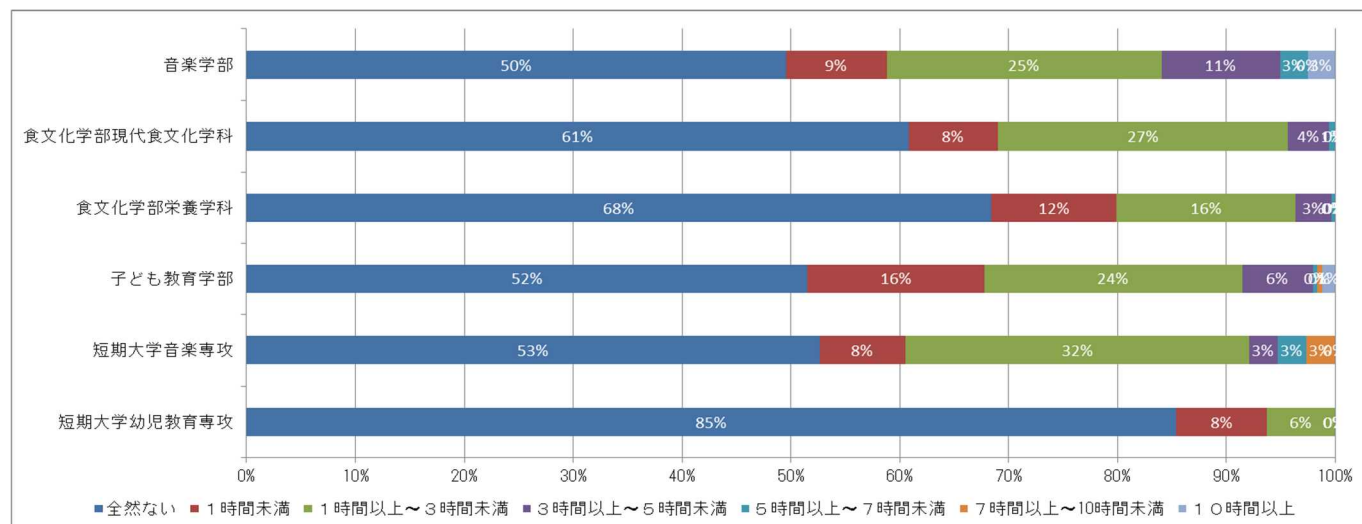
2) 平日_授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）に関連しない勉強をする



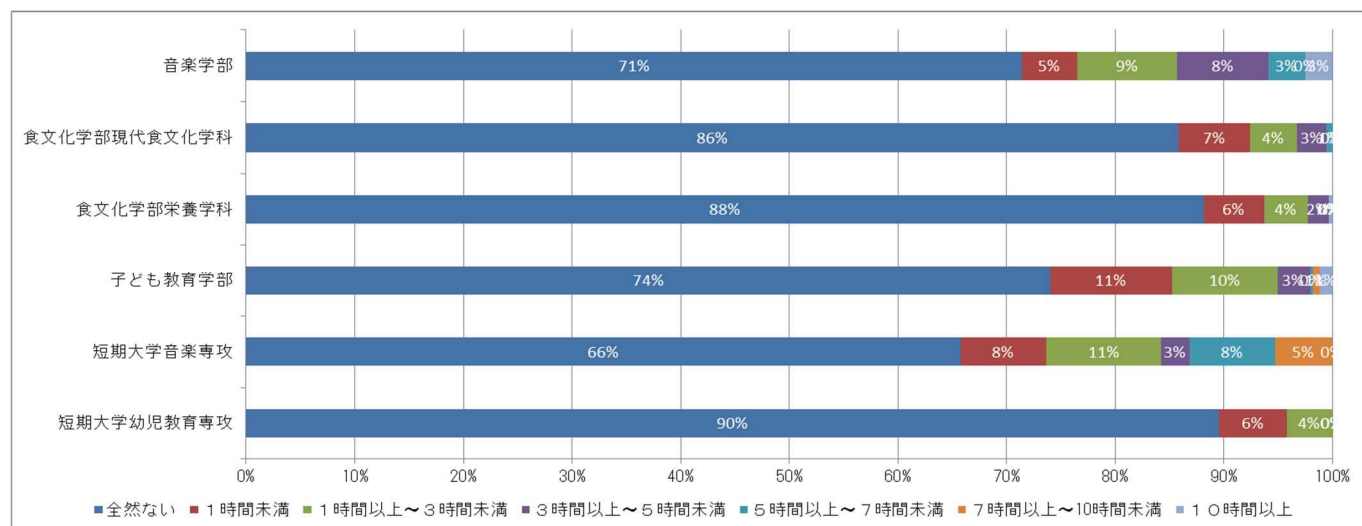
2) 休日_授業（レッスン）時間以外に、授業（レッスン）に関連しない勉強をする



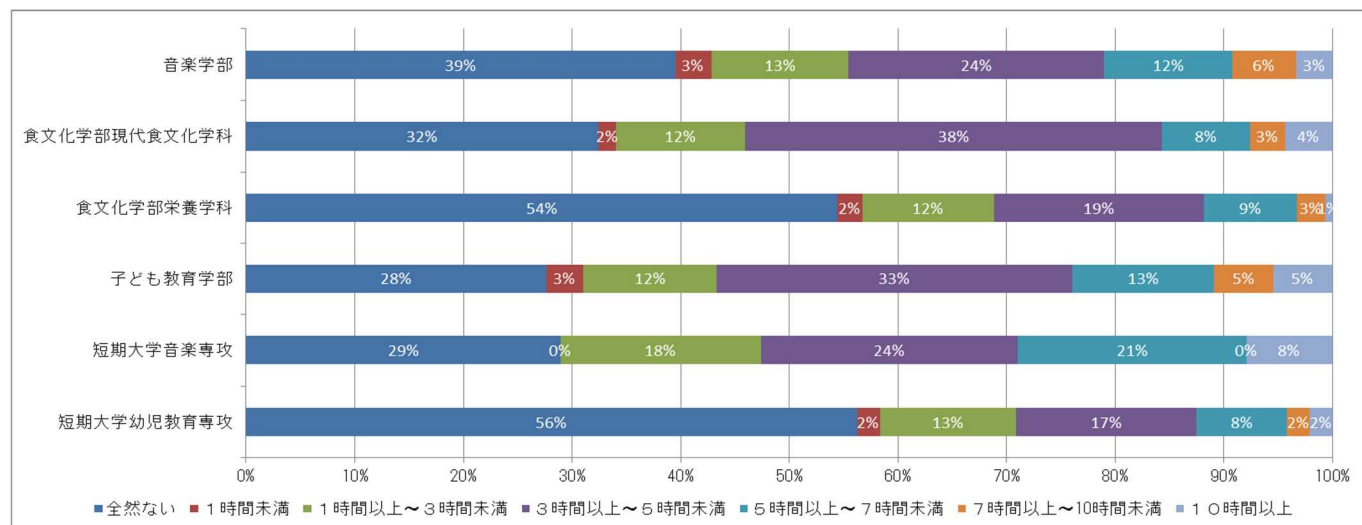
3) 平日_部活動や同好会、サークルに参加する



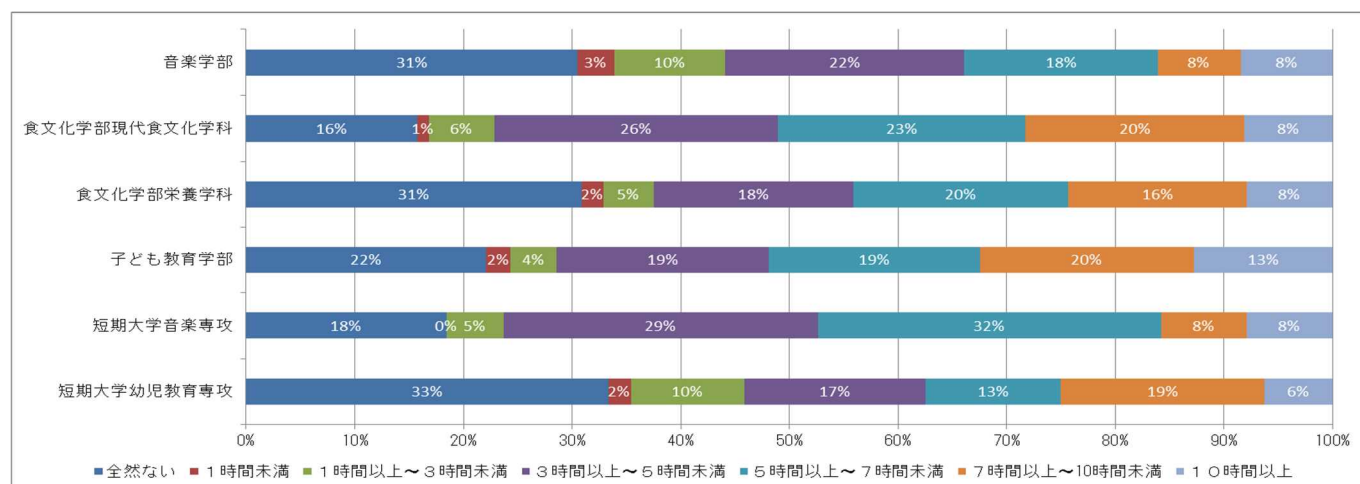
3) 休日_部活動や同好会、サークルに参加する



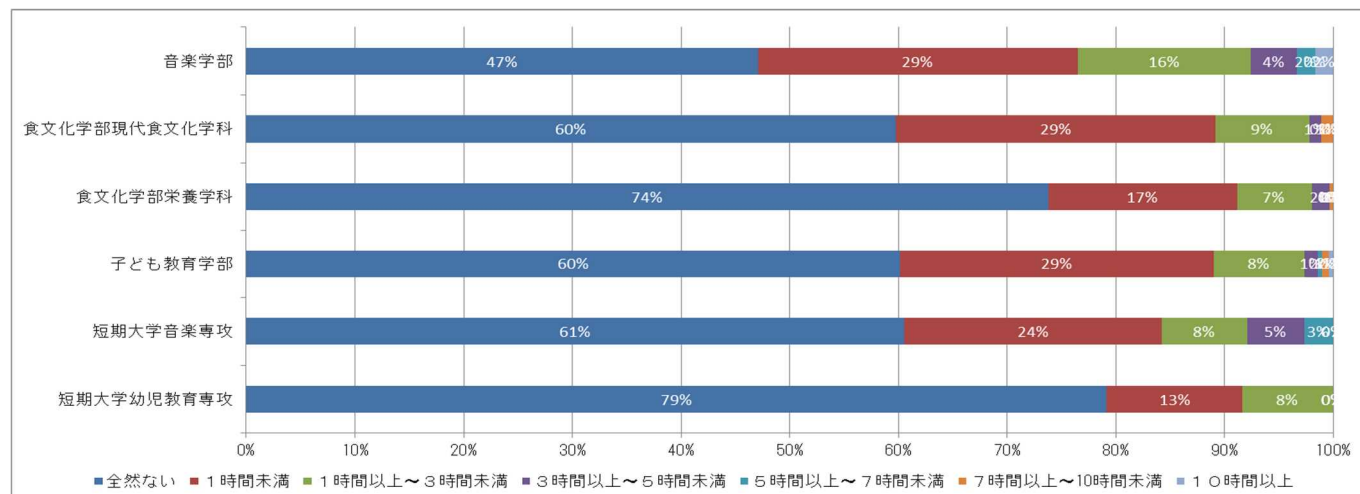
4) 平日_大学外でアルバイトや仕事をする



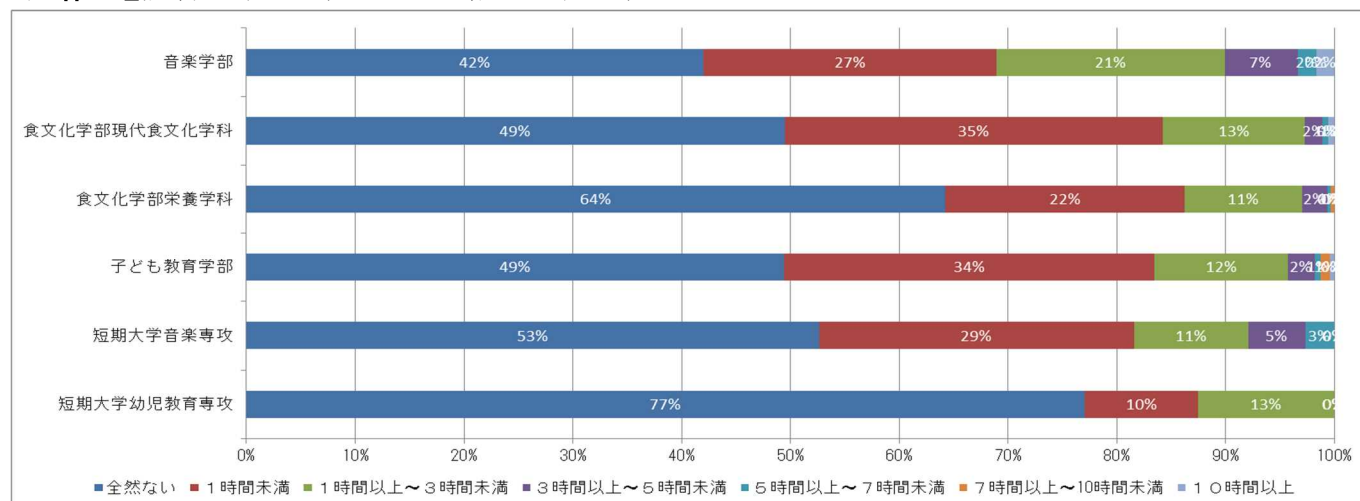
4) 休日_大学外でアルバイトや仕事をする



5) 平日_読書をする（マンガ・雑誌を除く）



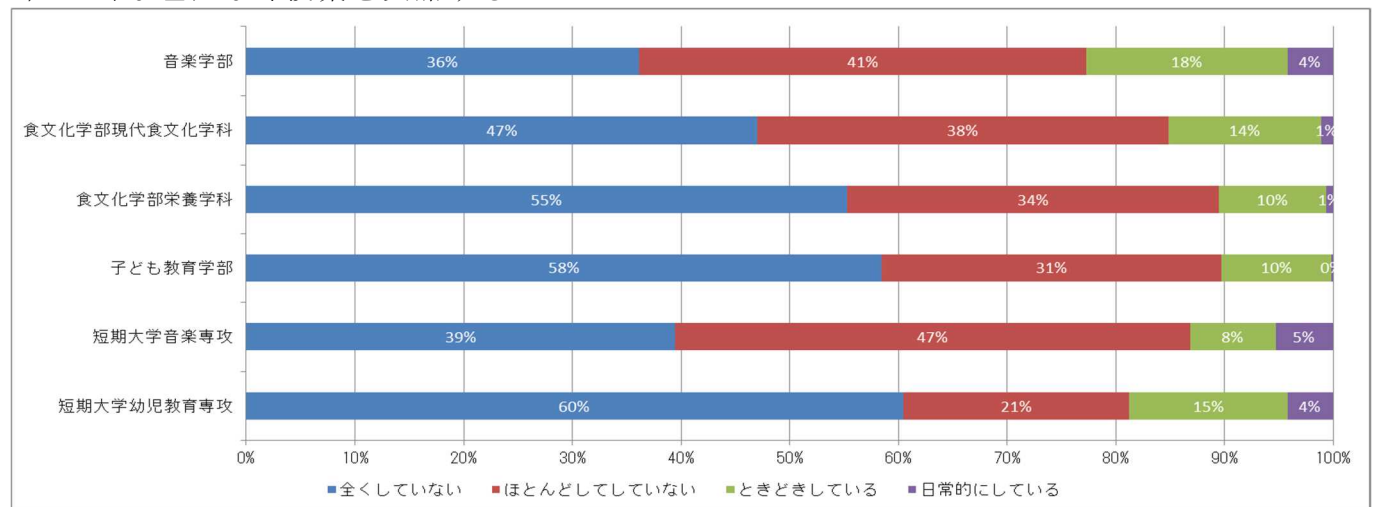
5) 休日_読書をする（マンガ・雑誌を除く）



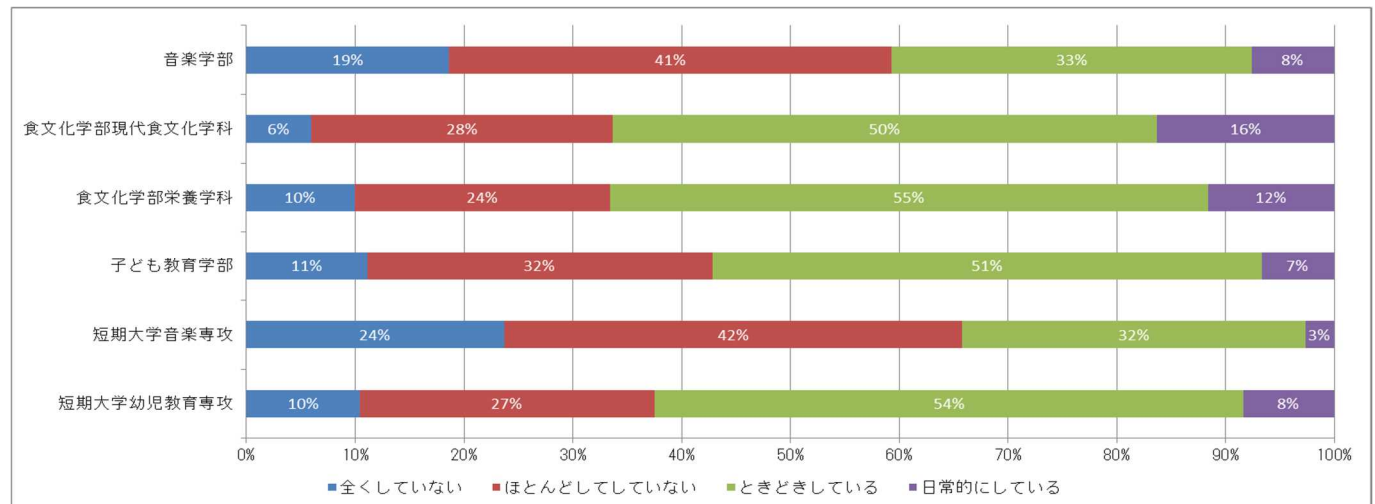
各項目についての1日あたりの活動時間を尋ねるQ7の調査結果は、どの項目も、1週間あたりの活動時間を尋ねるQ6の調査結果とほぼ同じである。これは平成29年度の結果と同様である。また、Q6とQ7は質問項目が類似しているので、質問をまとめるか、質問を取捨選択すべきである。

Q8. あなたは大学入学以来、次の経験をどれくらいしていますか。それぞれの項目についてお答えください。

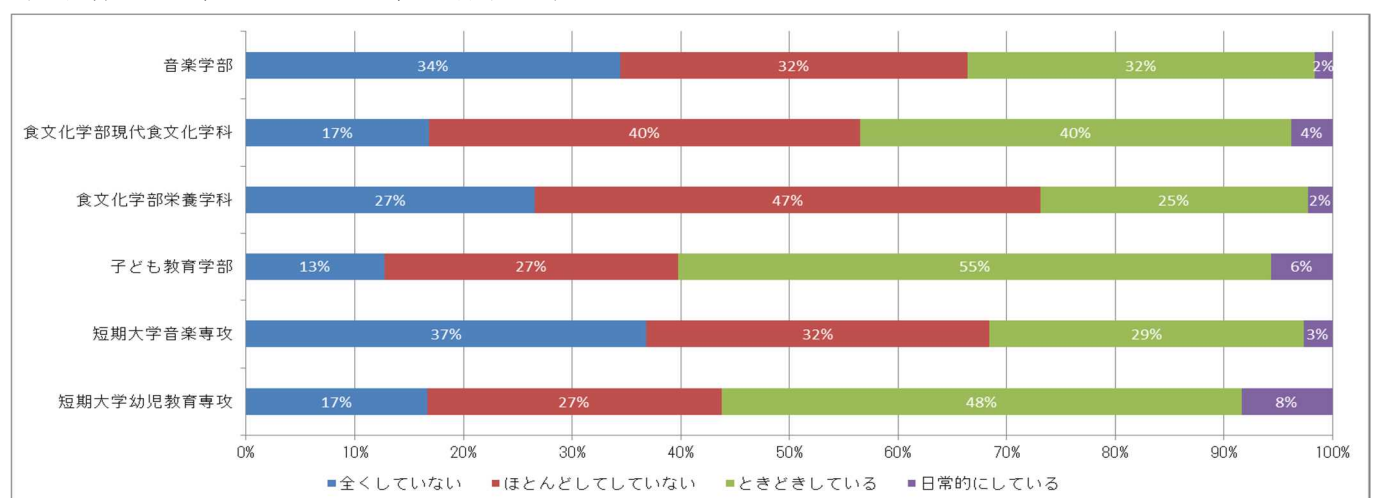
1) 正当な理由なく授業を欠席する



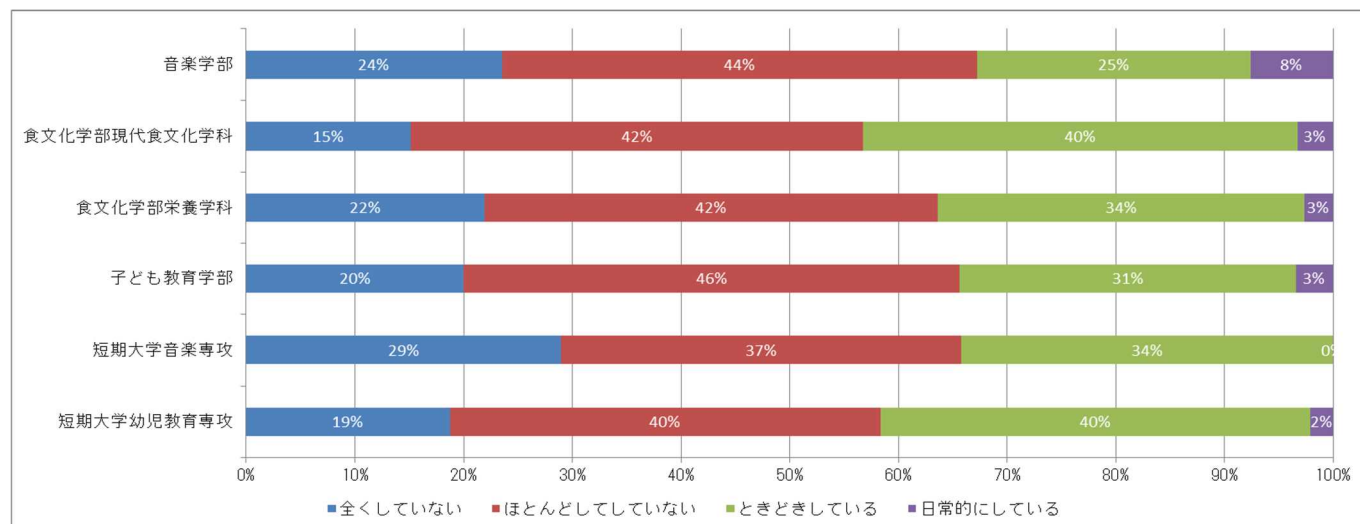
2) 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ



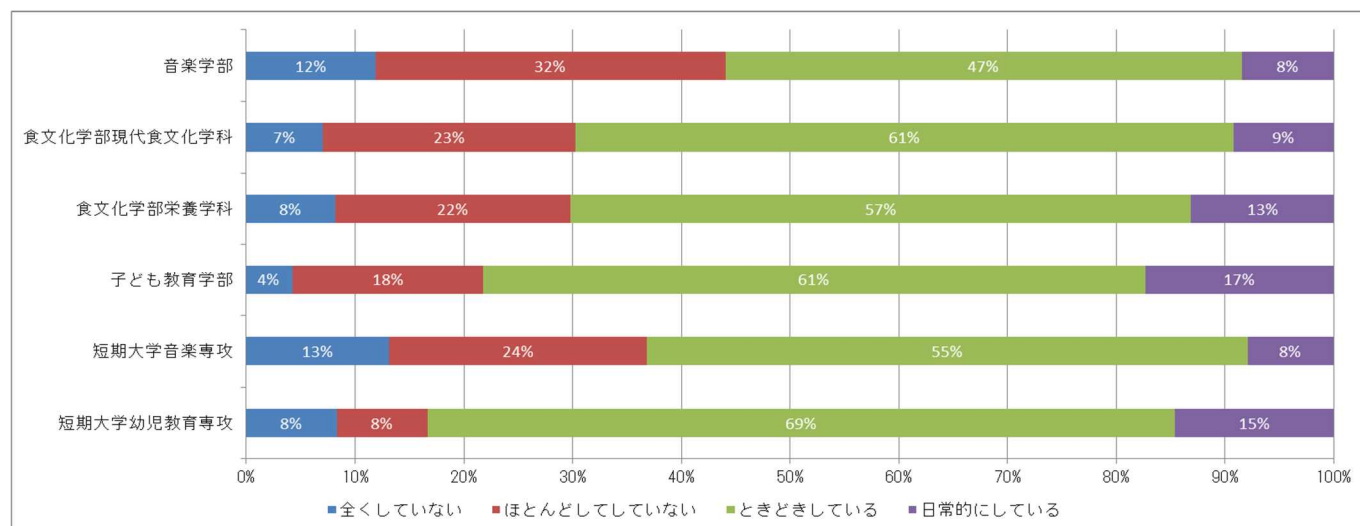
3) 授業の一環でボランティア活動をする



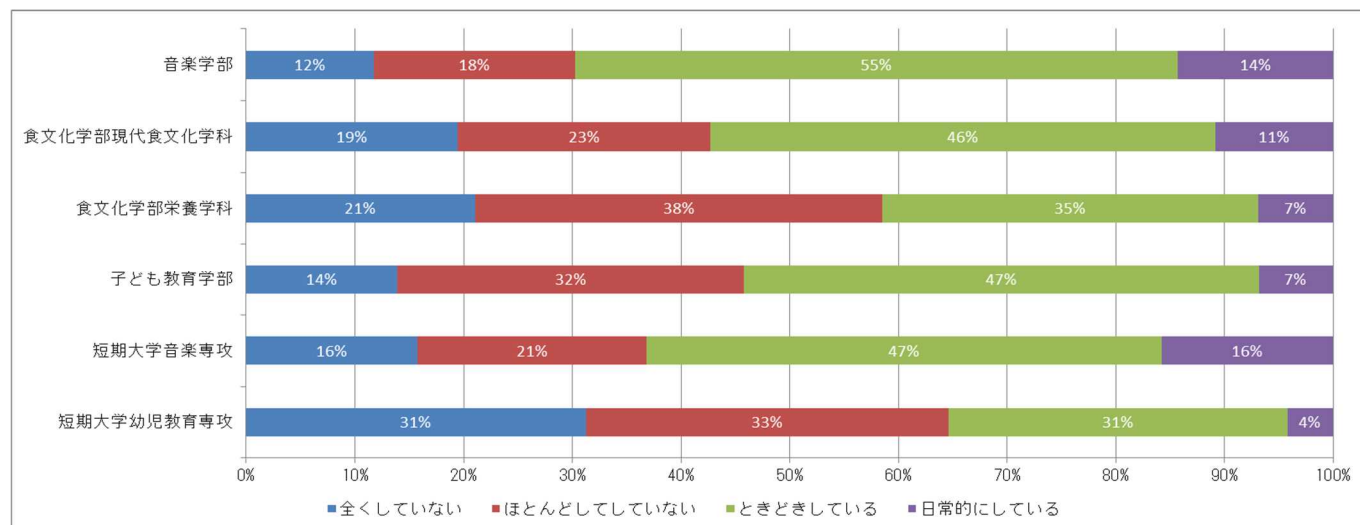
4) 自分の考えや研究を発表する



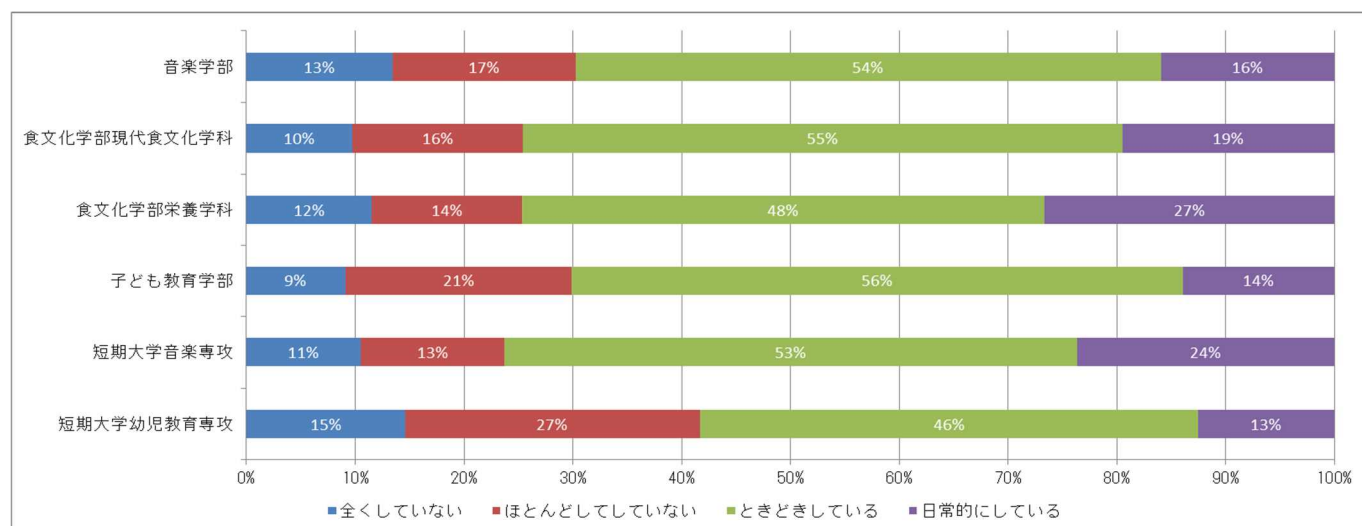
5) 授業中に学生同士でグループワークをする



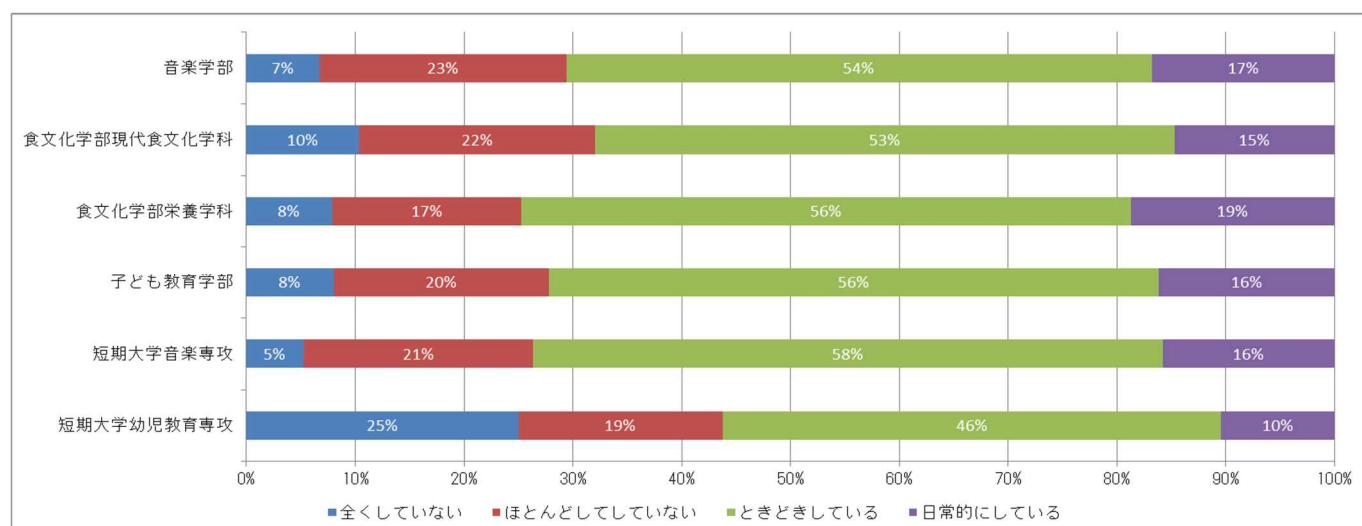
6) 授業（レッスン）課題のために図書館の資料を利用する



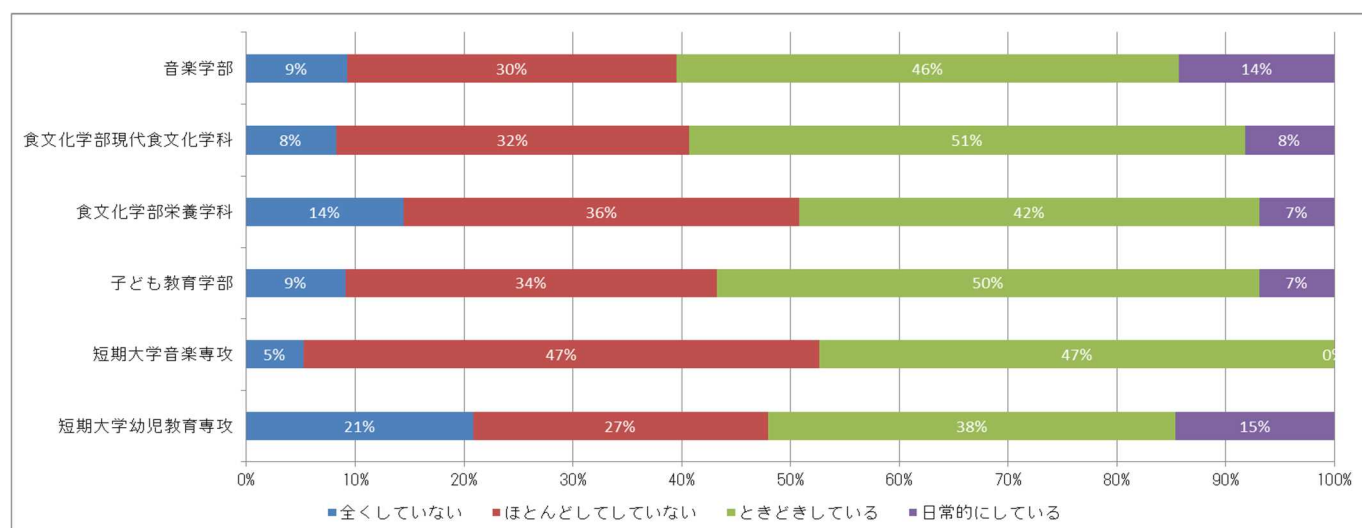
7) 授業（レッスン）課題のために web 上の情報を利用する



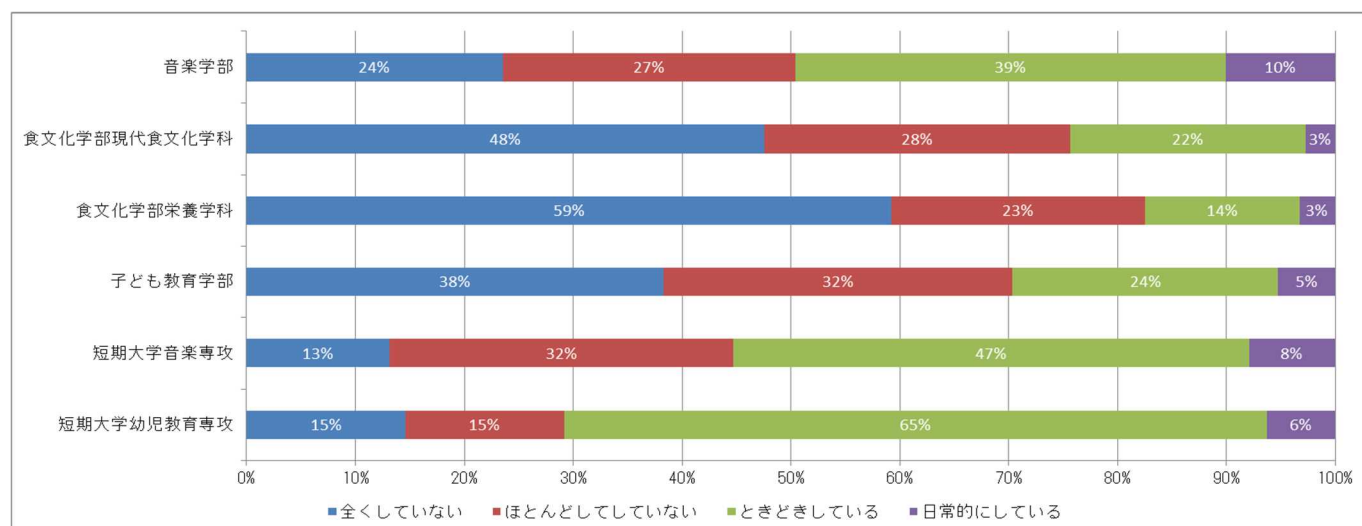
8) 授業（レッスン）時間以外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業（レッスン）内容を話したりする



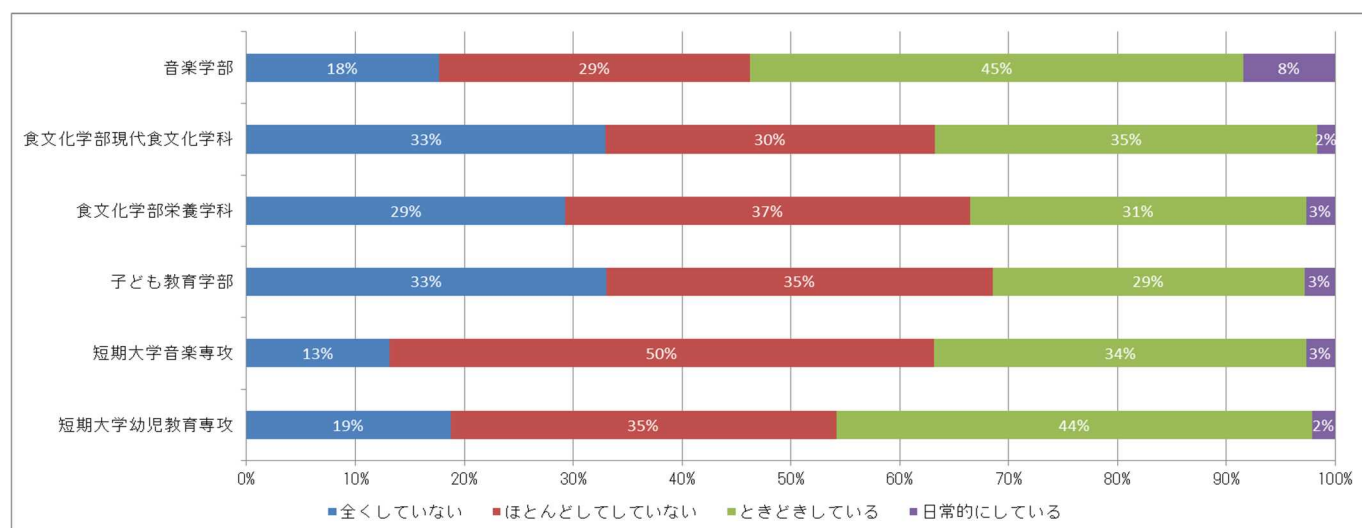
9) 教員が提出物に、添削やコメントを付けて返却する



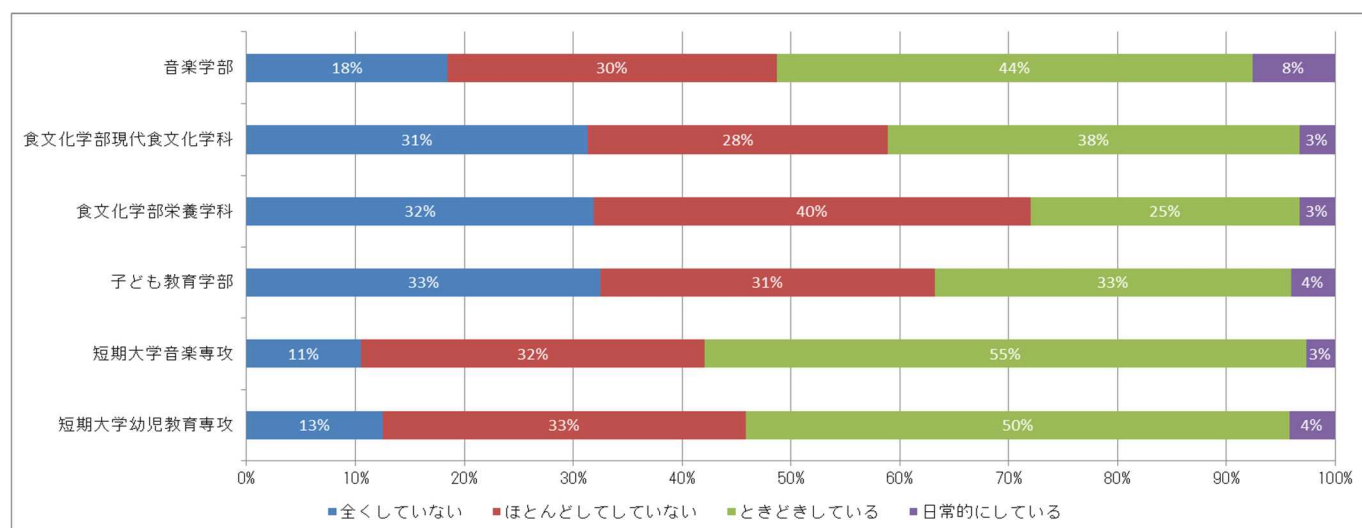
10) 教員と SNS (Facebook、mixi、LINE など) を利用してコミュニケーションをとる



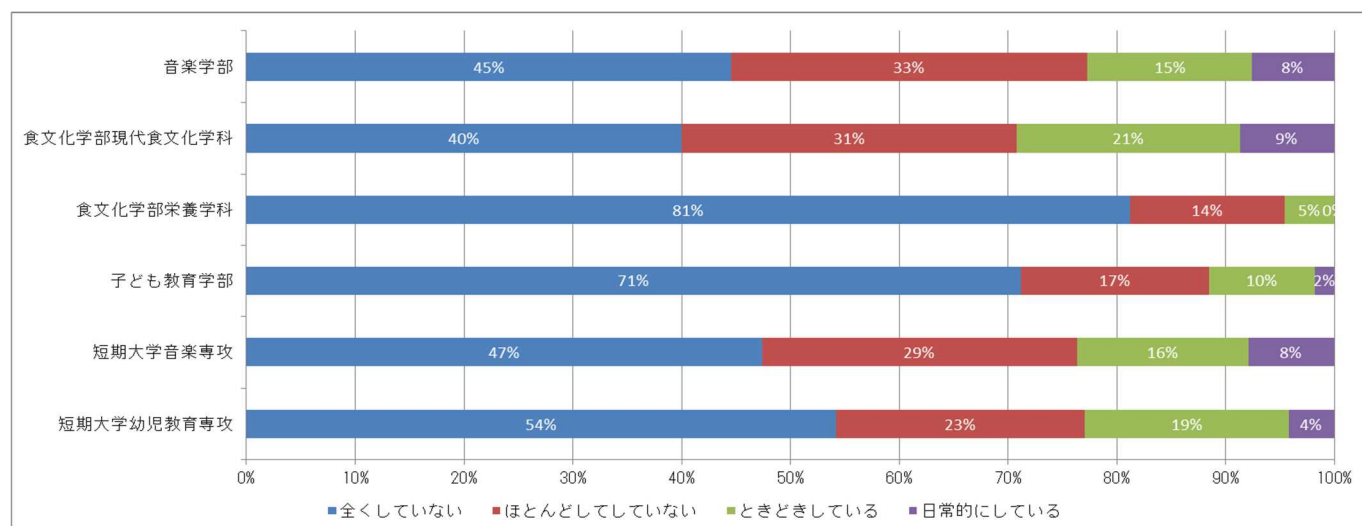
11) 教職員に学習の相談をする



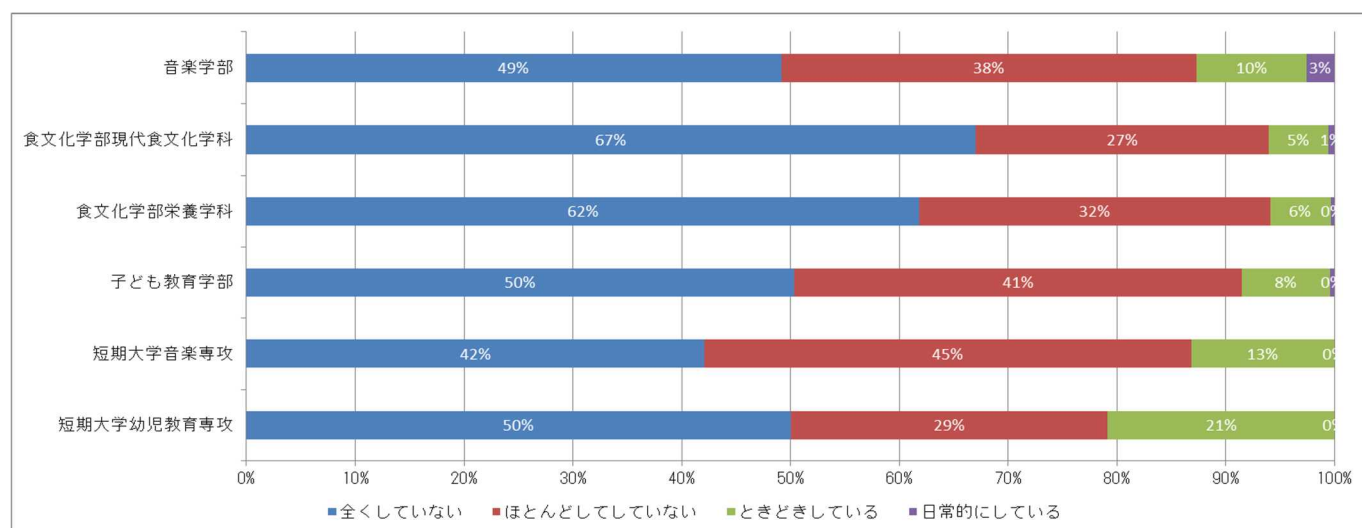
12) 教職員に進路の相談をする



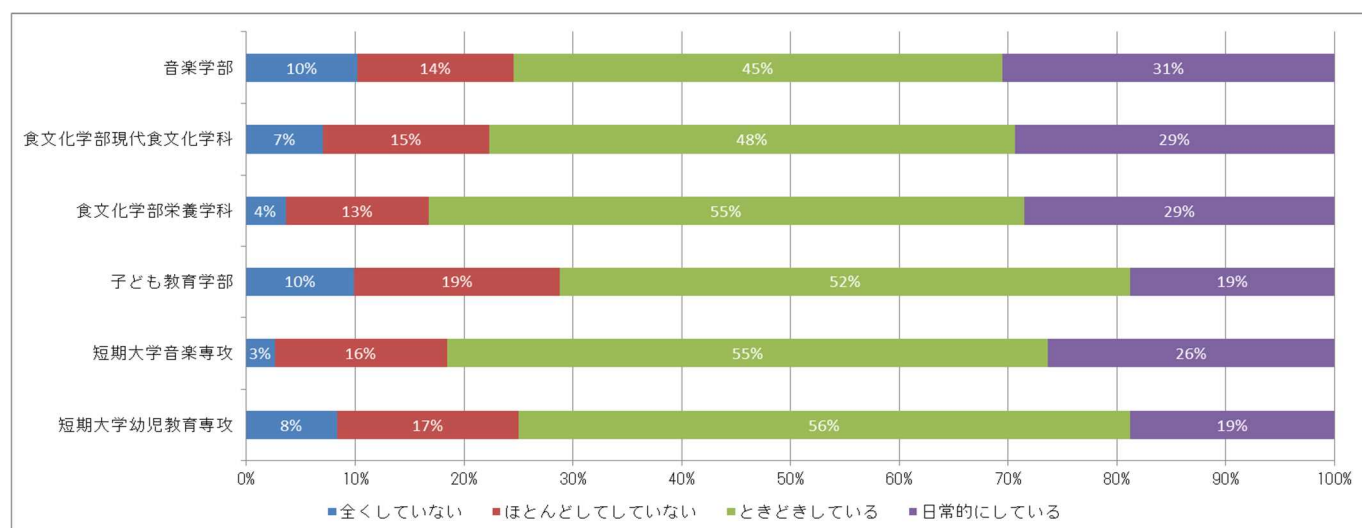
13) 外国人留学生や社会人学生と話す



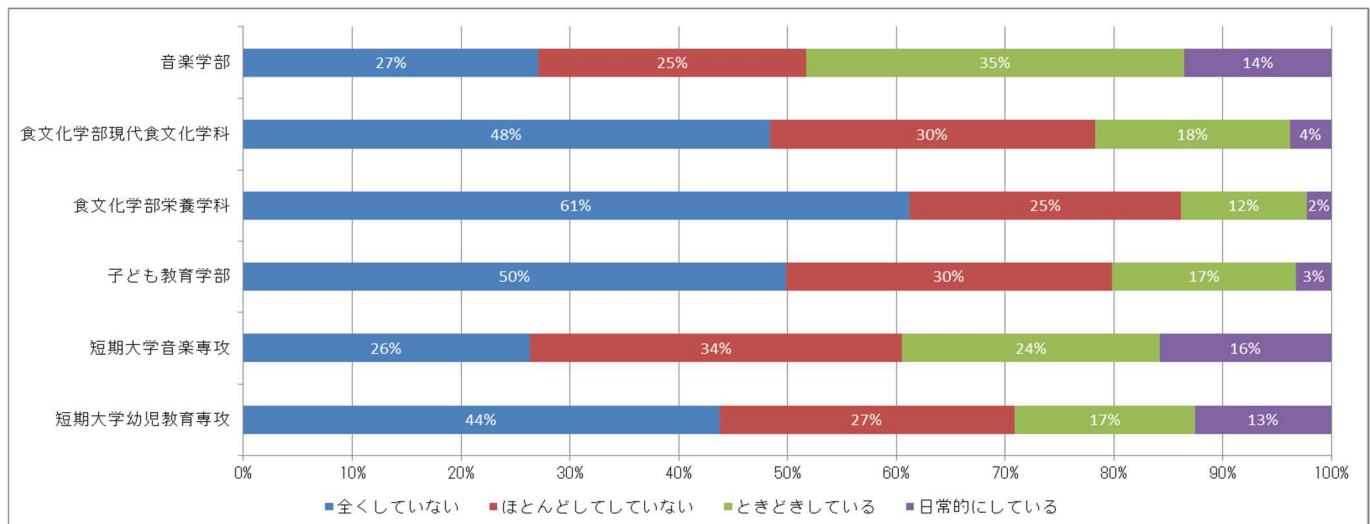
14) ポートフォリオを学業や課外活動のために利用する



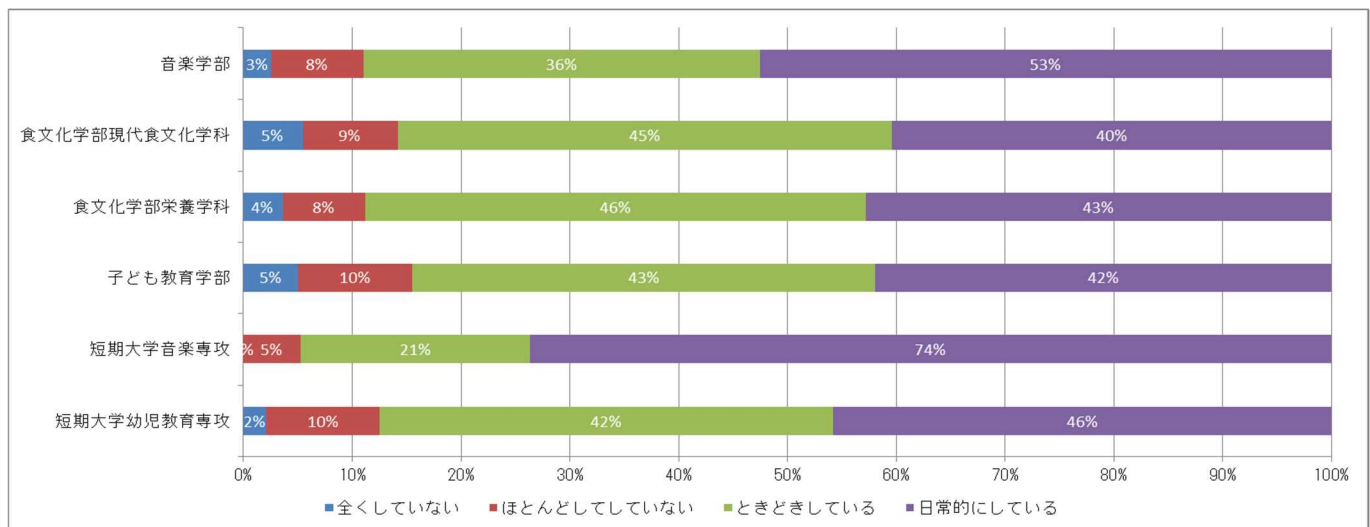
15) 読みや意味のわからない言葉があったら、辞典（ネット含む）で調べる



16) 大学の図書館にない本は、自分で購入したり、取り寄せてもらう



17) 授業（レッスン）に集中して取り組む



「1）正当な理由なく授業を欠席している」という項目に関して、全く欠席していないという回答率は、平成 29 年度同様、音楽学部と短大音楽専攻において低い。それどころか、実数は数名だが、短大の 2 専攻では日常的に欠席している学生が増加している。音楽専攻と音楽学部では、全く欠席していない学生の割合は 4 割を切っている。

「2）実験、実習、フィールドワークなどを実施し、体験的に学ぶ」～「5）授業中に学生同士でグループワークをする」、「9）教員が提出物に、添削やコメントを付けて返却する」という項目は、学部学科のカリキュラムや教員の授業方法に左右されるものであるもので、学生の学修行動に関する調査としては適切ではないのではないかと。

「6）授業（レッスン）課題のために図書館の資料を利用する」、「7）授業（レッスン）課題のために web 上の情報を利用する」、「8）授業（レッスン）時間以外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業（レッスン）内容を話したりする」に関しては、短大幼児教育専攻生に肯定的な回答率が低い。学習意欲が低いのではないかと。

「10）教員と SNS (Facebook、mixi、LINE など) を利用してコミュニケーションをとる」、「11）教職員に学習の相談をする」、「12）教職員に進路の相談をする」に関しては、音楽学部生と短大音楽専攻生に肯定的な回答が多く、学生と教員との親密度の高さが窺える。一方、食文化学部と子ども教育学部では、平成 29 年度同様、肯定的な回答が少ない。

「13）外国人留学生や社会人学生と話す」に関していえば、外国人学生や社会人学生は本学にはほとんどいない。

「14）ポートフォリオを学業や課外活動のために利用する」に関しては、ポートフォリオの積極的な利用は今後の課題であると言わざるを得ない。

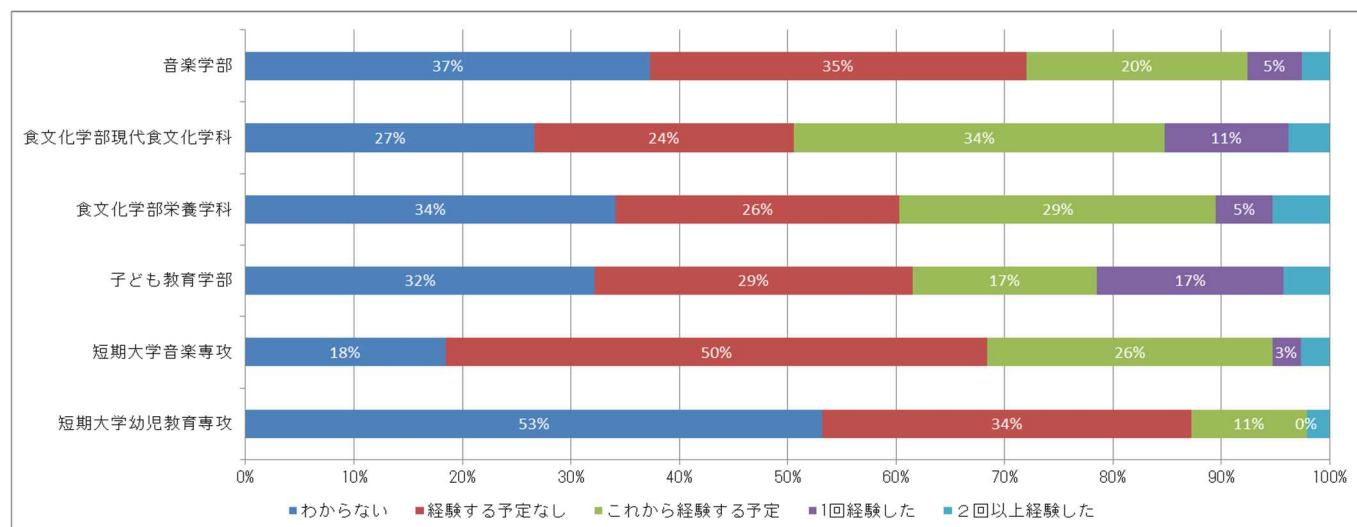
「15）読みや意味のわからない言葉があったら、辞典（ネット含む）で調べる」に関しては、平成29年度に肯定的な回答率が低かった短大幼児教育専攻で肯定的な回答率が大幅に上昇した。

「16）大学の図書館にない本は、自分で購入したり、取り寄せてもらう」に関する肯定的回答率は、音楽学部と短大音楽専攻で高いが、これは楽譜等の入手のためと思われる。

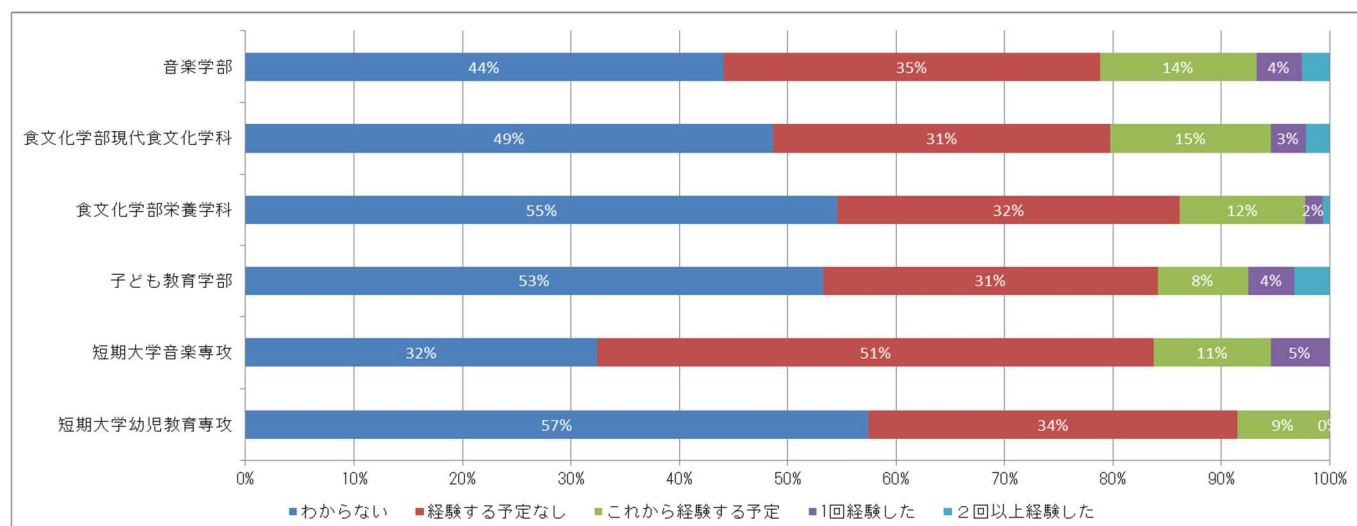
「17）授業（レッスン）に集中して取り組む」に関する肯定的回答率は全学において上昇傾向にある。特に短大音楽専攻の肯定的回答率の高さが目立つ。しかし、「1）正当な理由なく授業を欠席している」に関しては、正当な理由のない欠席率が高い。両者の間には矛盾がある。

Q9. あなたは大学入学以来、次の経験をどれくらいしていますか。それぞれの項目についてお答えください。

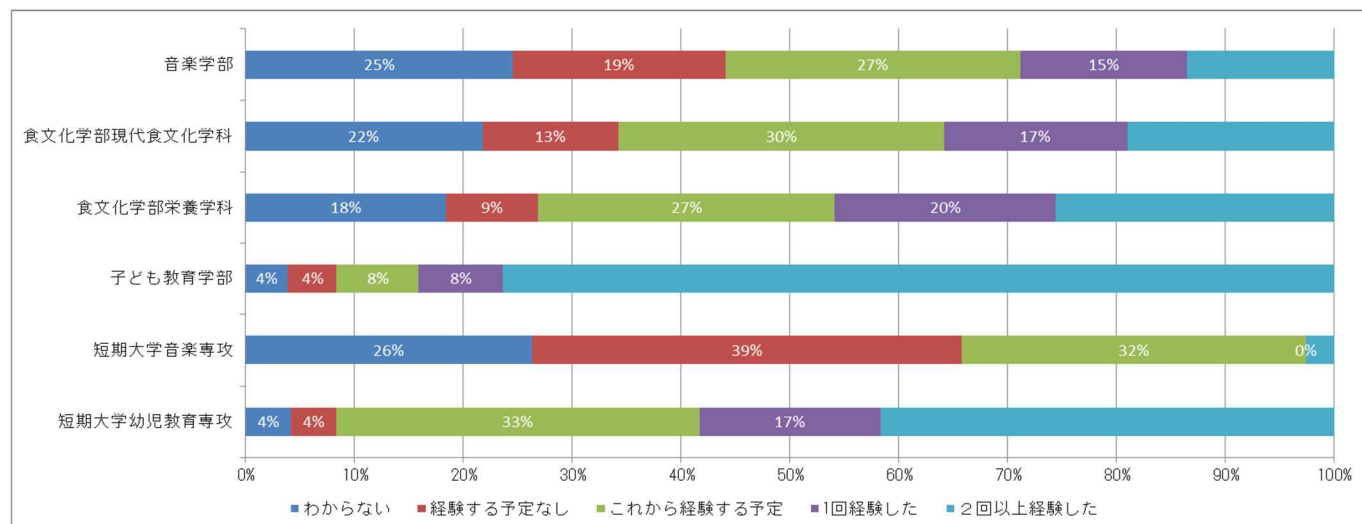
1) インターンシップ



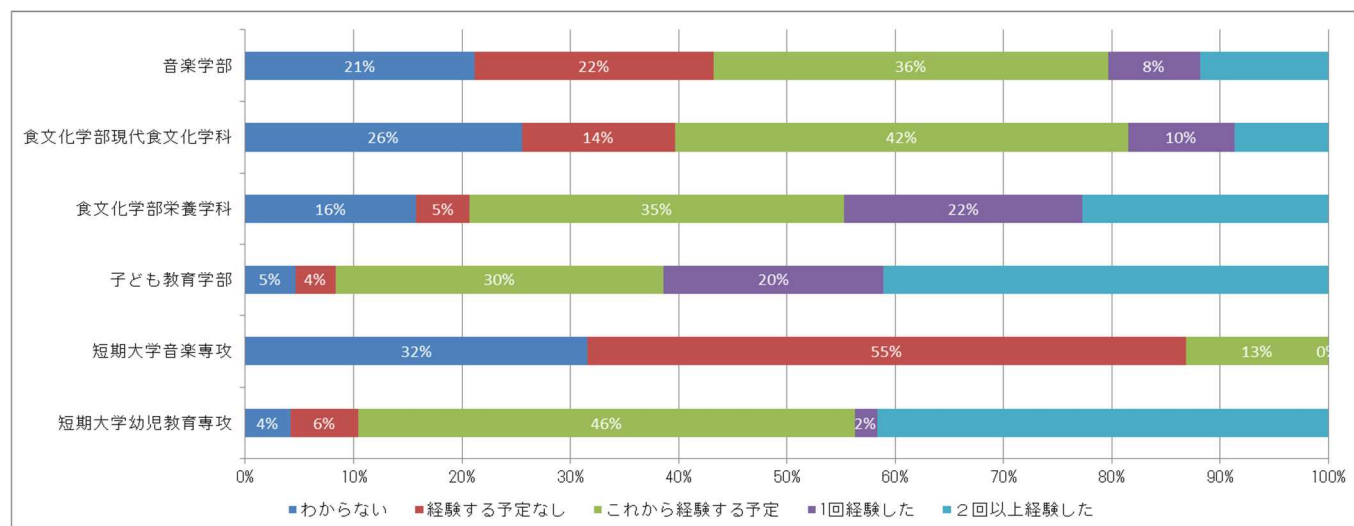
2) サービスラーニング



3) ボランティア活動



4) 実習（教育実習・保育実習など）



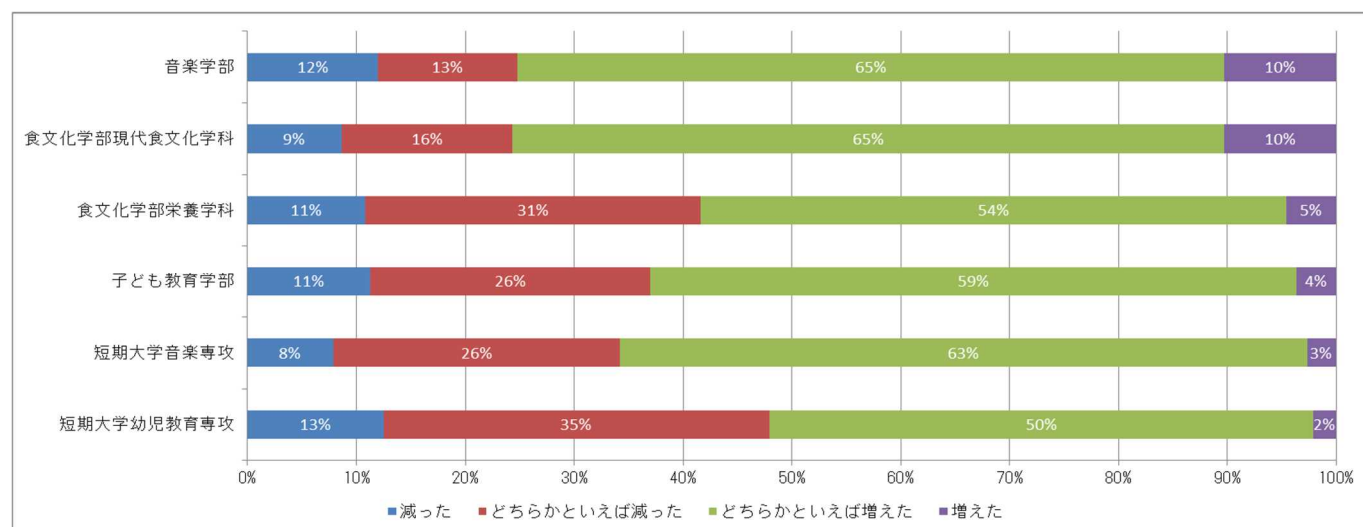
「1）インターンシップ」に関しては、現代食文化学科生の経験率が高い。一方、短大幼児教育専攻生の半数以上が「わからない」と回答しているし、インターンシップに関わる授業の履修者数も少ない。インターンシップが本学に十分に定着しているとはいえない。

「2）サービスマーケティング」に関しては、「わからない」の回答が多く、その概念すら理解していない学生が大半と思われる。

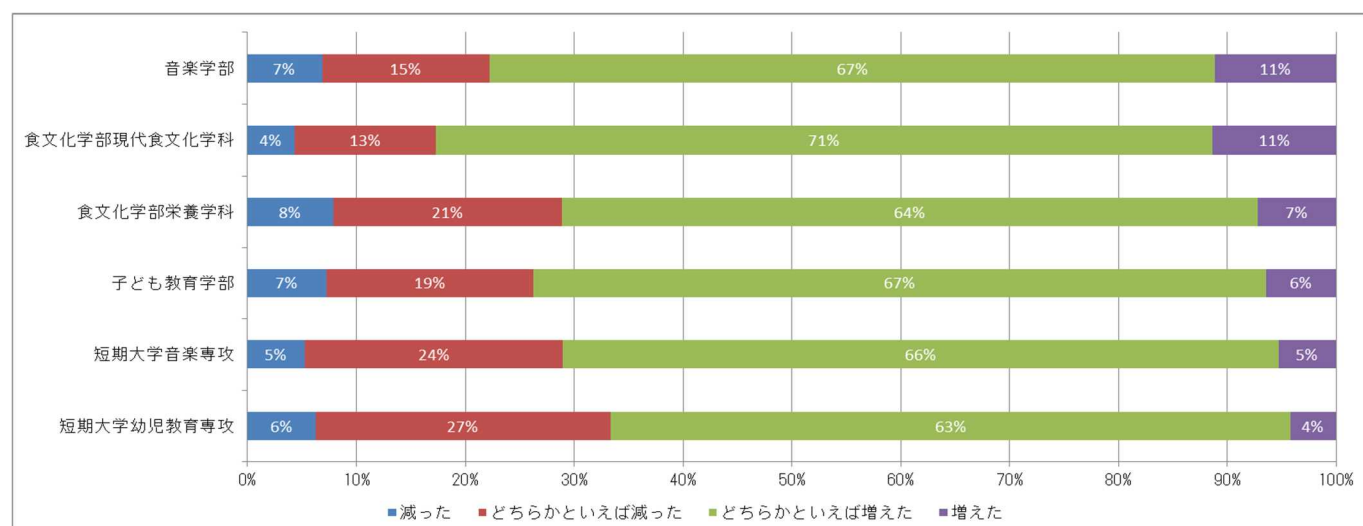
「3）ボランティア活動」の経験率については、子ども教育学部生が突出し、短大幼児教育専攻生の経験率がそれに次ぐ。これは幼稚園や保育所などでの、進路選択に関わるインターンシップに近い活動がかなり含まれていると思われる。

Q10. 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

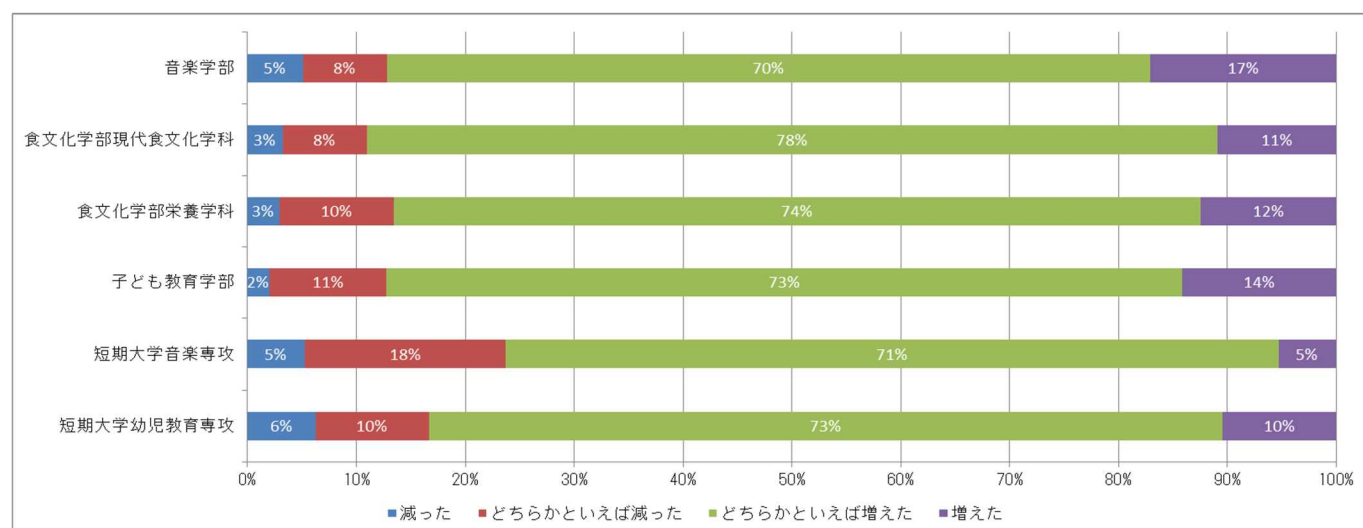
1) 異文化の人々に関する知識



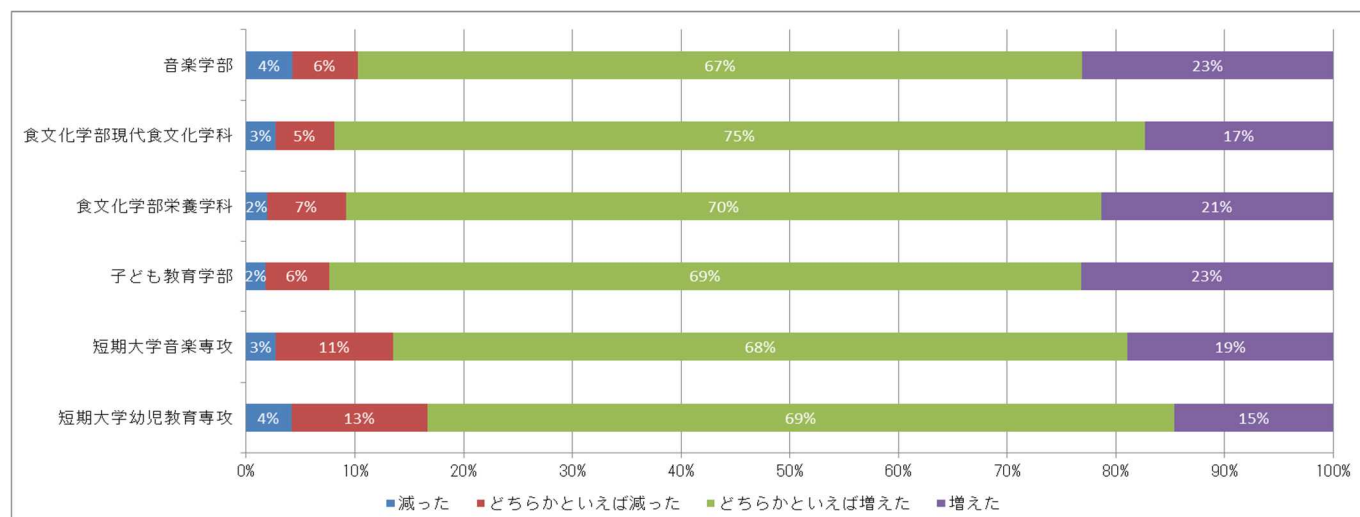
2) 人類の文化、社会と自然に関する知識（いわゆる一般的な教養）



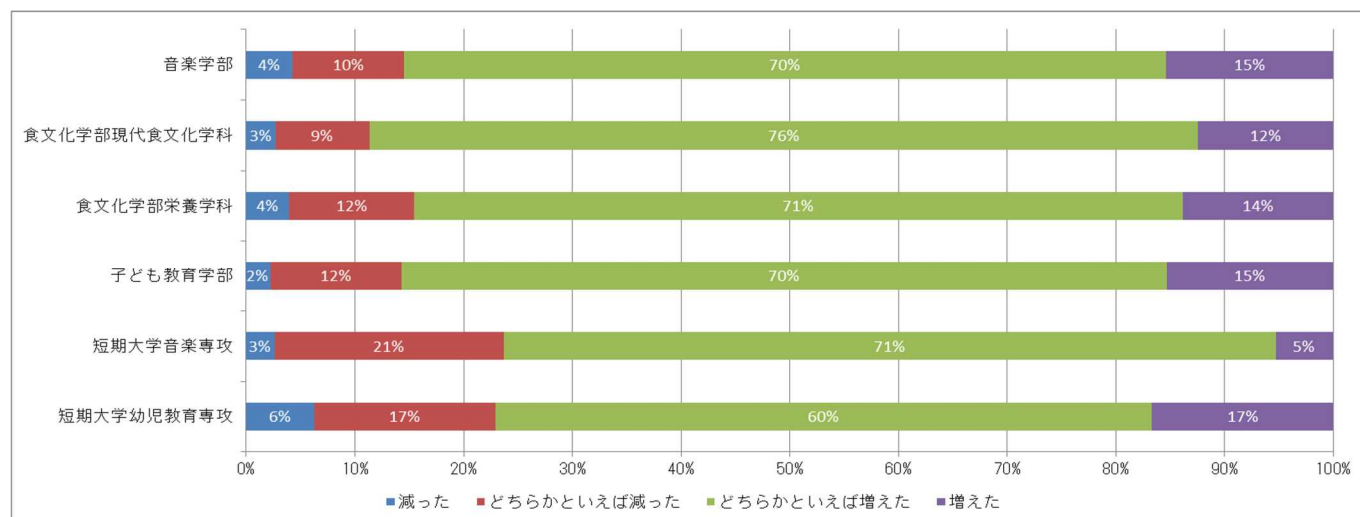
3) 自分の意見をわかりやすく伝える力



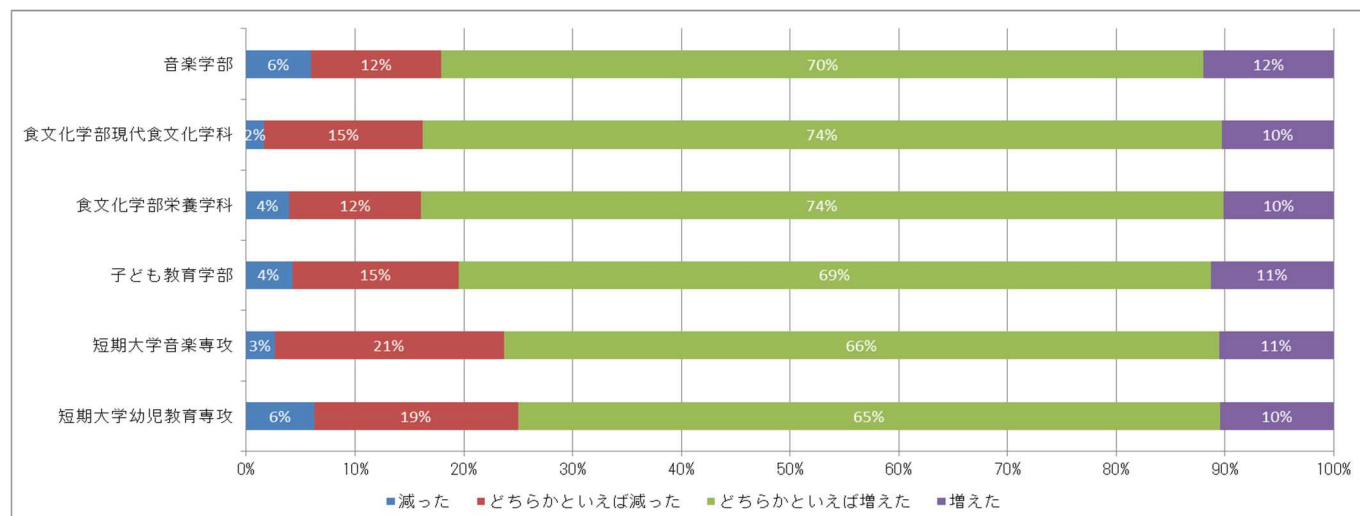
4) 相手の意見をていねいに聴く力



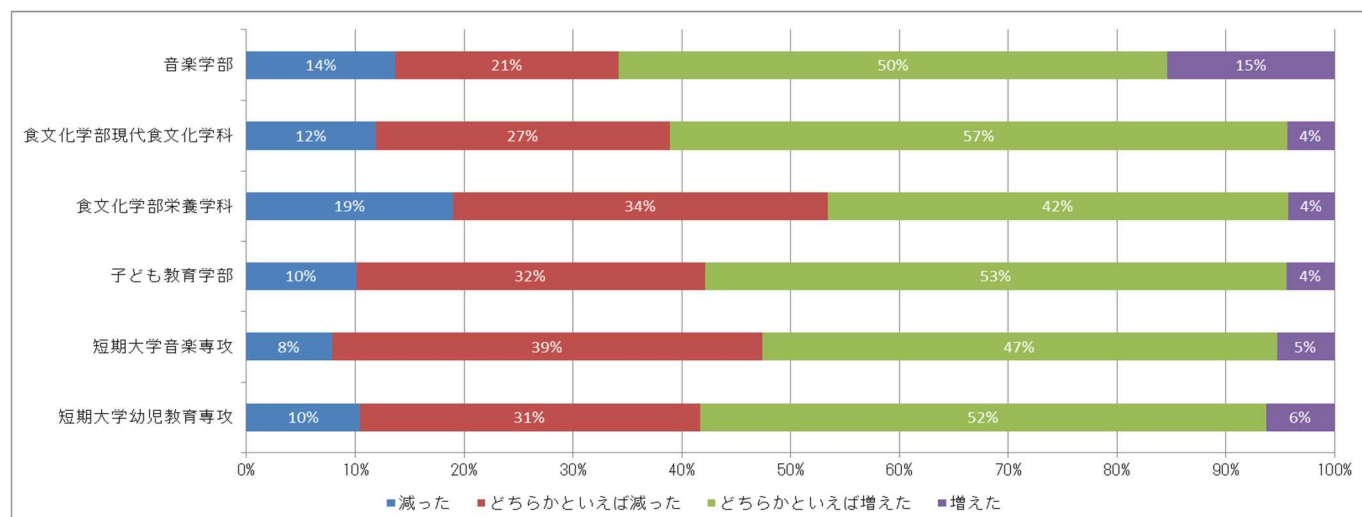
5) 日本語を用いて自分の意見をわかりやすく書く力



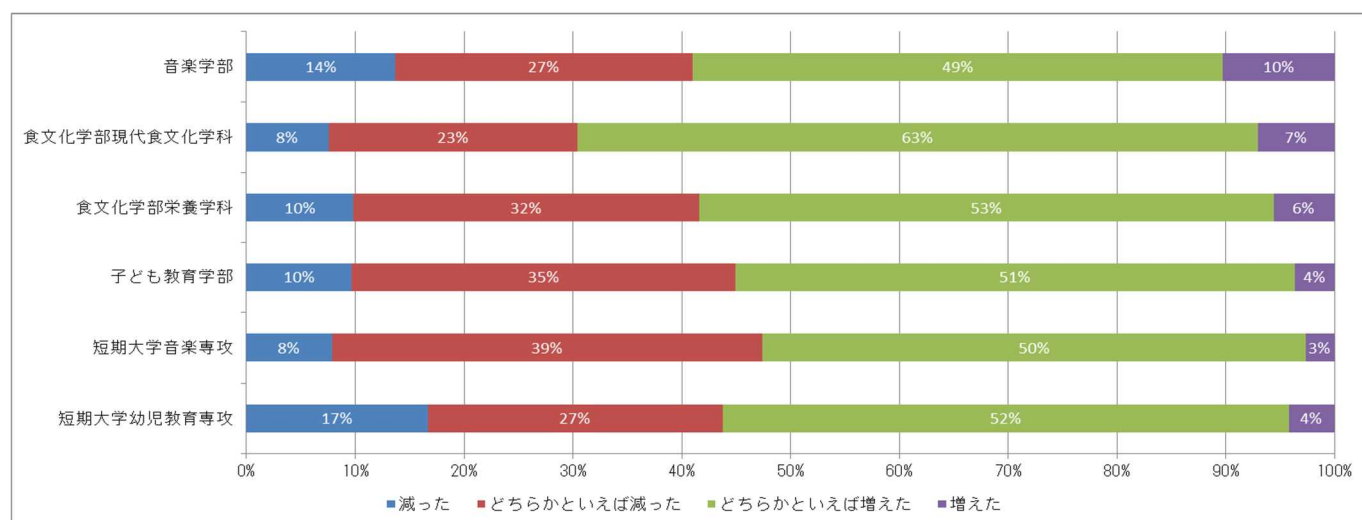
6) 日本語を用いて文章の要点を的確に読み取る力



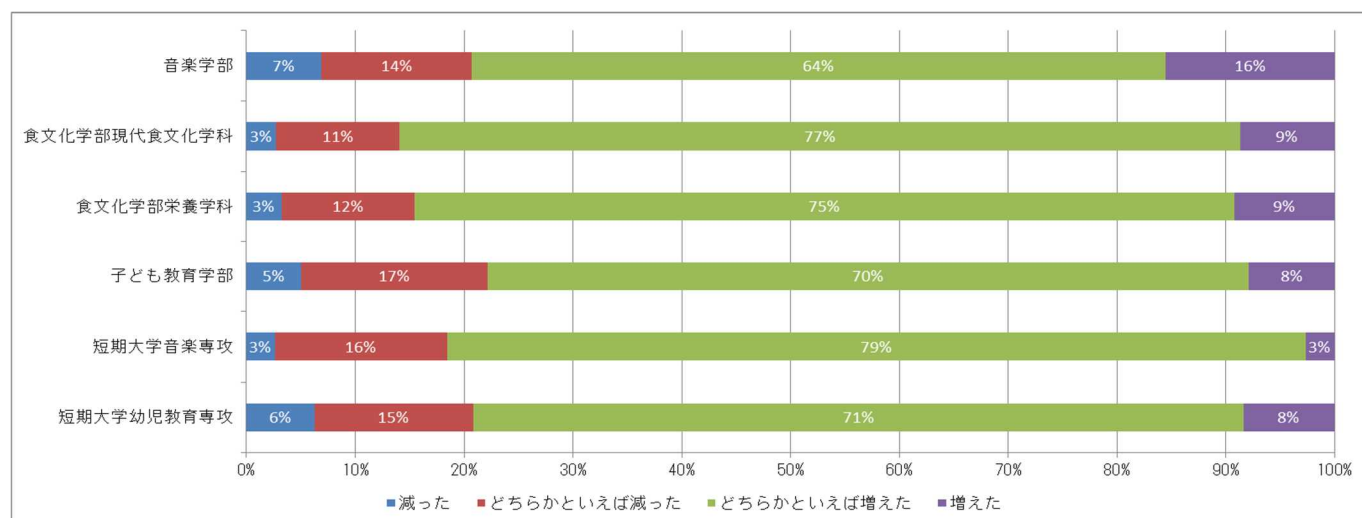
7) 外国語を用いてコミュニケーションをする力(読む、書く、聞く、話す)



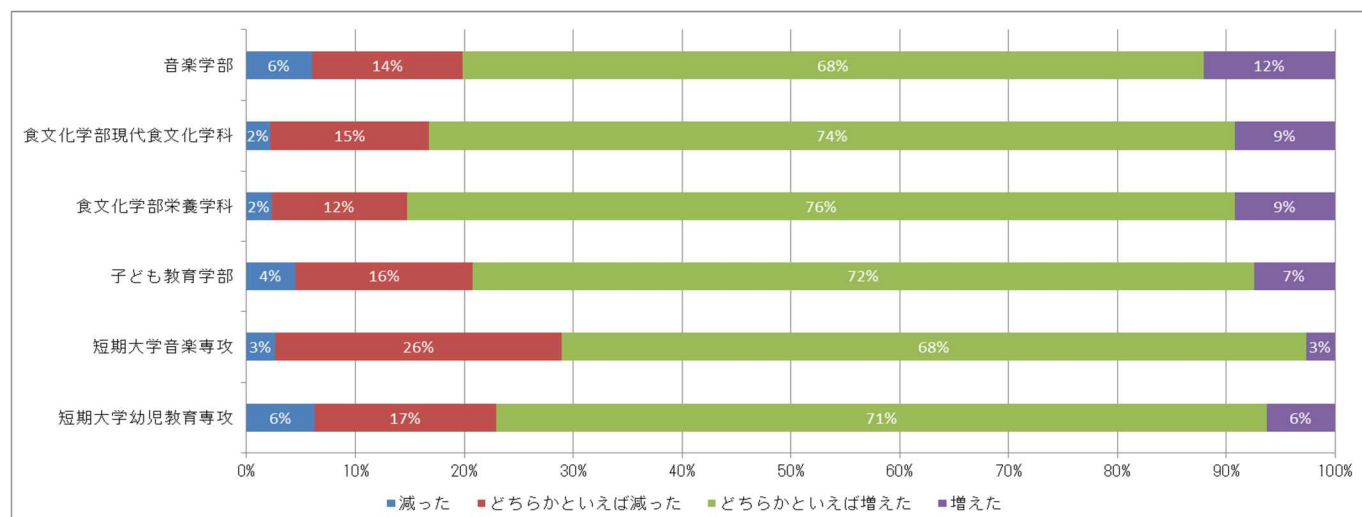
8) 数量的に分析し表現する力



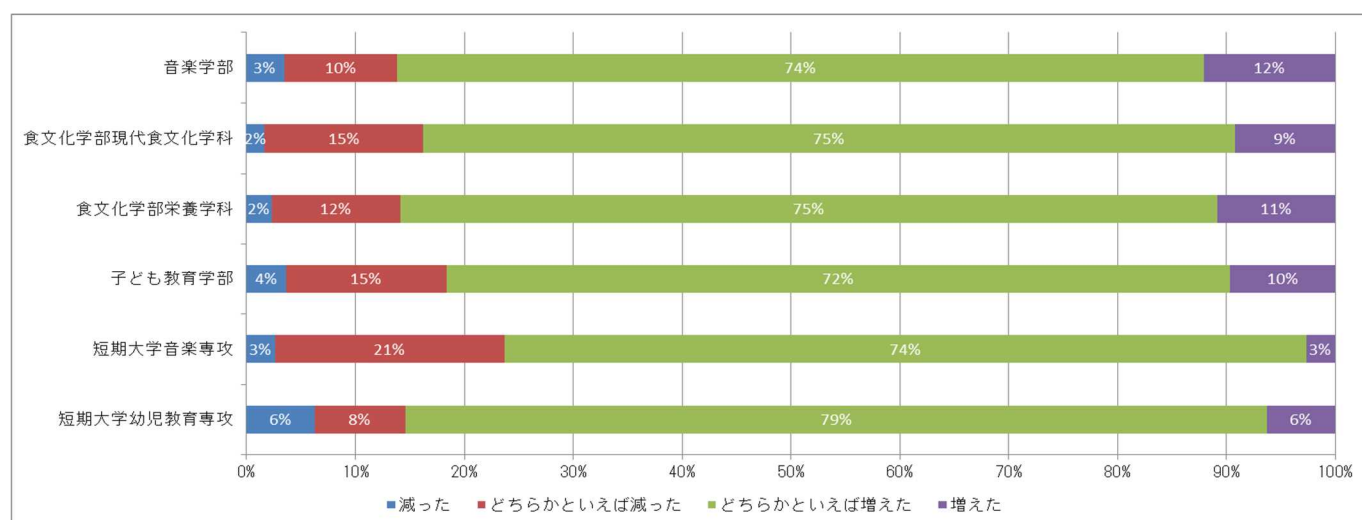
9) 多様な情報を収集・分析し、表現する力



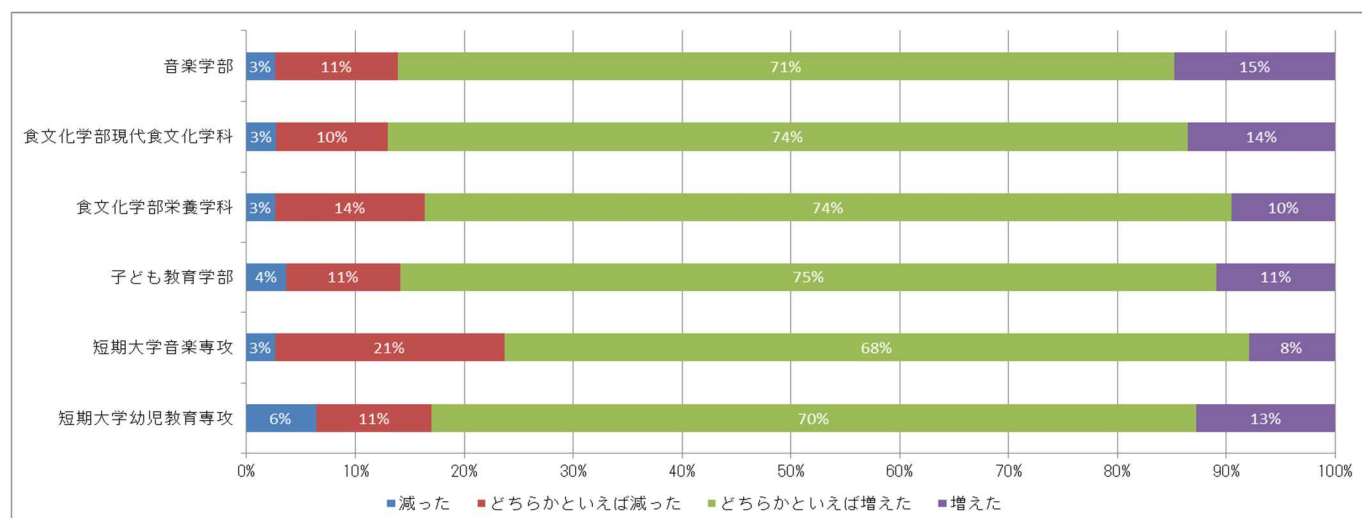
10) 情報や知識を論理的に分析し、表現する力



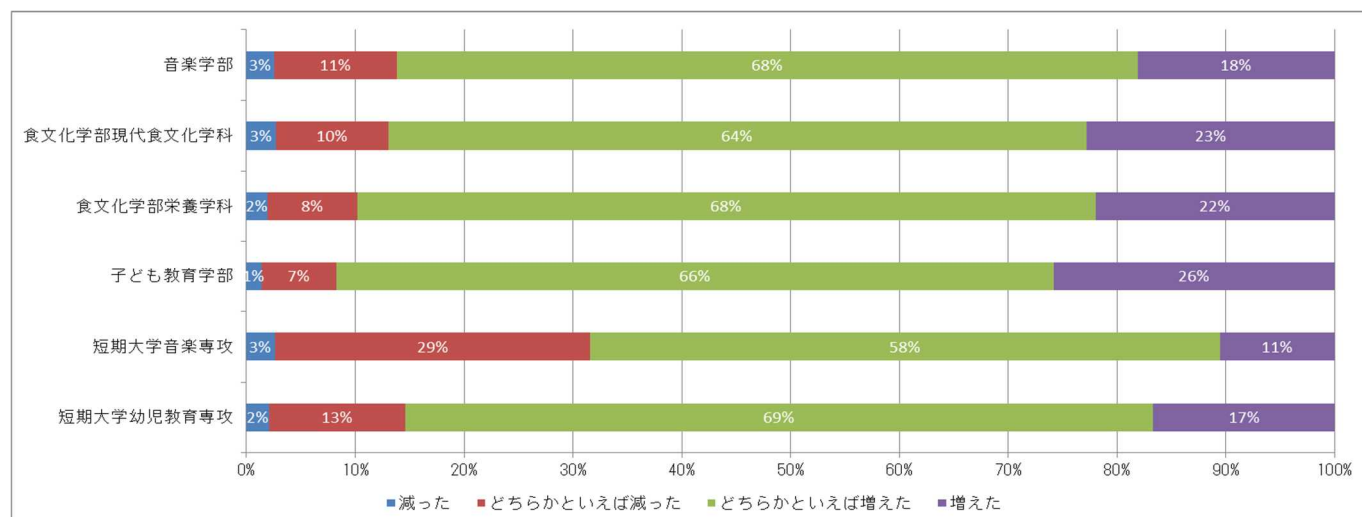
11) 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力



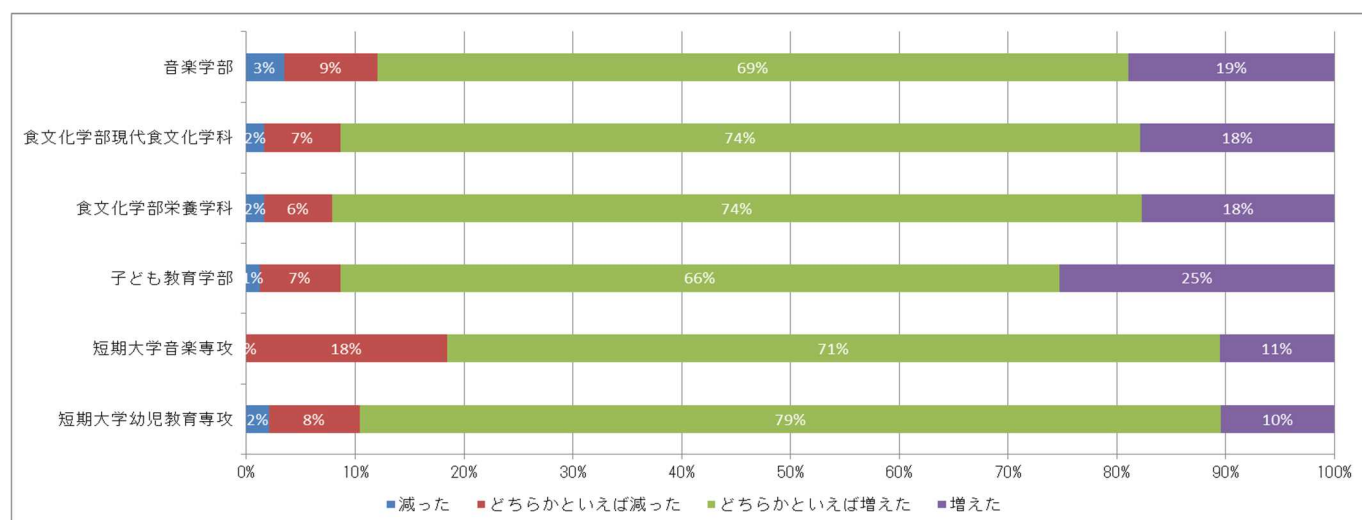
12) 設定した目標・計画に向けて、確実に行動する力



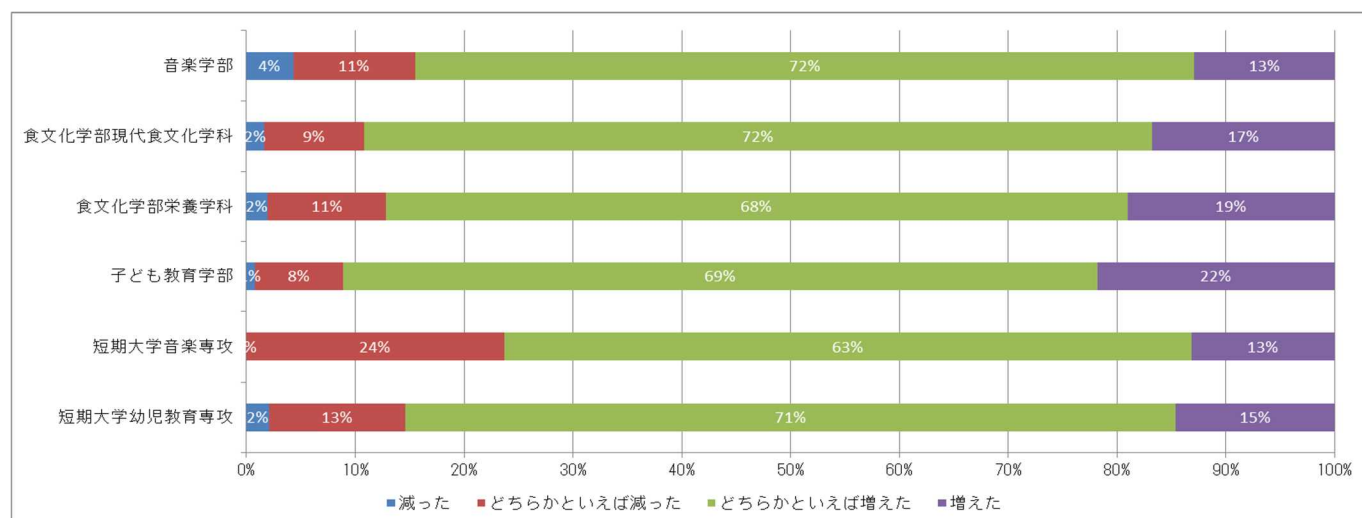
13) 他者と協調・協働して行動する力



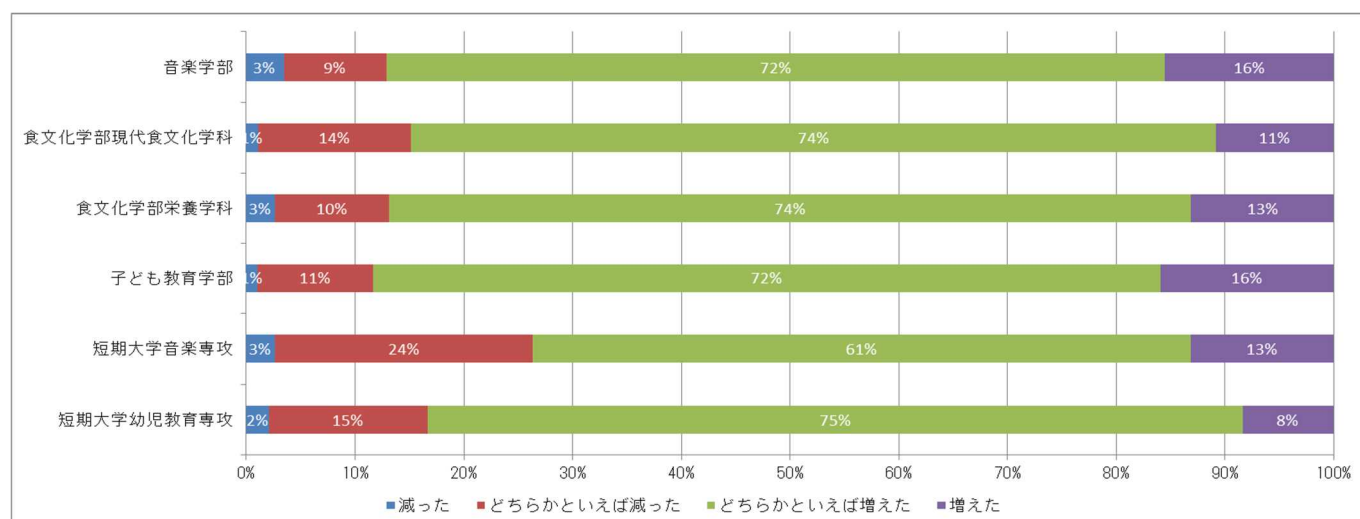
14) 自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力



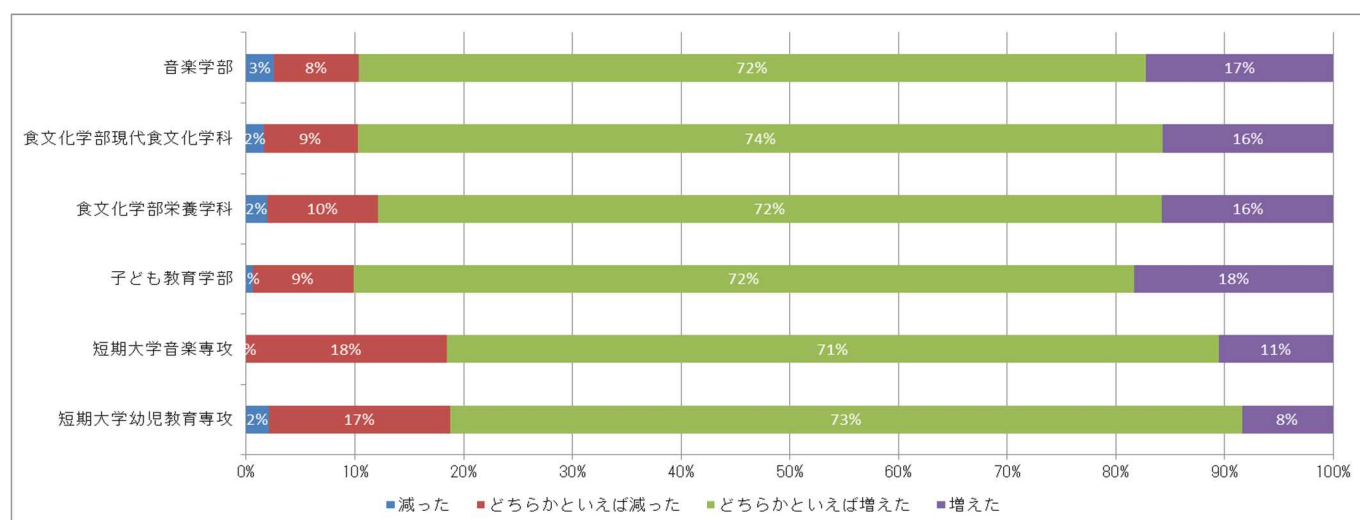
15) 社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力



16) 卒業後も自ら学び続けることのできる習慣



17) これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力



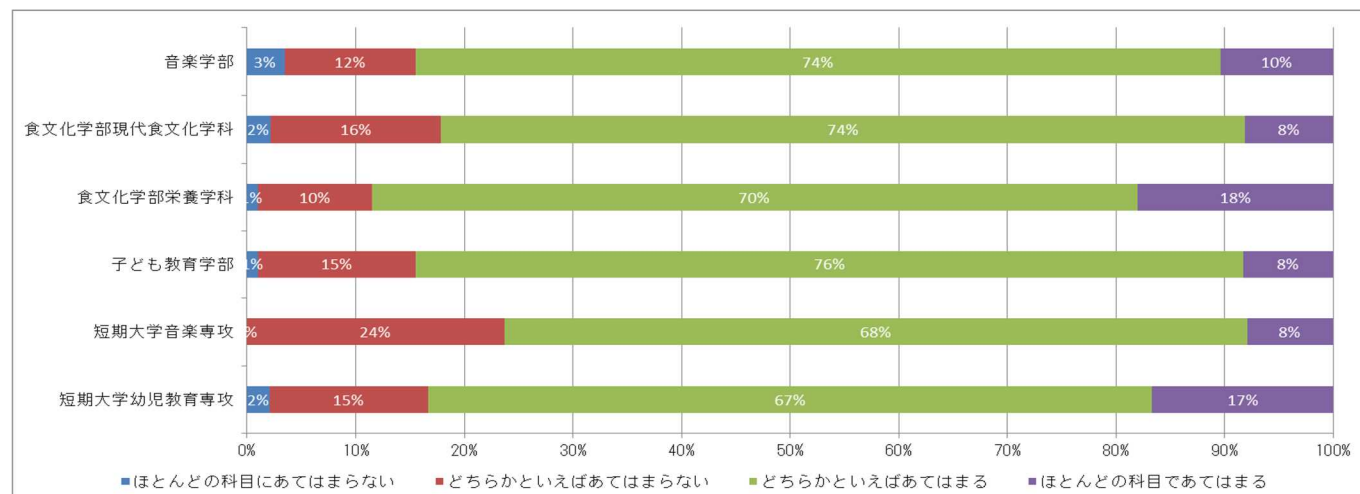
平成 29 年度に「1) 異文化の人々に関する知識」と「2) 人類の文化、社会と自然に関する知識」に関して短大幼児教育専攻生に目立っていたネガティブな回答は少なくなり、肯定的回答が増加している。

「7) 外国語を用いてコミュニケーションをする力」と「8) 数量的に分析し表現する力」に関しては、平成 29 年度の結果と同様、全部局においてネガティブな回答が多い。外国語と数量的分析には、もともと苦手意識があるようだ。

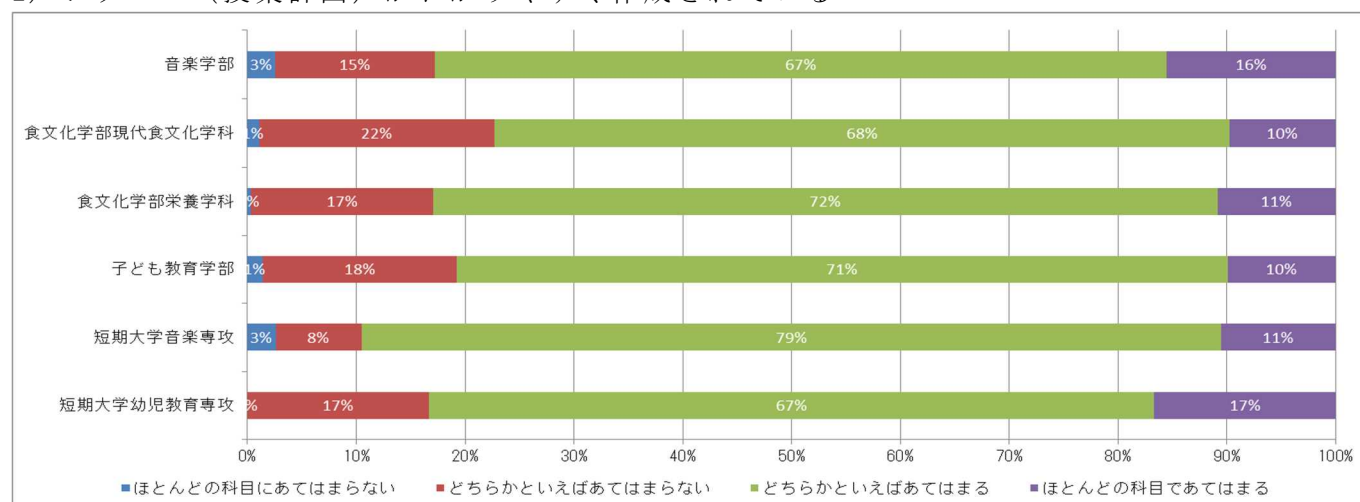
「13) 他者と協調・協働して行動する力」、「14) 自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力」、「15) 社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力」に関しては、短大音楽専攻生にネガティブな回答が多い。

Q11. 今学期受講している科目全般について、以下のことはどれくらいあてはまりますか。

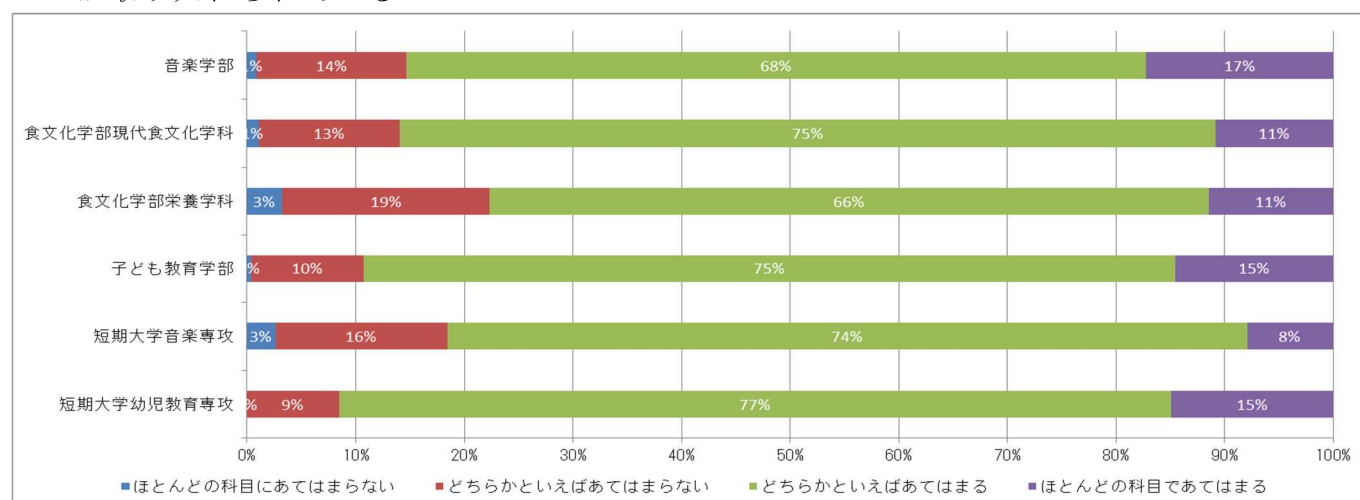
1) 科目と科目のつながりが示されている



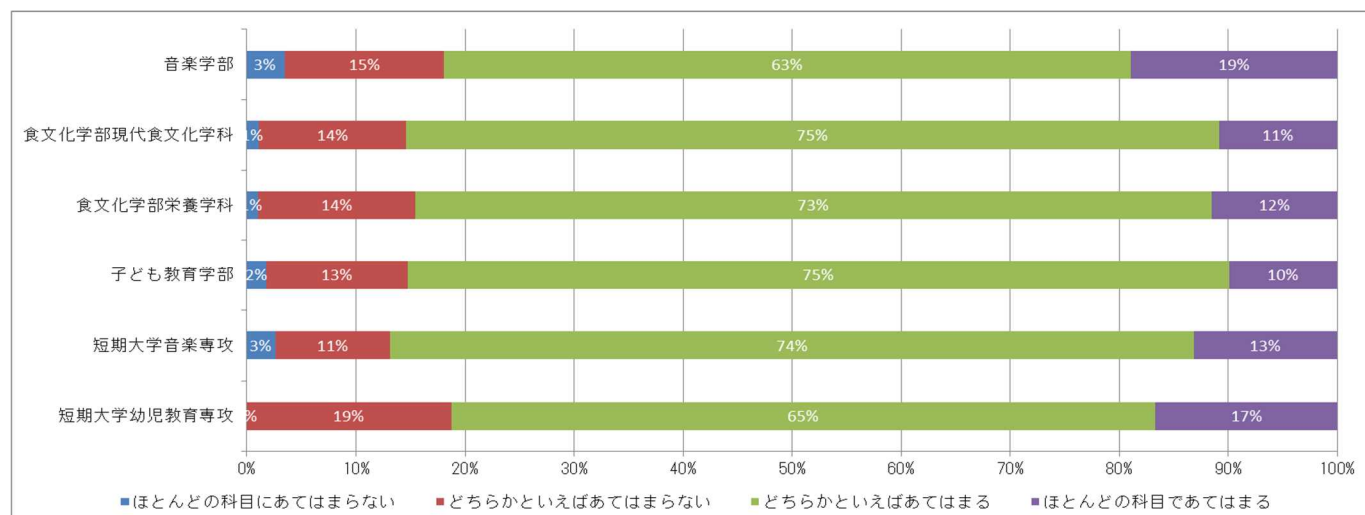
2) シラバス（授業計画）がわかりやすく作成されている



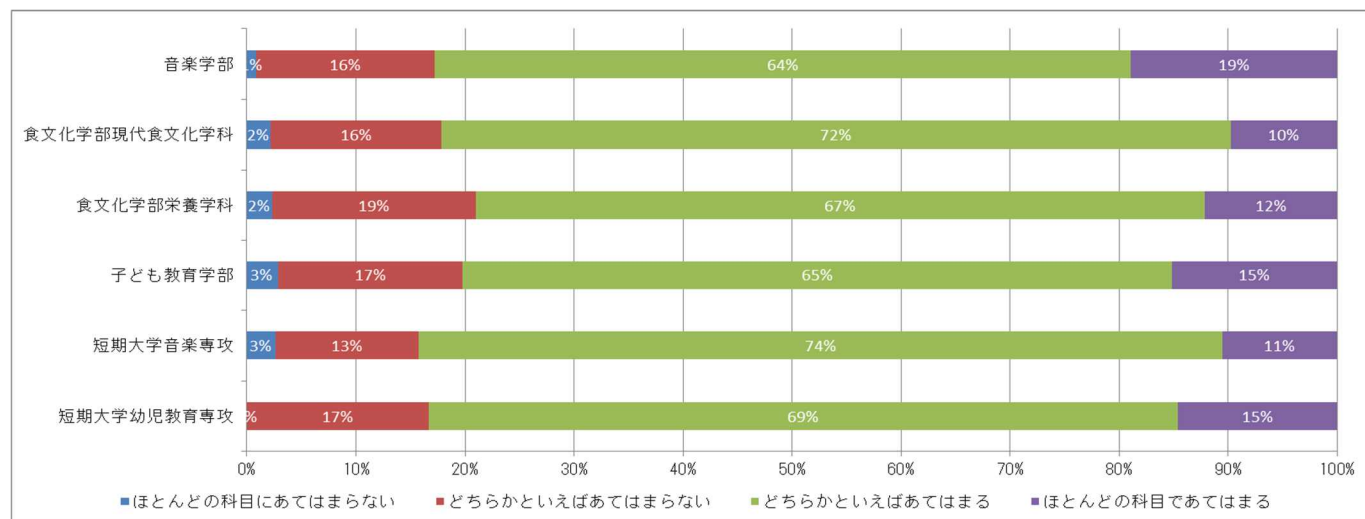
3) 授業の形式は、先生の講義を聴くだけでなく、グループワーク、学生同士の議論、発表などが取り入れられている



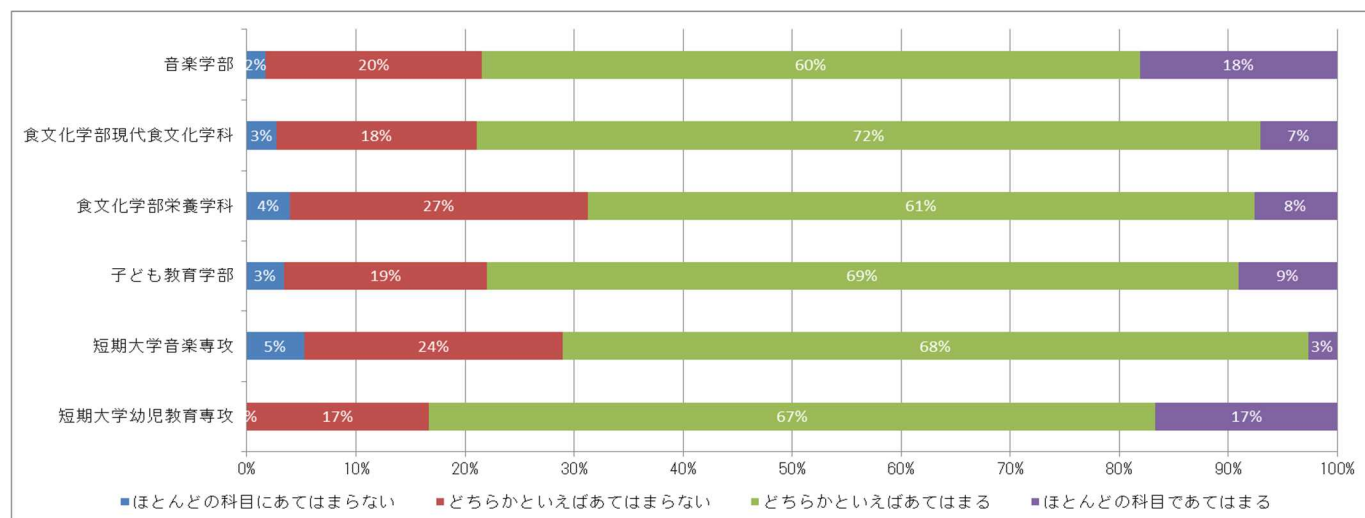
4) 受講生の受講態度に対して必要な指導をしている



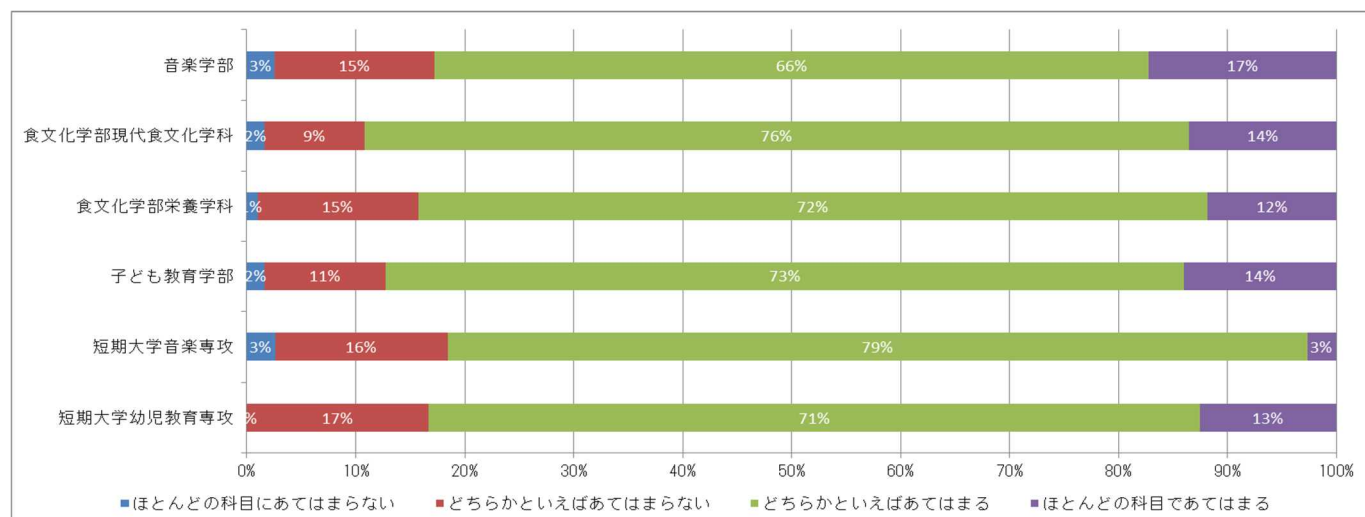
5) 成績の付け方が明確に示されている



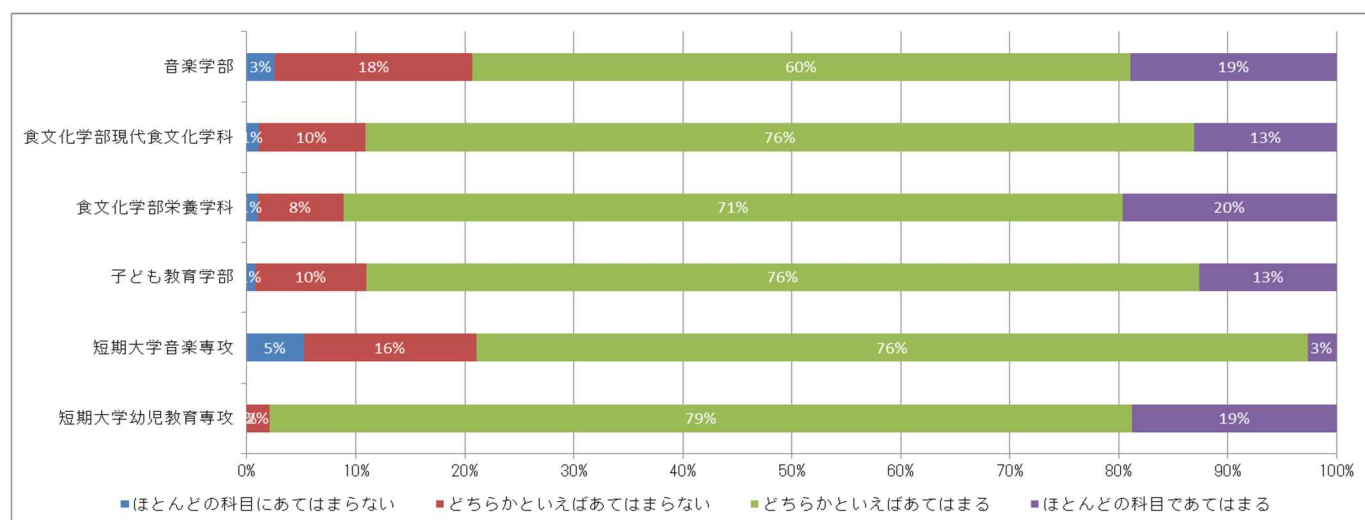
6) 授業期間中に、提出物の返却や全体に向けてのコメントなどのフィードバックがある



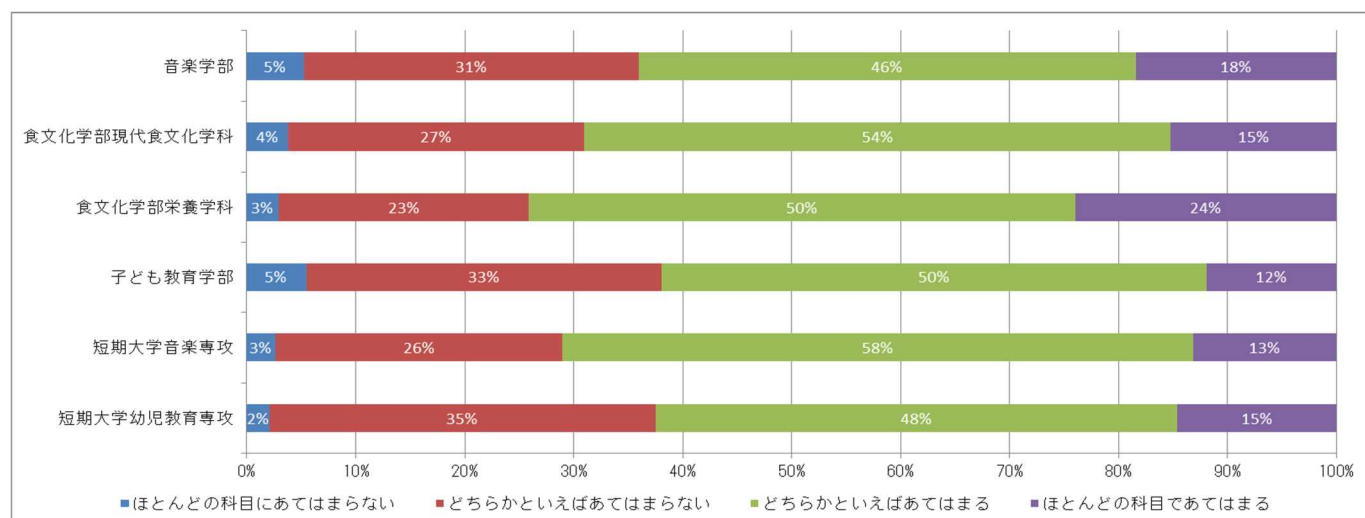
7) 各科目の学習目標が明確に示されている



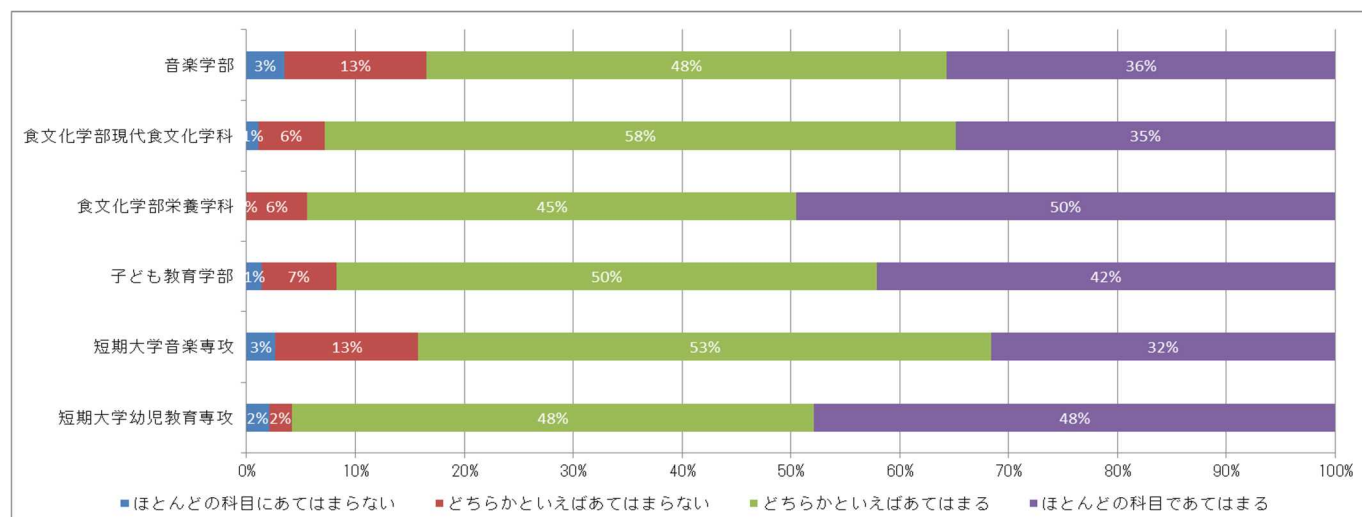
8) 各科目の学習目標と授業で出される課題につながりがある



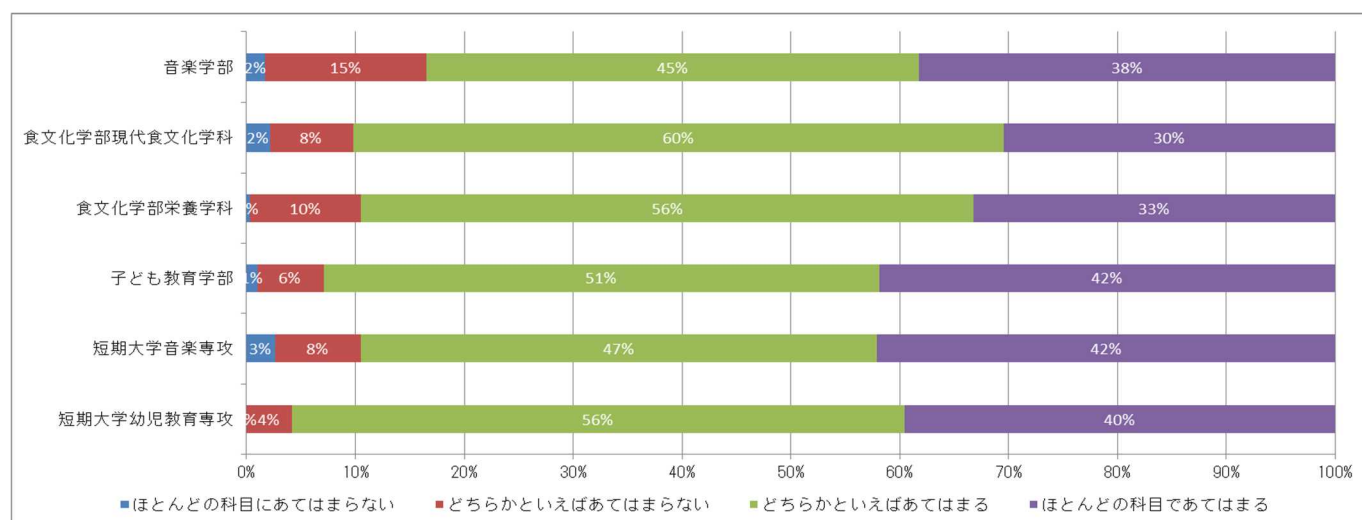
9) 休講がない



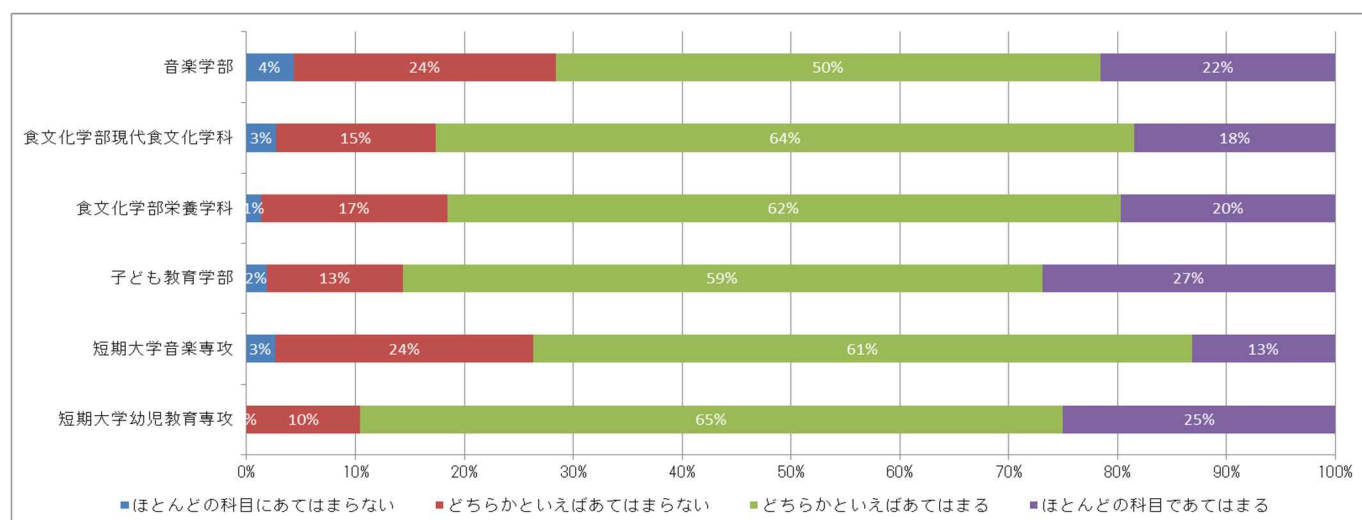
10) 興味がわからない授業でもきちんと出席する



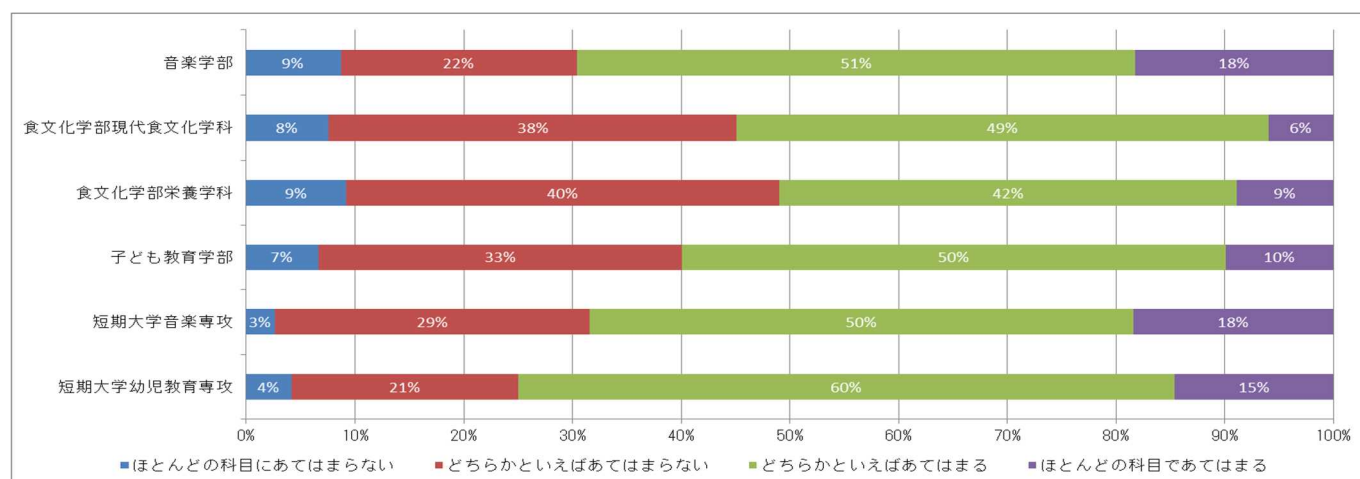
11) なるべく良い成績をとるようにしている



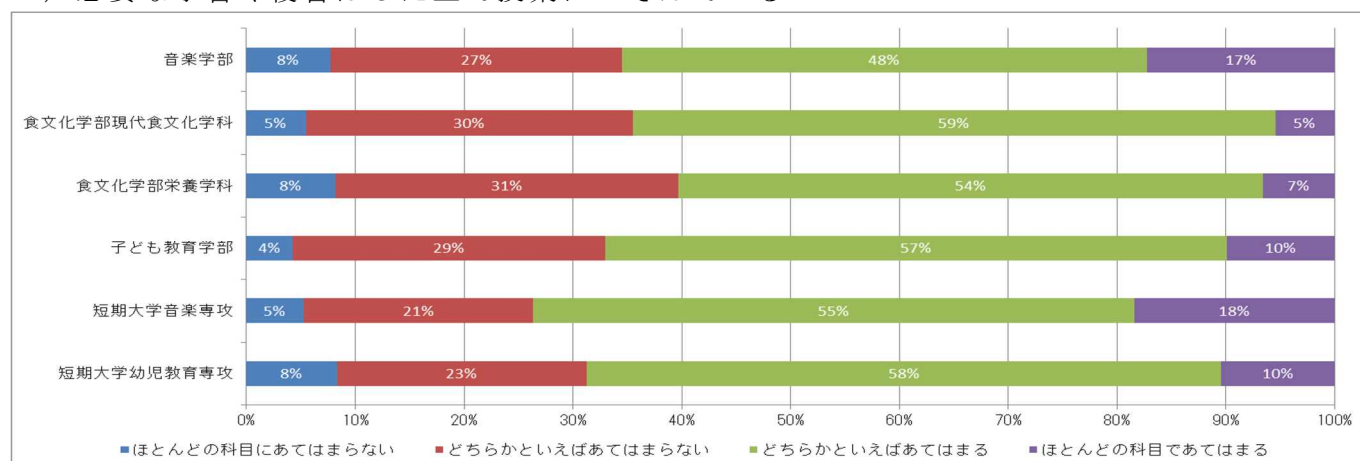
12) グループワーク（グループ活動）やディスカッション（議論・話し合い）に積極的に参加している



13) 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている



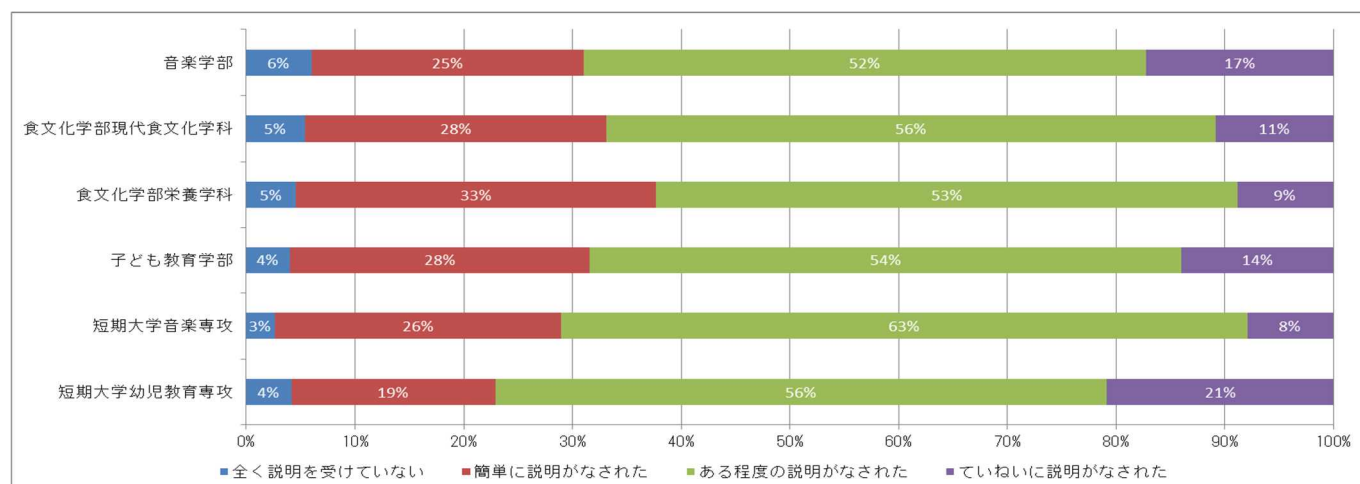
14) 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる



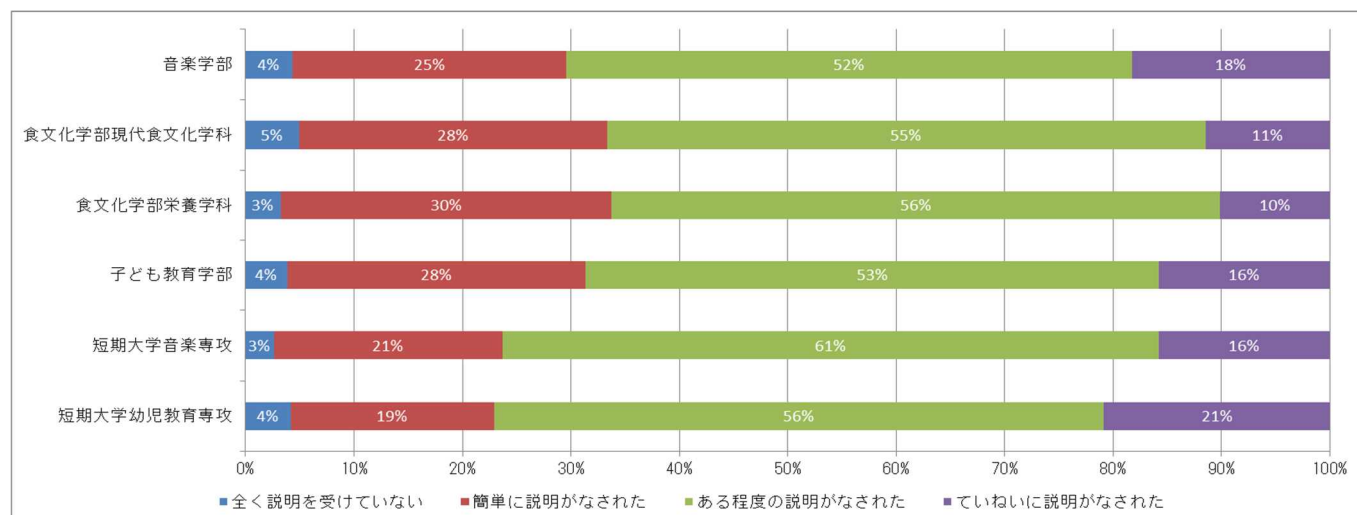
Q11の「1) 科目と科目のつながりが示されている」～「9) 休講がない」は授業評価アンケートで使用するべき質問項目である。Q11では教員の授業についての質問が多く、学生の学修行動との関係は薄い。

Q12. 以下のことについて、最近のガイダンスなどで説明を受けましたか。

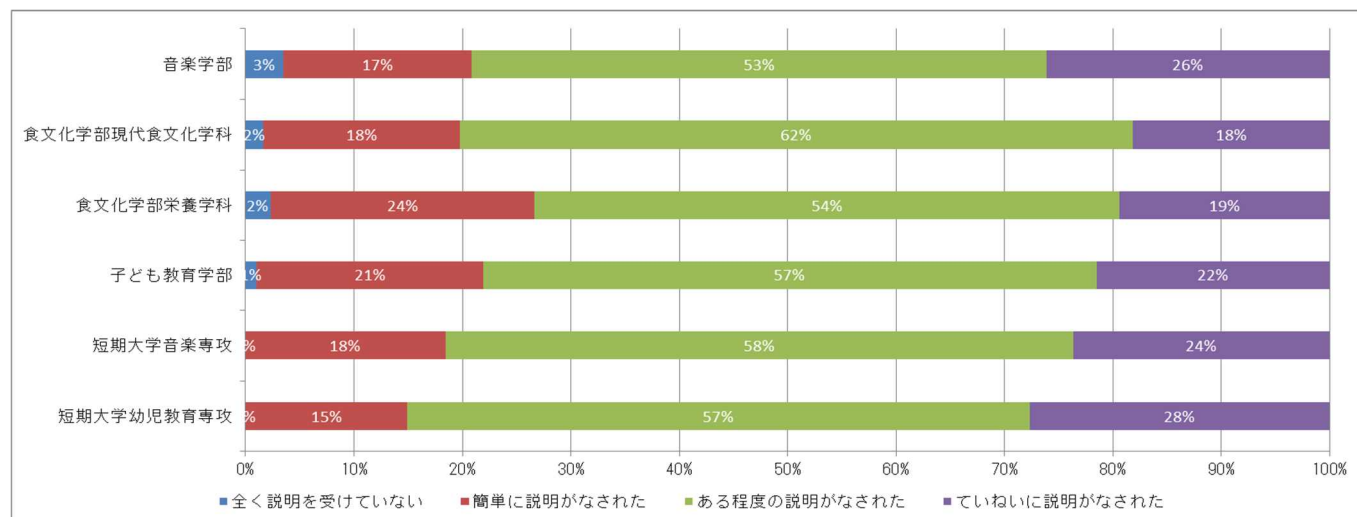
1) 大学の教育目標について



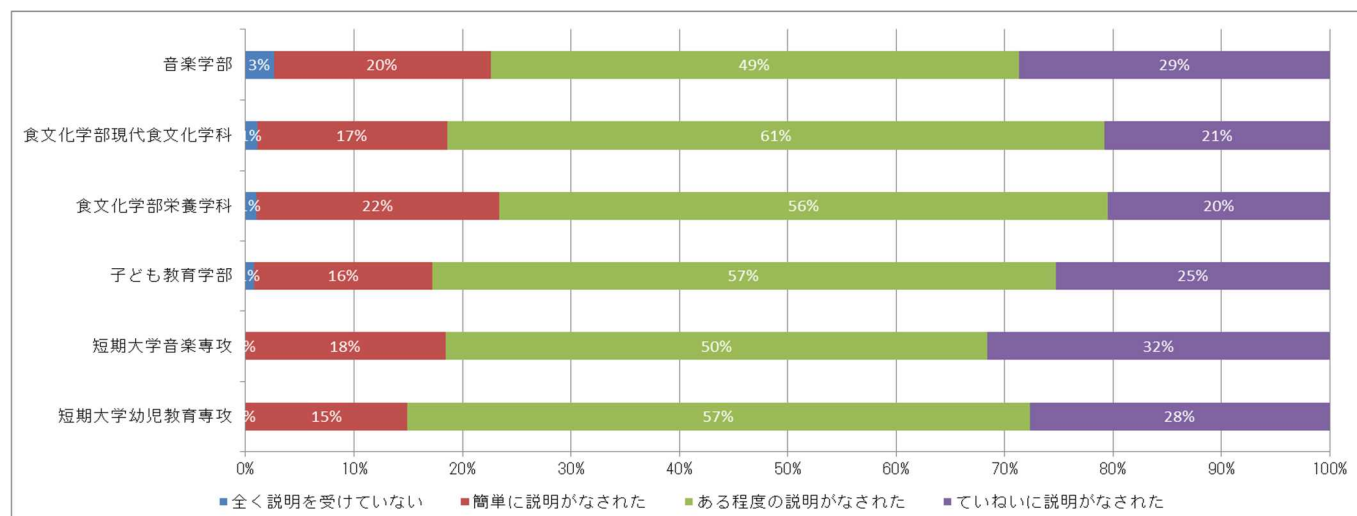
2) 学科の教育目標について



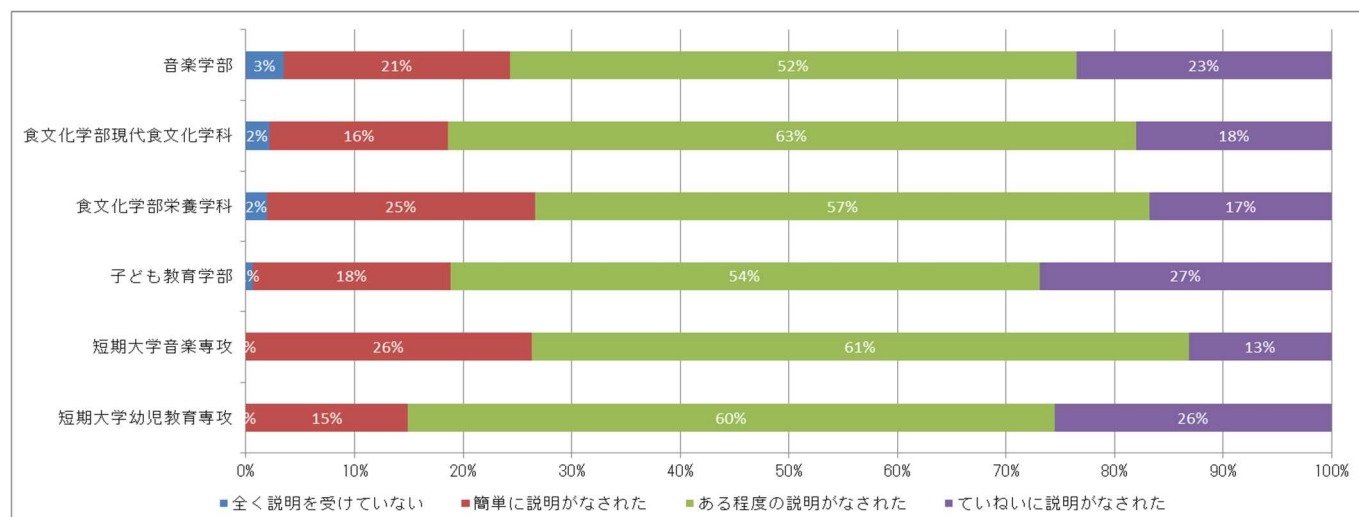
3) 科目履修の順序について



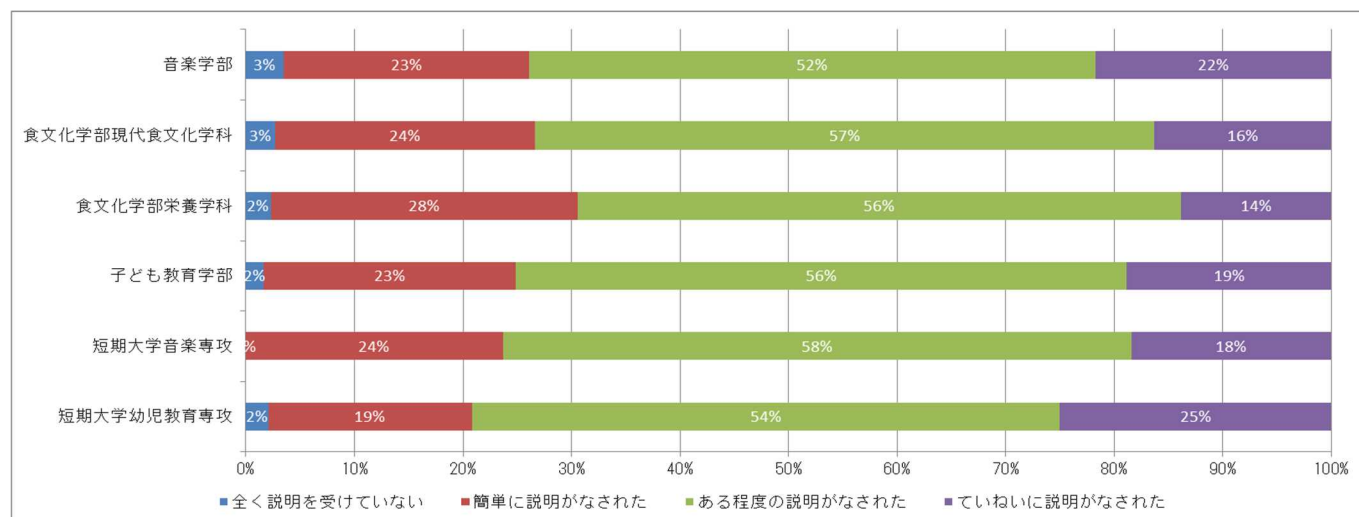
4) 履修に必要な情報について



5) 資格取得に関する情報について

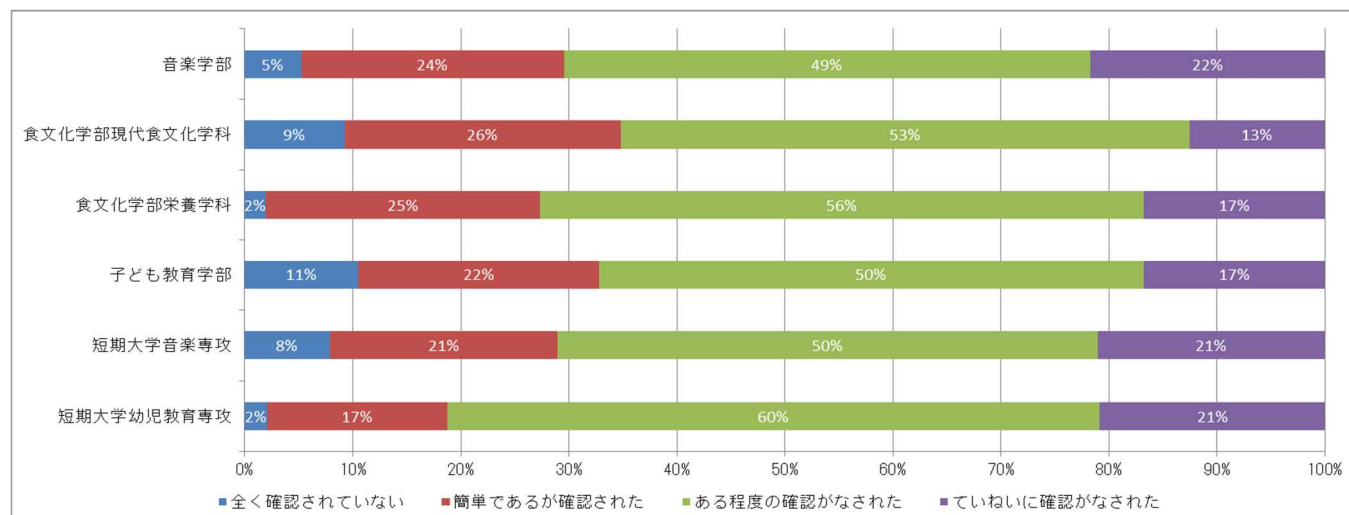


6) シラバスについて

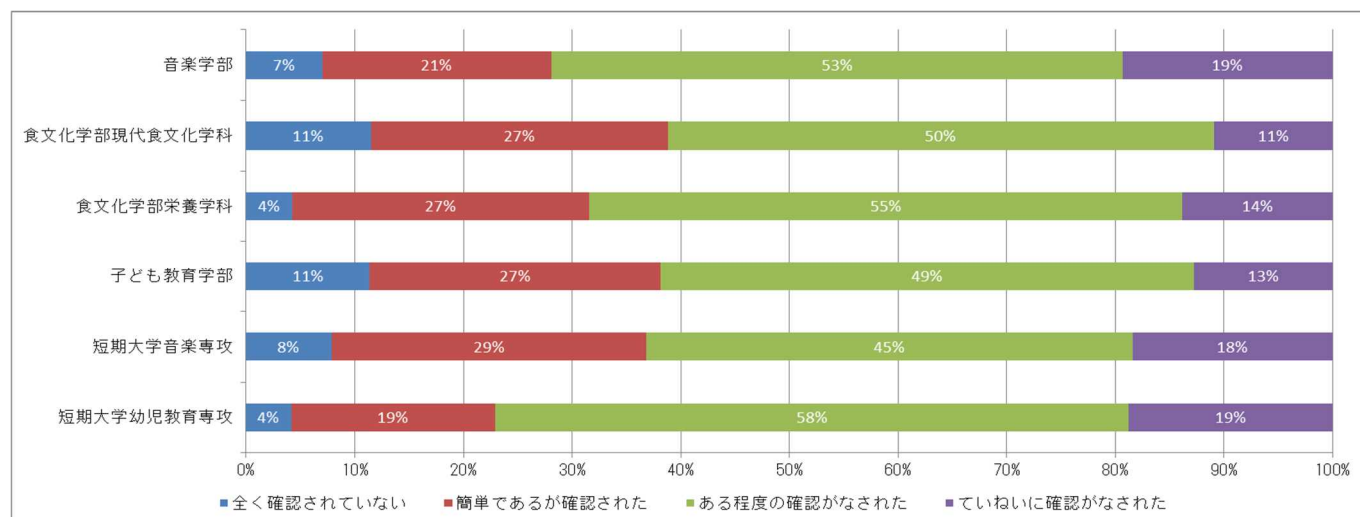


Q13. 以下のことについて、アドバイザーやゼミの教員から最近の面談などで確認がなされていますか。

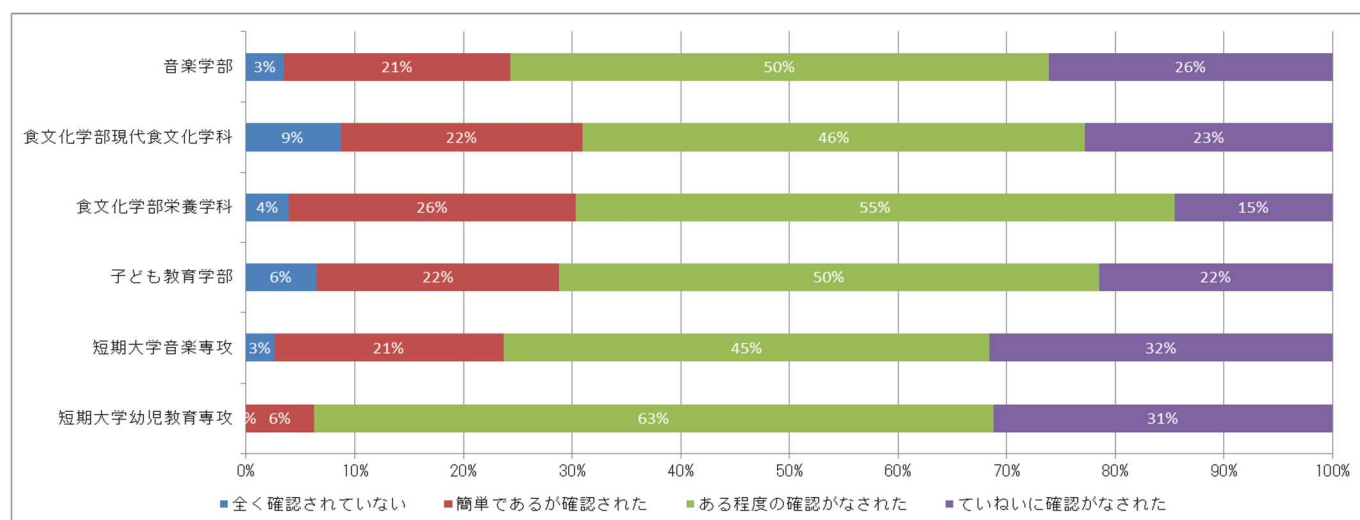
1) 科目の履修状況や成績について



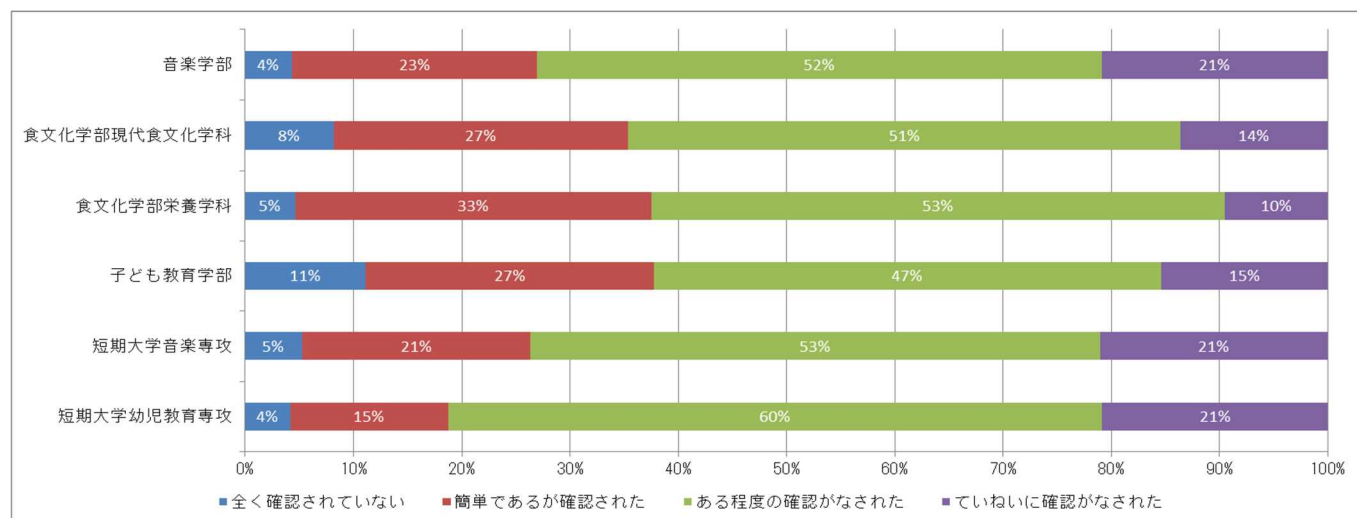
2) 学習の仕方について



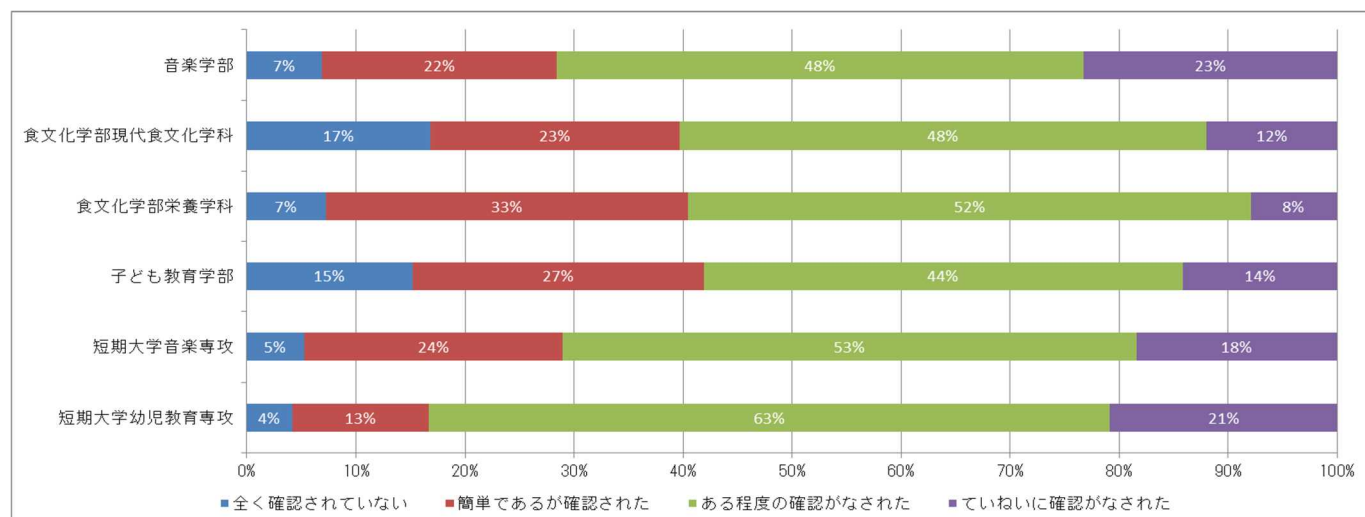
3) 卒業後の進路について



4) 大学生活上で起こる日常的な問題について



5) 大学生生活の継続を困難にするような個人的な問題について



Q13 の質問は、全般にアドバイザーやゼミナール担当教員による学生の状況確認の有無を尋ねる質問である。平成 29 年度の結果と比べると、全部局において「ていねいに確認がなされた」という回答が増加している。とはいえ、Q13 の質問項目は概してカリキュラムや教員のアドバイザー業務に関わるものである。学修行動に関する調査項目としてはいかがなものかと思う。